

第5章 自然科学分析

第1節 放射性炭素年代測定

1、はじめに

豊橋市に所在する浪ノ上1号墳、稲荷山2号墳および浪ノ上遺跡より検出された炭化材試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2、試料と方法

測定試料の情報、調製データは表6のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

3、結果

表7に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}C$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年代校正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に校正した年代範囲を、図110に暦年代校正結果をそれぞれ示す。暦年代校正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年代校正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年代校正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴C

表第8 測定資料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-8339	遺跡名:浪ノ上1号墳 遺構:墳丘下竪穴住居址N-SB1 層位:下層	試料の種類:炭化材(コナラ節) 試料の性状:不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-8340	遺跡名:稲荷山2号墳 遺構:墳丘下竪穴住居址I-SB1 層位:下層	試料の種類:炭化材(クリ) 試料の性状:不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-5126	遺跡名:浪ノ上1号墳 遺構:墳丘下竪穴住居址N-SB2 層位:南西部床面直上	試料の種類:炭化材(榊材) 試料の性状:最外年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-8341	遺跡名:浪ノ上遺跡 位置:B区 遺構:竪穴住居址B-SB18	試料の種類:炭化材(クリ) 試料の性状:最外年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-8342	遺跡名:浪ノ上遺跡 位置:C区 遺構:竪穴住居址C-SB7	試料の種類:炭化材(散孔材) 試料の性状:最外年輪以外・部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-8343	遺跡名:浪ノ上遺跡 位置:E-4区 遺構:竪穴住居址E-SB18	試料の種類:炭化材(クスギ節) 試料の性状:最外年輪以外・部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-8344	遺跡名:浪ノ上遺跡 位置:F-1区 遺構:竪穴住居址F-SB4	試料の種類:炭化材(クリ) 試料の性状:最外年輪以外・部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)

の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年校正の詳細は以下の通りである。

暦年校正

暦年校正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期5730 $\pm$ 40年) を校正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年校正にはOxCal3.10 (校正曲線データ: INTCAL04) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年校正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

4、考 察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年校正を行った。

2σ 暦年代範囲に着目して遺跡ごとに結果を整理する。 2σ 暦年代範囲は、95.4%の確率でこの範囲に年代が収まることを意味する。考古学的編年との対応関係については、西本編2007を参照した。浪ノ上1号墳の墳丘下堅穴住居址N-S B1より採取された炭化材 (PLD-8339) の 2σ 暦年代範囲

表第9 放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-8339	-27.91 $\pm$ 0.11	1925 $\pm$ 22	1925 $\pm$ 20	<u>50AD (47.6%)</u> 90AD 100AD (20.6%) 125AD	<u>20AD (95.4%)</u> 130AD
PLD-8340	-25.66 $\pm$ 0.19	2008 $\pm$ 22	2010 $\pm$ 20	<u>40BC (68.2%)</u> 20AD	<u>60BC (95.4%)</u> 60AD
PLD-5126	-26.13 $\pm$ 0.14	1833 $\pm$ 20	1833 $\pm$ 20	130AD (68.2%) 215AD	<u>120AD (95.4%)</u> 240AD
PLD-8341	-25.85 $\pm$ 0.15	1875 $\pm$ 22	1875 $\pm$ 20	<u>70AD (60.4%)</u> 140AD 150AD (2.2%) 170AD 190AD (5.6%) 210AD	<u>70AD (95.4%)</u> 220AD
PLD-8342	-26.22 $\pm$ 0.13	1736 $\pm$ 23	1735 $\pm$ 25	<u>255AD (68.2%)</u> 340AD	<u>240AD (95.4%)</u> 390AD
PLD-8343	-27.62 $\pm$ 0.16	1915 $\pm$ 22	1915 $\pm$ 20	<u>65AD (68.2%)</u> 125AD	20AD (3.4%) 40AD 50AD (92.0%) 130AD
PLD-8344	-25.82 $\pm$ 0.12	2125 $\pm$ 24	2125 $\pm$ 25	<u>200BC (68.2%)</u> 110BC	350BC (3.9%) 320BC 210BC (91.5%) 50BC

は、20 - 130 calAD (95.4%)である。これは1世紀前半から2世紀前半であり、弥生時代後期に相当する。なお、炭化材は部位不明であるため、内側の年輪である可能性がある。年輪が内側であれば、それに応じて枯死・伐採年よりも古い年代を示すと考えられる。したがって、この炭化材の年代測定結果は、木材の枯死・伐採年より古い年代を示している可能性がある。

稲荷山2号墳の墳丘下竪穴住居址I-SB1より採取された炭化材(PLD-8340)は、60calBC-60 calAD (95.4%)である。これは紀元前1世紀中頃から1世紀中頃であり、弥生時代中期から後期に相当する。なお、炭化材は部位不明であるため、内側の年輪である可能性がある。年輪が内側であれば、それに応じて枯死・伐採年よりも古い年代を示すと考えられる。したがって、この炭化材の年代測定結果は、木材の枯死・伐採年より古い年代を示している可能性がある。

浪ノ上1号墳墳丘下の竪穴住居址N-SB2より採取された炭化材(PLD-5126)は、120-240 calAD (95.4%)であり、2世紀前半から3世紀中頃であり、弥生時代後期に相当する。

浪ノ上遺跡の竪穴住居址B-SB18より採取された炭化材(PLD-8341)は、70-220 calAD (95.4%)である。これは1世紀後半から3世紀前半であり、弥生時代後期に相当する。

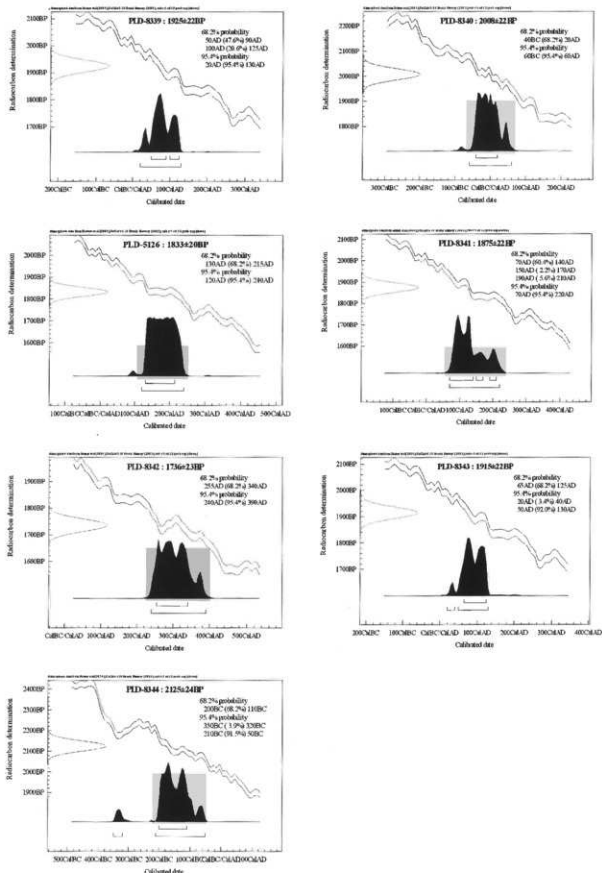
竪穴住居址C-SB7の炭化材(PLD-8342)は、240-390 calAD (95.4%)である。これは3世紀中頃から4世紀末であり、弥生時代の末から古墳時代前期に相当する。竪穴住居址E-SB18の炭化材(PLD-8343)は複数の暦年代範囲が得られており、確率の高い順に50-130 calAD (92.0%)および20-40 calAD (3.4%)である。これは1世紀前半から2世紀前半であり、特に1世紀中頃2世紀前半の確率が高い。弥生時代後期に相当する。

竪穴住居址F-SB4の炭化材(PLD-8344)は複数の暦年代範囲が得られており、確率の高い順に210-50 calBC (91.5%)および350-320 calBC (3.9%)である。これは紀元前4世紀中頃から紀元前1世紀中頃であり、特に紀元前3世紀初頭から紀元前1世紀中頃の確率が高い。弥生時代中期に相当する。

なお、竪穴住居址B-SB18の炭化材(PLD-8341)は最外年輪であり、枯死・伐採年を示していると考えられる。一方、竪穴住居址C-SB7・E-SB18・F-SB4の炭化材(PLD-8342~8344)は最外年輪以外の部位であり、枯死・伐採年より古い年代を示していると考えられる。

参考文献

- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の¹⁴C年代。3-20。
- 西本豊弘編 (2007) 新弥生時代のはじまり 第2巻 縄文時代から弥生時代へ。雄山閣, 185p。
- Ramsey, C.B. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.
- Ramsey, C.B. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hoog, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Ramsey, C.B., Reimer, R.W., Remmele, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. Radiocarbon, 46, 1029-1058.



挿図第109図 暦年校正結果

第2節 方形周溝墓A—SZ1土壌内埋土のリン・カルシウム分析

1、はじめに

豊橋市牛川町に所在する浪ノ上遺跡の調査では、方形周溝墓が検出され、土壌も検出された。

ここでは、この土壌内埋土を対象として、骨成分の有無を調べるためにリン・カルシウム分析を行った。

2、試料と方法

試料は方形周溝墓A—SZ1の土壌内埋土1試料である(表10)。埋土堆積物は、礫混じり砂質シルトである。

試料は、約20g程度採取して乾燥させた後、礫を取り除きセラミック乳鉢で軽く粉砕した。粉砕した試料は、塩化ビニール製リングに充填した後、油圧プレス機を用いて20tプレスをして測定用ブリケットを作成した。

リン・カルシウム分析は、元素マッピング分析を行った後、リン(P)マッピング画像において輝度(濃度)の高い位置を各5箇所選定して点分析を行った。

測定は、X線分析顕微鏡(株堀場製作所製 XGT-5000Type II)を用いた。元素マッピングの測定条件は、X線導管径100 μ m、電圧50KV、電流自動設定、測定時間10,000Secである。点分析の測定条件は、X線導管径100 μ m、電圧50KV、電流自動設定、測定時間500Secである。定量計算は、標準試料を用いないFP(ファンダメンタルパラメータ)法で半定量分析を行った。

3、結果および考察

人間を含め動物の骨や歯を構成する主要な無機成分は、水酸塩灰石(ハイドロキシアパタイト： $\text{Ca}_5(\text{OH})(\text{PO}_4)_3$)からなり、リン(P)とカルシウム(Ca)がほぼ等量含まれている。

土壌中の分析値から、骨成分が残存しているかどうかの判定は、リンおよびカルシウムの両元素がほぼ等量で高い値であることが必要と思われる。

貝殻の場合は、炭酸カルシウム(CaCO_3)から構成されていることから、貝殻片が残留していればカルシウムが高く検出される。なお、カルシウムは、長石類や輝石類(例えば斜長石の端成分である灰長石Anorthite ($\text{CaAl}_2\text{Si}_2\text{O}_8$)、普通輝石Augite ($(\text{Ca}, \text{Na})(\text{Mg}, \text{Fe}, \text{Al})(\text{Si}, \text{Al})_2\text{O}_6$)として普通に含まれる元素である(黒田・諏訪, 1989)。リン・カルシウム分析により骨成分の有無を判断する場合、少なくともリン濃度が比較試料に比べて高い値であることが目安となる。

元素マッピング分析では、リン濃度のやや高い部分が複数箇所検出された(図1)。検出された部

表第10 土壌内埋土資料とその特徴

分析No.	試料	遺構	調査区	色調	堆積物
1	土壌埋土	方形周溝墓A—SZ1	A区	にぶい黄色(2.5Y 6/3)	礫混じり砂質シルト

表第11 リン濃度の高い位置における点分析結果 (単位: %)

分析No.	遺構	点No.	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	Cr ₂ O ₃	MnO ₂	Fe ₂ O ₃	CuO	ZnO	Rb ₂ O	SrO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂	Total
1	方形周溝墓 A-SZ1土壌	1	0.78	10.81	77.94	0.18	0.27	1.04	0.25	1.56	0.02	0.05	6.99	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.04	100.00
		2	0.72	18.69	70.63	0.05	0.29	1.19	0.18	1.66	0.02	0.05	6.42	0.02	0.01	0.01	0.01	0.00	0.03	99.98
		3	0.00	21.26	66.16	0.16	0.37	1.39	0.26	1.94	0.03	0.07	8.28	0.02	0.02	0.01	0.01	0.00	0.03	100.01
		4	0.44	22.57	65.28	0.23	0.31	1.43	0.26	1.84	0.02	0.06	7.49	0.03	0.01	0.01	0.01	0.00	0.03	100.02
		5	0.97	21.50	65.14	0.23	0.31	1.33	0.30	1.81	0.03	0.06	8.20	0.03	0.01	0.01	0.01	0.00	0.05	99.99
統計値	最小値		0.00	10.81	65.14	0.05	0.27	1.04	0.18	1.56	0.02	0.05	6.42	0.02	0.01	0.01	0.01	0.00	0.03	
	最大値		0.97	22.57	77.97	0.23	0.37	1.43	0.30	1.94	0.03	0.07	8.28	0.03	0.02	0.01	0.01	0.01	0.05	

分について点分析を行った結果、リンが最大0.23% (点No.4およびNo.5) 検出され、カルシウムは最大0.30% (点No.5) 点検出された (表2)。

リン濃度について見ると、点No.4は測定誤差が±0.11% (2σ)、点No.5は測定誤差が±0.09% (2σ) であることから、いずれの分析値も精度的には問題のない値である。しかし、骨質の分析値としてはリンおよびカルシウム濃度はいずれも低い値であり、骨質である可能性は低いと考えられる。

4、おわりに

方形周溝墓の土壌埋土の蛍光X線分析装置によるリン・カルシウム分析を行った結果、リンおよびカルシウム濃度はいずれも低い値であり、骨質である可能性は低い結果であった。

リン・カルシウム分析結果から、この土壌が墓である可能性は低いと考えられる。

引用文献

黒田吉益・諏訪兼位 (1989) 偏光顕微鏡と岩石鉱物 [第2版]、共立出版、343p.

第3節 土器の胎土材料

1、はじめに

土器の胎土分析は、一般的には製作地の推定を目的として行われる場合が多い。しかしながら、例えば胎土中に含まれる岩石片の特徴から、これらの砂粒物の示す地域がいずれであるかを推定することは容易ではない。

土器胎土は、基本材料として粘土と砂粒などの混和材から構成されるが、粘土材料は比較的良質な粘土層から採取されたことが、粘土採掘坑の調査から推察される (藤根・今村、2001)。

一方、混和材としての砂粒は、これら粘土採取の際に粘土層の上下層に分布する砂層などを採取したことが想定される。東海地域には、弥生時代後期の赤彩を施したバレススタイル土器が知られているが、これら3分の1程度の土器では、砂粒物として火山ガラスが多量に含まれるが (藤根、1996; 車崎ほか、1996)、これら火山ガラスは、粘土採取の際に上下層に分布したテフラ層と考えられる。

このように、胎土中の砂粒混和材は、地層中の砂の特徴である可能性が高く、現河川砂とは大きく異なることから、現在の河川砂との比較では問題が大きい。こうしたことから、以前に堆積した段丘堆積物の砂層などとの比較検討が必要と思われる。土器胎土については、第一に土器に使用した粘土や混和材がどのような特徴を持つかを十分理解することが重要であり、こうした特徴を持つと思われる粘土層や砂層などと比較検討すべきと考える。

豊橋市牛川町に所在する浪ノ上古墳および稲荷山古墳の調査では、周溝および墳丘下住居跡が検出され、土器が出土している。

ここでは、古墳の周溝および墳丘下住居跡から出土した土器について、土器の胎土材料の粘土および砂粒の特徴について調べた。

2、試料と方法

試料は、浪ノ上古墳および稲荷山古墳の周溝および墳丘下住居跡から出土した土器5試料である(表10)。

これら土器は、次に手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片を作成した。

(1) 試料は、始めに岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥させた。全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドガラスに接着し平面を作成した後、同様にしてその平面の固化処理を行った。

(2) さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドガラスに接着した。

(3) その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

各試料は、偏光顕微鏡を用いて、薄片前面について微化石類(珪藻化石、骨針化石、胞子化石)や大型粒子などの特徴について観察・記載を行った。なお、ここで採用した各分類群の記載とその特徴などは以下の通りである。

[珪藻化石]

珪酸質の殻を持つ微小な藻類で、その大きさは10～数百 μm 程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉(1998)や安藤(1990)によって環境指標種群が設定され、具体的な堆積環境の復元が行われている。ここでは、種あるいは

表第12 胎土材料を検討した土師器とその特徴

試料No	遺跡	遺物No	遺構	位置	胎土の色調
1	浪ノ上1号墳	高杯74	南東周溝2区	下層	にぶい橙色(7.5YR 6/4)
2		赤彩壺197	南西周溝1区	下層	黄灰色(2.5Y 7/2)
3		高杯248	N-SB 1	?	橙色(5YR 6/6)
4		パレス壺125	南西周溝1区	下層	にぶい橙色(7.5YR 7/4)
5	稲荷山2号墳	台付甕32	I-SB 1	下層	黄灰色(2.5Y 7/2)

属が同定できるものについて珪藻化石（海水種、淡水種）と分類し、同定できないものは珪藻化石（不明種）とした。なお、各胎土中の珪藻化石は、その詳細を記載した。

〔植物珪酸体化石〕

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約10～50 μ m前後である。一般的にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や垂鈴型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

〔孢子化石〕

孢子状粒子は、珪酸質と思われる直糸10～30 μ m程度の小型無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中で見られるが、土壤中に多く含まれる。

〔石英・長石類〕

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。

〔長石類〕

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶（主として平行な縞）を示すものと累帯構造（同心円状の縞）を示すものに細分される（これらの縞は組成の違いを反映している）。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（パーサイト構造）と格子状構造（微斜長石構造）を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶（微文象構造という）である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶（斑晶）の斜長石にみられることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石は花崗岩などのSiO₂%の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。

ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晩期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

〔雲母類〕

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開（規則正しい割れ目）にそって板状に剥がれ易い。薄片土では長柱状や層状に見える場合が多い。花崗岩などのSiO₂%の多い火成岩に普遍的に産し、泥質、砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。

〔輝石岩〕

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的に淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。SiO₂%が少ない深成岩、SiO₂%が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなど的高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてSiO₂%が中間から少ない火山岩によく見られ、SiO₂%の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。

〔角閃石類〕

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃緑岩のようなSiO₂%が中間的な深成岩や斑れい岩などに産する。

[ガラス質]

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄くて湾曲したガラス（バブル・ウォール型）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山の噴出物と考えられる。

[複合石英類]

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒なものから細粒なものまで様々である。ここでは、便宜的に個々の石英粒子の粒径が約0.01mm未満のものを微細、0.01～0.05mmのものを小型、0.05～0.1mmのものを中型、0.1mm以上のものを大型と分類した。なお、角閃石類などの有色鉱物から有色鉱物から構成される粒子は、複合鉱物類（角閃石類など）とした。

[砂岩質・泥岩質]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらの間に基質の部分をもつもので、含まれる粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質とし、約0.06mm未満のものを泥岩質とする。

[凝灰岩質]

凝灰岩質は、ガラスや鉱物、火山岩片などの火山碎屑物などから構成され、非晶質でモザイクな文様構造を示す。起源となる火山により鉱物組成は変わる。

[斑晶質・完晶質]

斑晶質は斑晶（鉱物の結晶）状の部分と石基状のガラス質の部分が明瞭に確認できるもの、完晶質は、ほとんどが結晶からなり石基の部分が見られないか、ごくわずかのものをいう。これらの斑晶質、完晶質の粒子は主として玄武岩、安山岩、デイサイト、流紋岩などの火山岩類を起源とする可能性が高い。

[流紋岩質]

斑晶構造を示す岩石のうち、灰白色の石基中に無色の石英や長石類の斑晶からなる岩石は、流紋岩質とした。なお、小岩片であるため流理構造は必ずしも明瞭ではない。

[片岩類]

複合石英類は石英の集合している粒子で、これら粒子が片理状組織を示す場合は片岩類とした。

[不透明・不明]

下方ボーラーのみ、直交ボーラーのいずれにおいても不透明なものや、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明とする。

3、結果

土器胎土中の微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や0.1mm前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。なお、表2の微化石類および砂粒の出現頻度は、◎が特に多い、○が多い、△が少ない、空欄は検出させないことを示す。

Na1：50～120 μ m、最大粒径150 μ m、細粒質胎土。石英・長石類＞雲母類＞角閃石類、単斜輝石、

ジルコン、植物珪酸体化石少量

№2: 70–700 μm 、最大粒径1.8mm。石英・長石類>複合石英類、斜長石（双晶）、複合石英類（微細）—ホルンフェルス含む、角閃石類、凝灰岩質、ガラス質、雲母類、ジルコン、単斜輝石、珪藻化石（淡水種 *Eunotia biareofera*、*Pinnularia* 属、*Cymbella* 属、不明種）、胞子化石、植物珪酸体化石

№3: 100 μm –1.1mm、最大粒径2.4mm。石英・長石類>複合石英類>複合石英類（微細）、流紋岩質、角閃石類、雲母類、単斜輝石、ジルコン、植物珪酸体化石少量

№4: 80–700 μm 、最大粒径2.1mm。石英・長石類>複合石英類>複合石英類（微細）—ホルンフェルス含む、流紋岩質、斜長石（双晶）、角閃石類、斜方輝石、ジルコン、胞子化石、植物珪酸体化石多い

№5: 90–750 μm 、最大粒径1.2mm。石英・長石類>複合石英類>雲母類>複合石英類（微細）—ホルンフェルス含む>角閃石類、流紋岩質、斜方輝石、単斜輝石、斜長石（双晶）、ジルコン、胞子化石、植物珪酸体化石少量

4、考 察

(1) 微化石類による材料粘土の分類

検討した土器胎土中には、その薄片全面の観察から、珪藻化石や骨針化石などが検出された。これら微化石類の大きさは、珪藻化石が10–数100 μm （実際観察される珪藻化石は大きいもので150 μm 程度）、骨針化石が10–100 μm 前後である（植物珪酸体化石が10–50 μm 前後）。一方、碎屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9 μm 以下、シルトが約3.9–62.5 μm 、砂が62.5 μm –2mmである（地学団体研究会・地学事典編集委員会編、1981）。このことから、植物珪酸体化石を除いた微化石類は胎土の材料となる粘土中に含まれるものと考えられ、その粘土の起源を知るのに有効な指標になると考える。なお、植物珪酸体化石は、堆積物中に含まれているものの、土器の製作場では灰質が多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を指標する可能性は低いと思われる。

検討した胎土は、粘土部分に含まれる微化石類の有無により、a) 淡水成粘土を用いた胎土、b) その他粘土を用いた胎土、に分類された。以下では、分類された粘土の特徴について述べる。

a) 淡水成粘土を用いた胎土（1試料）

この胎土中には、淡水種珪藻化石が特徴的に含まれていた。淡水種の *Pinnularia* 属、*Cymbella* 属、*Eunotia* 属のほか、淡水種と思われる珪藻化石の破片が多く含まれ、沼沢地などで堆積した粘土と考えられる。

b) その他粘土を用いた胎土（4試料）

これら胎土中には、珪藻化石や骨針化石などの微化石類は含まれていなかった。

遺跡周辺では、第四系の低位段丘構成層、中段丘構成層の小坂井泥層・小坂井礫層、高位段丘構成層などが分布する（図1）。このうち小坂井泥層は貝化石を含む海成層である（日本の地質〔中部地方Ⅱ〕編集委員会編、1998）。

(2) 胎土中の砂粒組成による分類

ここで用いた岩石分類群は、構成する鉱物種や岩石片の構造的特徴から設定した分類群であるが、

表第13 土器胎土および粘土塊中の粘土および砂粒の特徴

試料 No.	遺跡	遺物No.	粘土の特徴					砂粒の特徴							鉱物の特徴				植物 珪酸化石	特徴			
			種類	海水堆積 深部化石	淡水堆積 深部化石	不明堆積 深部化石	骨針化石	磁子化石	分類	a 片岩類	b 深成岩類	c 堆積岩類	d 火山岩類	e 凝灰岩類	f 流紋岩類	g テフラ	ジルコン	角閃石類			輝石類	雲母類	
1	浪ノ上1号墳	高杯74	その他						(B)			△					△	○	△	◎	△		
2		赤彩壺197	淡水成	○	○		○	B		○	△					△	△	△	△	△	○	ホルンフェルス含む	
3		高杯248	その他						Bc	△	○				△		△	○	△	○	△		
4		ハルス壺125	その他					△	B		○	△						△	△	△	○	○	ホルンフェルス含む
5		稲荷山2号墳	台付壺132	その他					△	Bc		○	○			△		△	△	△	◎	△	ホルンフェルス含む

地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。このため、粘土塊や土器胎土中の鉱物、岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。

ここでは、比較的大型の砂粒について起源岩石の推定を行った(表11)。岩石の推定は、複合石英類または複合鉱物類が深成岩類、砂岩質あるいは複合石英類(微細)が堆積岩類、流紋岩質が流紋岩類、ガラス質がテフラ(火山噴出物)である。さらに、推定した起源岩石は、表12の組み合わせに従って分類した。

検討した土器胎土中の砂粒組成は、深成岩類を主としたB群(3胎土)、深成岩類を主として堆積岩類などを伴うBc群(2胎土)に分類された(表11)。なお、試料No.1の土器は細粒質胎土からなり砂粒物が少ないため、砂粒組成は鉱物組成から推定した。

遺跡周辺では、第四系堆積物のほか、領家帯の構成岩類としての花こう岩類、三波川帯の構成岩類としての片岩類、秩父累帯の構成岩類としての中・古生層の堆積岩類が分布する(挿図第111)。なお、豊川上流域には、新第三系の流紋岩や安山岩などの設楽火山岩類が分布する(日本の地質『中部地方Ⅱ』編集委員会編、1988)。

(3) 胎土材料の特徴

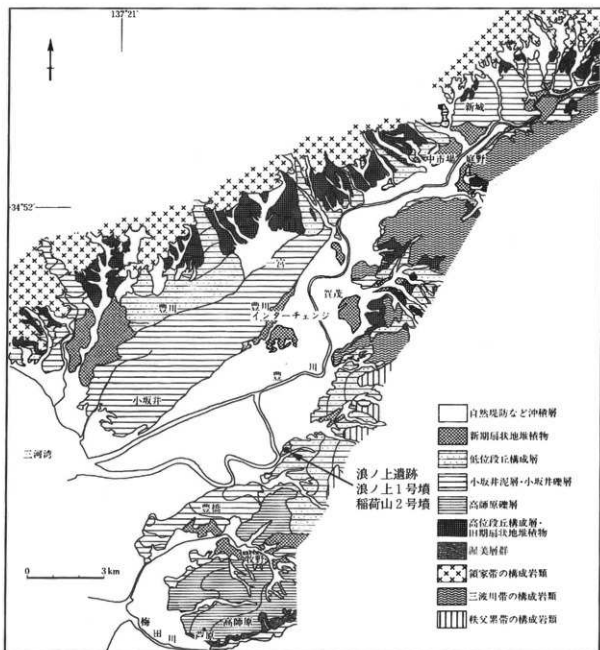
表第14 土器胎土および粘土塊中の岩石片と組み合わせ

			第1出現類						
			A	B	C	D	E	F	G
			片岩類	深成岩類	堆積岩類	火山岩類	凝灰岩類	流紋岩類	テフラ
第2出現群	a	片石類		Ba	Ca	Da	Ea	Fa	Ga
	b	深成岩類	Ab		Cb	Db	Eb	Fb	Gb
	c	堆積岩類	Ac	Bc		Dc	Ec	Fc	Gc
	d	火山岩類	Ad	Bd	Cd		Ed	Fd	Gd
	e	凝灰岩類	Ae	Be	Ce	De		Fe	Ge
	f	流紋岩類	Af	Bf	Cf	Df	Ef		Gf
	g	テフラ	Ag	Bg	Cg	Dg	Eg	Fg	

土器胎土の特徴を調べた結果、粘土は淡水成粘土とその他粘土に分類された。一方、砂粒組成は、深成岩類を主としたB群、深成岩類を主として堆積岩類などを伴うBc類の2群に分類された。

土器の胎土材料は、多くが地層粘土および挟在する砂層から採取して製作されている場合が多いと考えられるが、地層粘土の特徴あるいは挟在する砂層の砂粒組成は、堆積した時代や堆積した地域において異なることが考えられる。

粘土材料は、試料No.2の赤彩壺119は沼沢地成と考えられる淡水成粘土であったが、その他の土器は珪藻化石などの微化石類を含まない粘土が利用されていた。こうした粘土は、以下に述べる岩石組成が在地組成を示すことから、周辺に分布する地層中の粘土を利用したものと考えられる。



挿図第110 豊川中・下流域の地質図（日本の地質『中部地方Ⅱ』編集委員会編，1988より引用）

試料No.1の土器は細粒質粘土であるため砂粒組成は明確でないが、その他の土器胎土中の砂粒組成は、深成岩類を主体としたB群または堆積岩類を伴うBc群であった。なお、試料No.2やNo.4あるいはNo.5では、泥質岩が再結晶したホルンフェルス様の岩石を共通して含み、No.3～No.5では流紋岩類を含んでいた。対象とした土器中の砂粒組成は、内田占窯の埴輪胎土中の砂粒組成（埴輪胎土および埴輪窯壁材の材料分析を参照）とほぼ同じであることから、在地の砂粒組成と推定される。

5、おわりに

土器胎土の特徴を調べた結果、粘土は2種類の粘土に分類され、微化石類を含まないその他粘土の利用が目立つ。また、砂粒組成は、深成岩類を主としたB群、深成岩類を主として堆積岩類などを伴うBc群の2群に分類された。

土器胎土の粘土及び砂粒物などの材料は、今後該当地域堆積物の精査を行うことにより、その実態が明らかになるものと考えている。

引用文献

- 安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用, 東北地理, 42, 2, 73, -88, 地学団体研究会・地学事典編集委員会編(1981)増補改訂 地学事典, 平凡社, 1612p.
- 藤根 久(1998)東海地域(伊勢～三河湾周辺)の弥生および古墳土器の材料, 第6回東海考古学フォーラム岐阜大会, 土器・墓が語る, 108-117.
- 藤根 久・村美智子(2001)第3節 土器の胎土材料と粘土採掘坑対象堆積物の特徴, 波志江中宿遺跡, 日本道路公団・伊勢崎市・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団, 26-277.
- 小林正人(1988)珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用, 第四紀研究, 27, 1-20
- 車崎正彦・松本 完・藤根 久・菱田 量・古橋美智子(1996)(39)土器胎土の材料—粘土の起源を中心に—, 日本考古学協会第62回大会研究発表要旨, 153-156.
- 日本の地質『中部地方Ⅱ』編集委員会編(1998)日本の地質5 中部地方Ⅱ, 共立出版, 310p.

第4節 浪ノ上1号墳出土土器の赤色顔料分析

1、はじめに

浪ノ上1号墳より出土した土器に塗彩されている赤色顔料について蛍光X線分析を行い、顔料の種類を検討した。

2、試料と方法

分析対象資料は、浪ノ上1号墳より出土した土器2点で、時期は弥生時代後期と考えられ、いずれも外面に赤色塗料が塗彩されている(表13、図版1・2左上)。分析に際して、セロハンテープを土器表面に貼り付けて剥がすという形で顔料を極少量採取して分析試料とした。

分析装置は(堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000TypeⅡ)を使用した。この装置はエネルギー分散

表第15 分析対象資料

分析No.	器種	地区名	遺構名	層位名	遺物番号
No 1	赤彩壺	浪ノ上1号墳	南西周溝1区	下層	146
No 2	バレス壺	浪ノ上1号墳	南西周溝1区	下層	125

型蛍光X線分析装置である。装置の仕様は、X線管が最大50kV・1mAのRhターゲット、X線ビーム径が100 μ mまたは10 μ m、検出器は高純度Si検出器（Xerophy）で、試料室の大きさは350×400×40mmである。検出可能元素はNa～Uであるが、Na、Mgといった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪いので、試料中に少量含む程度ではピークを検出し難く、検出できてもその定量値はかなり誤差が大きい。

本分析での測定条件は、50kV、1.00mA（自動設定による）、ビーム径100 μ m、測定時間500s、パルス処理時間P4（分解能を重視した設定）に設定した。定量分析は標準試料を用いないFP（ファンダメンタル・パラメーター）法による半定量分析を装置付属ソフトで行った。そのため、定量値は誤差を大きめに見積もっておく必要がある。

3、結 果

分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析結果を図版1・2に示す。2点とも主にSi、Al、Feが多く検出され、また微量成分としては、S、K、Ca、Ti、Mnが検出された。

4、考 察

弥生時代後期に使用されていた赤色顔料としては、朱（水銀朱）とベンガラに大別される。水銀朱は、硫化水銀HgSで鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄Fe₂O₃（鉱物名赤鉄鉱）を指すが、広義には鉄（Ⅲ）の発色に伴う赤色顔料全般を指し（成瀬、2004）、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約1 μ mのパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告されている。これは鉄バクテリアを起源とすることが判明しており（岡田、1997）、含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す（成瀬、1998）。

当試料からは、いずれもHgは検出されず、Feがよく検出されていることから、赤い発色はFeによるものであると推定できる。さらに、顕微鏡下で観察したところ両者ともパイプ状の粒子が観察された（図版1・2右下）。このことから、使用されている顔料は、いわゆるパイプ状ベンガラであるといえる。

5、おわりに

浪ノ上1号墳より出土した土器に塗彩されている赤色顔料について分析した結果、Feが多く検出され、さらにパイプ状粒子が観察されたことから、使用されている赤色顔料はベンガラである。

引用文献

成瀬正和 (1998) 縄文時代の赤色顔料Ⅰー赤彩土器ー, 考古学ジャーナルNo.438, 10-14, ニューサイエンス社

成瀬正和 (2004) 正倉院宝物に用いられた無機顔料, 正倉院紀要, 13-61, 宮内庁正倉院事務所.

岡田文男 (1997) パイプ状ベンガラ粒子の復元, 日本文化財科学会第14回大会研究発表 要旨集, 38-39.

第6章 考察

第1節 浪ノ上遺跡の押型文土器と石器

浪ノ上遺跡のE-SB19と周辺遺構から出土した押型文土器の多くは、胎土に砂粒を含むものか、密接施文を施した土器であった。このため、水に浸すと文様が剥がれる状態のものも見られた。これに対して燃糸文土器は胎土に雲母を含む硬い土器であった。ここでは、押型文土器を中心とした文様形態・押捺状態などを踏まえた観察と、原体復元実験から得られた結果を紹介する。また石器については押型文土器に伴ったものについて述べることにした。

1、押型文土器（挿図第111～第113）

（1）回転押型文の意匠（挿図第111）

浪ノ上遺跡から出土した押型文土器は密接した押捺回転を基本とし、凹部を1単位としたネガティブ文様で構成されている。この文様を器面に押捺配置した場合、格子文・斜格子文・楕円文・山形文などと把握される文様形態となる。本遺跡のE-SB19の床面から出土した単位文様の検出率は90点中、押型文のA類が5.6%、B1類・B2類が12.0%、C1類・C2類が58.0%、D1類・D2類が10.0%、E1類が1.1%である。F類の燃糸文は13.3%であった。過半数をしめる文様は長い平行四辺形のC1類・C2類であった。これらの文様をもつ土器は新城市川路萩平（C地点）遺跡の報告（註1）で包含層から出土した押型文土器と説明される「比較的単純であり、バラエティーに乏しい」土器と同類である。しかし視点を変えて文様観察と原体復元を試みると意外な情報が存在した。ここでは各単位文様と、その集合体である文様の企画性についてふれてみたい。

挿図第111の1は、平行する線と交わる平行線の角度と長さによってA類、B1類・B2類、C1類・C2類などの文様が出現する模式図である。具体的には原体復元図の挿図第111の2の様に、縦線と横線を組み合わせた横位文様をもつA類、縦線の数と螺旋線の幅によって決まる斜位文様をもつB1類・B2類、C1類・C2類である。竪穴住居址E-SB19でこれらの各類を合わせた率は75.6%と、主体を成す土器である。またA類と同じように楕円の幅を横線と見立てた文様のD1類・D2類と、山の頂点をむすぶ線を横線と見立てた文様のE1類と、集石遺構および黒色有機土から出土したE2類の文様がある。このE2類の山形文はC1類の文様を互い違いに配置したものであり、主体をしめる文様の影響を受けたものであろう。F類の燃糸文と主体をしめる押型文との共通性は、B1類・B2類・C1類・C2類にある原体の螺旋構造である。また本遺跡出土の格子目文・斜格子目文の土器に施文方向を知る明確な資料はなかった。しかし、口縁部・下胴部など上下関係が明確なB1類・B2類、C1類・C2類の全てが右上がりの角をもつ菱形、平行四辺形の斜格子目文をもつ押型文土器であった。このことは器表を飾る文様を表す原体・施文方法に統一性をもつことがうかがえる。原体復元実験の結果、右上がりの角をもつ原体回転方向は、縦方向なら右巻きの螺旋、横方向なら左巻きの螺旋を回転させて施文したと考えられる。また山形文には横・縦方向の施文が認められる。

以上のことから浪ノ上遺跡の縄文人は企画性をもつ棒状器具(枝)に施したポジティブな原体から、土器面に多様で合理的な文様を作りだしていた。このことは広く東海地方から中部山岳地帯に広がる文化的文様の特徴ではなかろうか。また客体である燃糸文土器(註2)の在り方は関東地方との交流をうかがうものであろう。少数ではあるが楕円文・山形文も天竜水系から南下した土器文様の可能性はある。

(2) 回転押型文土器の原体復元(挿図第112)

先にあげた竪穴住居址E-SB19と周辺遺構・包含層出土の押型文土器218点の器壁の厚さについて述べる。この地方の縄文土器は、比較的薄いものが多い。本遺跡の土器はどの程度であろうか。器壁の薄い順に列記すると、0.5cmが3.5%・0.6cmが18.7%・0.7cmが42.6%・0.8cmが17.3%・0.9cmが10.9%・1.0cmが2.8%であり、口縁部から胴部の厚さは0.5cmから1.0cm内に収まり薄い作りである。平均的な厚さは0.7cmであろう。下胴部から底部にかけては1.2cm~1.4cmが4.2%とやや厚い。またこの中で文様の明確な197点の文様の深さは、0.01cmが0.5%・0.02cmが6.5%・0.03cmが19.4%・0.04cmが7.1%・0.05cmが17.8%・0.06cmが7.2%・0.07cmが6.7%・0.08cmが7.7%・0.09cmが2.5%・0.10cmが16.3%・0.11cmが1.5%・0.12cmが3.7%である。深いものは0.15cmが2.0%・0.20cmが0.5%であった。うち深さ0.02cm~0.11cmの深いものは正方形・菱形・長い平行四辺形の類である。これらは0.03cm・0.05cm・0.10cmにピークをもつ。0.12cm・0.15cm・0.20cmの比較的深い文をもつものにはE-315~317・E-350の楕円文とE-230の山形文が含まれる。

これらの押型文土器に押された文様の断面形の内で圧倒的に多いものはa類であった。

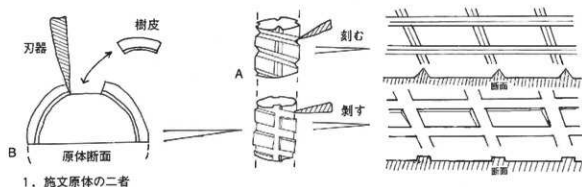


挿図第111 回転押型文の意匠

上記のデータから挿図第112の原体の復元模式図と施文実験写真を作成した。従来、押型文土器はネガティブ原体をもつポジティブな文様をした楕円形を基準とした原体復元が試みられている。このため丸棒に刃器で刻みを入れるとされた考えが一般的である。先に述べたように本遺跡から出土した土器は全てポジティブ原体を基本としたネガティブ文様であり、石器の刃器で乾燥した丸棒に直線・螺旋・山形・楕円の刻みを彫ることは難しい。施文実験の観察では挿図第112の1のAの流れの様に斜格子目文を押捺した場合、文様に深さによる切り合いが認められ、文様の間の角度が鈍角になり、文様の深さも深くなる傾向がみられた。本遺跡出土の文様には切り合いは認められず、文様の角度は直角に近い立ち上がりのa類を示し、深さも0.01cm以上、0.10cm以下と浅いものが多数をしめていた。器表の凹凸、摺れによる潰れなどの影響も考えられるが原体の深さを反映したものと考えられる。またE-119の文様内には樹皮痕を思わす横に走る線状痕が認められた。このような観察と実験の結果、本遺跡の押型文土器は挿図第112の1のBと挿図第112の2に示した様に剥片刃器で生木の樹皮を剥し作られた原体を押捺した可能性が考えられる。この推論が確かならば、当地方の押型文土器の成り立ちを知る資料となるであろう。いずれにしてもこの問題は資料の蓄積を待ちたい。

(3) 回転押型文様の乱れ(挿図第114)

ここで言う「乱れ」とは同一器面に複数の文様が現れるものを指す。その数は少ないが、原体が平行する線と交わる平行線の角度と長さをもつC1類のグループ内に現れる現象である。原体の粗雑化または調整時の摺れ、重複などで生じたものであろう。具体例は図示した1(E-246)・2(E-



挿図第112 回転押型文の原体の復元

252)・3(E-330)・4(E-331)である。

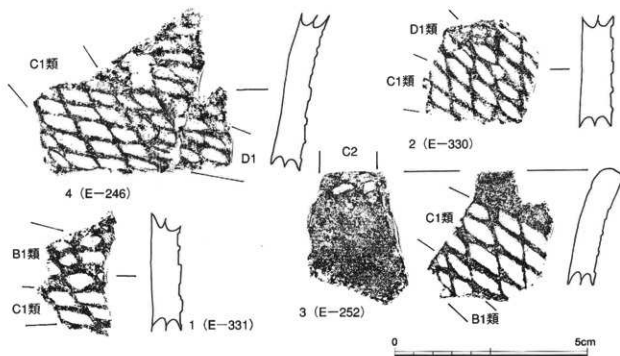
(4) 時期について

浪ノ上遺跡から出土した押型文土器と捺糸文土器は、口端に丸みをもち(E-116・E-137・E-220・E-252・E-261) 圧痕列の減少と口縁部内面の施文(E-220・E-240・E-329・E-252・E-266)。口縁部の反りの減少と文様の粗雑化。頸部帯状施文の欠如などの特徴から関西地方の神宮寺式土器(註3)と並行する時期と考える。また文様が離れた捺糸文を施した捺糸文土器は関東地方の稲荷台式土器(註4)であろう。この時期の中部山岳地方は密接施文の立野式土器から沢式土器(註5)にかけての時期にあたる。この地方では同文様をもつ川路萩平(C地点)遺跡の萩平型と呼称されている土器と、やや古いとされる豊橋市眼鏡下池北遺跡(註6)の大川式萩平型とされる土器が存在する。これらの遺跡から出土した押型文土器は大枠で本遺跡のものと同型式のB1類・B2類、C1類・C2類を主体とした文様をもつ土器と考えられる。時期は縄文時代早期前葉の所産であろう。浪ノ上遺跡から出土した押型文土器と捺糸文土器の時期について、他の遺跡から検出された土器と比較対照したいと考える。

2、石器(挿図第114)

(1) 浪ノ上遺跡から出土した石器

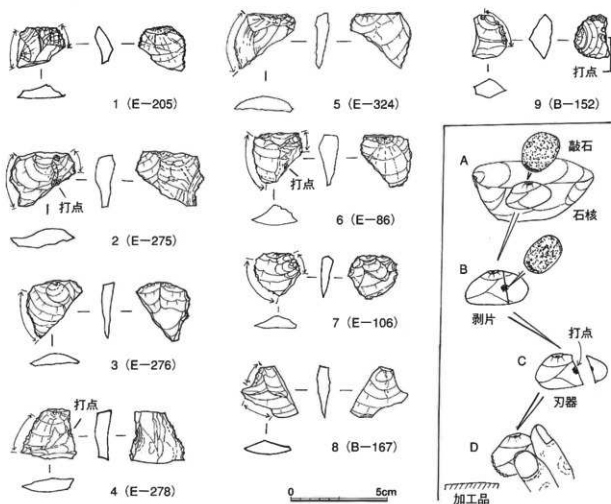
浪ノ上遺跡のE-S B19から出土した石器では、生業にかかわる石器として小形の石錘(E-204)がある。当時近くの河川で漁労を行ったであろう。集石遺構からは木材加工に使われた石斧(E-281)が出土している。竪穴住居址の築造などの際に役立ったものであろう。また敲石(E-293・



挿図第113 回転押型文様の乱れ

E-293・E-295) は剥片剥離作業または剥片刃器などの製作に使用されたものであろう。磨石 (E-294) は石皿 (E-296) とセットを成し、磨り潰す作業を行うための調理用の石器であろう。スタンプ形石器 (E-291) は燃糸文系文化に伴う石器であり、用途は不明である。E 区の西側断面から出土した搔器 (E-364) は皮なめしなどに使われたものと考えられる。

その他の石器として E-S B16・集石遺構・関連遺構と黒色有機土層からは量的に多い大形剥片・中形剥片・小形の剥片刃器と石核が出土した。石核 (E-323・E-390) 同時期の川路萩平 (C 地点) 遺跡と、やや新しい縄文時代早期の黄島式土器から高山寺 I 式土器 (註7) を出土した豊川市天井平遺跡 (註8) の S B03 と S B04 から自然長円礫を用いた同形状の石核が出土している。縄文時代早期前葉から中葉にかけての剥片剥離技法を知る資料であろう。また本遺跡から石鏃は出土しなかった。遺跡から南西方向約500mに所在する眼鏡下池北遺跡でも石鏃は出土していない。狩猟の欠如がうかがえる。最後に川路萩平 (C 地点) 遺跡から出土した石器は、石核・剥片・剥片刃器・石鏃・石斧・石錘・搔器である。眼鏡下池北遺跡は磨石・石皿・凹石であった。本遺跡は石核・剥片・剥片刃器・石斧・石錘・搔器・磨石・石皿・敲石・凹石・スタンプ形石器であつた。石器組成の点から川路萩平



挿図第114 切断形剥片刃器

(C地点)に近いものを感じる。また大形・小形の剥片類の多いことも、この時期の特徴として生業にかかわる現象と思われる。

(2) 切断形剥片刃器 (挿図第115)

ここにあげる切断形剥片刃器と呼ぶ刃器は、全てチャート石材である。1 (E-205) はE-S B 19の床面から出土した。2 (E-275)・3 (E-276)・4 (E-278) は集石遺構から出土した。5 (E-324) は黒色有機土層から検出した。これと同形態をとるものとして、E-S B 16の埋土から出土した6 (E-86)、E-S B 18の埋土から出土した7 (E-106)、B-S B 23の埋土から出土した8 (B-167)、B-S B 19の埋土から出土した9 (B-152) などがある。これらの刃器はチャートの石核から剥離した貝殻状の剥片 (素材剥片) の側面に打撃を加え切断し、残った鋭い側辺を刃部としたものである。挿図第115に示した模式図のA~Dの流れがこれにあたる。側面に切断時に生じた打点が残る2 (E-275)・4 (E-278)・6 (E-86)・9 (B-152) にあり、形状は扇形を成している。また安山岩系・流紋岩系の剥片にも類例をみるものもあるが風化して劣化が激しく説明は本文に譲る。

上記の切断形剥片刃器は出土遺構から押型文土器の時期に伴う刃器として切る・削る等の作業に使用された刃器と考える。現状では他に例がなく石器研究の進むことを願い、今後の類例を待ちたい。

註1 澤田正一・安達厚三・近藤正市・中島義三・夏目邦次郎「I 萩平C遺跡」[川路萩平 (C地点) 遺跡・大宮八剣遺跡] 新城市教育委員会 1965

註2 原田昌幸『燃糸文系土器様式』ニュー・サイエンス社 1991

註3 片岡 肇「神宮寺式系押型文土器の様相」『小林知生教授退職記念考古学論集』南山大学小林知生教授退職記念会編 1978

註4 麻生 優・白石浩之『縄文土器の知識 I』東京美術 1986

註5 神村 透「田舎っぺ、押型文土器 (立野式) にこだわる」[利根川24・25] 利根川同人会 2003

註6 岩瀬彰利・(株) パレオ・ラボ「牛川西部土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書」[豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第96集 眼鏡下池北遺跡] 豊橋市教育委員会 2008

註7 浦 宏「紀伊国高山寺貝塚発掘調査報告」考古学107 1939
和田秀寿「縄文早期高山寺式土器の成立過程と細分編年」古代学研究第117号 1988

註8 前田清彦・乗原将人「天井平遺跡」豊川市教育委員会 2009

第2節 浪ノ上遺跡出土の弥生式土器と土師器

浪ノ上遺跡からは、縄文式土器、弥生式土器、土師器、古墳時代須恵器、奈良朝須恵器、近世土師器などが発掘された。ここでは弥生時代中期から古墳時代後期まで連続した遺構と共に推移した弥生式土器から古墳時代後期土師器までの遺物について述べていく。

土器型式的には弥生時代の長床式土器から土師器までの8型式にわたっている。

1、長床式土器（挿図第115・116）

長床式土器（註1）は、愛知県豊橋市瓜郷町の瓜郷遺跡第2貝塚の遺構出土を基に分類された瓜郷中層第2様式と呼称された土器である。愛知県宝飯郡御津町（現豊川市）から同様式の完形土器が多数出土した長床遺跡を標式として設定された型式である。前代の下長山式土器（註2）の伝統を残すものと、西三河・尾張地域の要素が併出する時期に当たる。

1～12は台付甕である。1・2・5は口端が無文である。体部調整は薄いハケメを施した後にナデ調整で仕上げている。3・4・6は口端にキザミを配している。器表はハケメ調整で仕上げている。脚台部は脚台上部の中実部が厚く、下半部が内彎して膨らむ6・10～12がある。また、ハの字状に開く脚台部をもつ8・9もある。

13～24は壺である。13・14は受口状の口縁部をもち、15は外反する口縁部をもつ細頸壺である。16・18は広口壺である。壺の頸部にはクシ描き波線文・簾状文を配した24がある。胴部にクシ描き横線文・波線文などを配した19～21と、ヘラ描き斜格文を配した17・22がある。またクシ描き横線文間にヘラ描きの斜格文・複合銀歯文・羽状文が上胴部に巡る23は、三遠式銅鐻の文様に類似している。

浪ノ上遺跡で長床式土器が出土した遺構は、B-SB8・B-SB11・B-SB13・B-SB14・B-SB21・B-22・F-SB1・F-SB2・F-SB4・F-SB8・F-SB8の11遺構である。

2、寄道式土器（挿図第117）

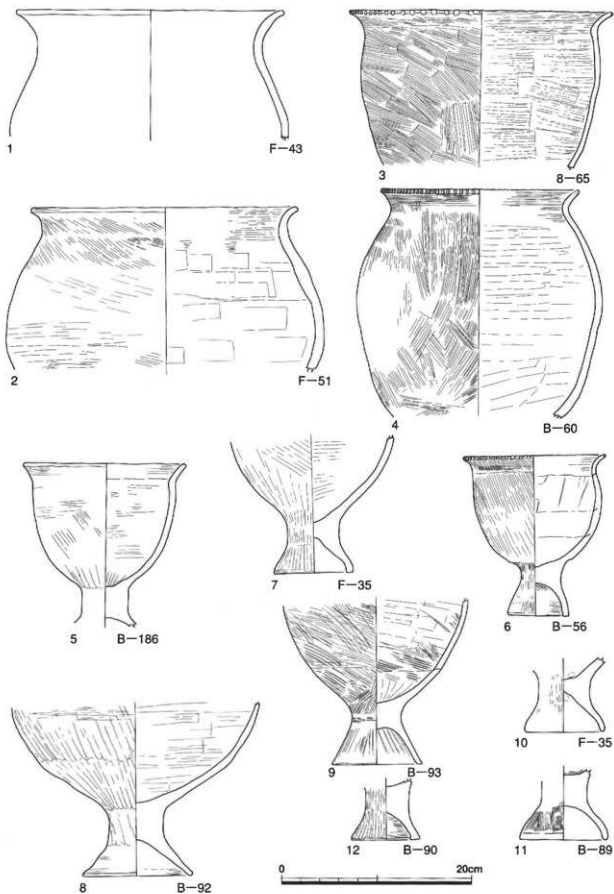
寄道式土器（註3）は、瓜郷遺跡の第2貝塚中央貝層と遺構出土の土器と、愛知県宝飯郡小坂井町の五社稲荷貝塚から出土した土器を標式として瓜郷上層第1様式として呼称された土器であり、のちに瓜郷遺跡が所在する字名をとって設定された型式である。

1は広口壺である。口端部を下方に折り曲げて幅広の端面上に横線帯を巡らす。口縁部内面には斜位のクシ状器具による圧痕列を巡らしている。2は高杯の坏部である。外反する口縁部と坏底の境に稜を作り出している。3～5は脚部である。クシ描き横線文や斜位の圧痕列を配している。

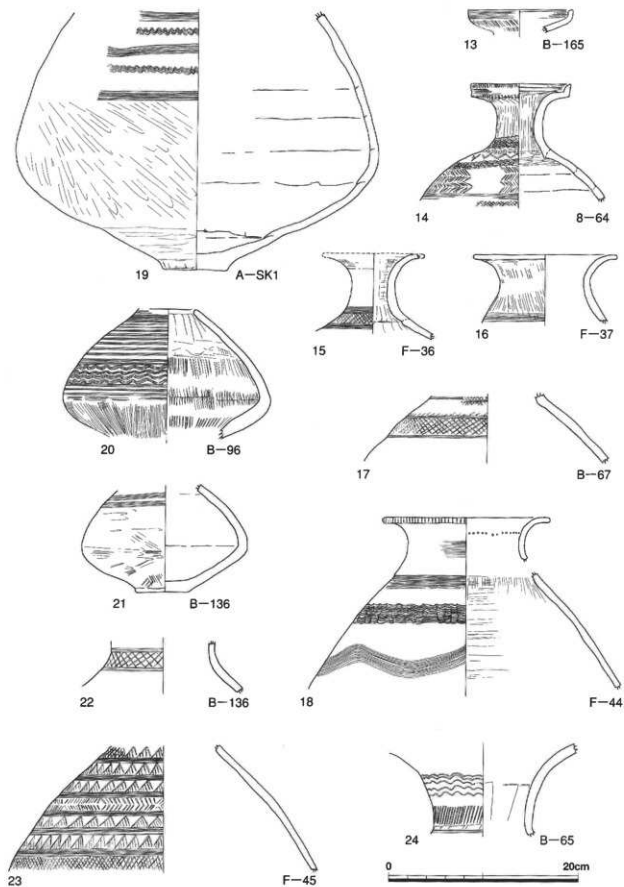
浪ノ上遺跡で寄道式土器が出土した遺構はF-SB5・F-SB6である。

3、欠山式土器（挿図第118）

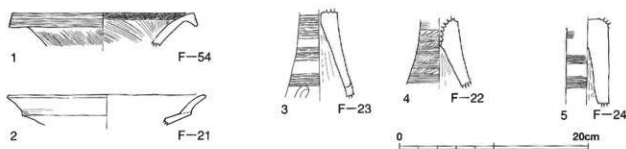
欠山式土器（註4）は、瓜郷遺跡の第2貝塚の遺構から出土した土器から、瓜郷上層第2様式と呼



挿図第115 長床式土器1 (土器の左下の数字は型式内の番号、右下は各調査区の土器番号)



挿図第116 長床式土器 2



挿図第117 寄道式土器

称された土器である。良好な資料の検出を見た、愛知県小坂井町（現豊川市）欠山貝塚（第1貝塚）出土土器を標式として設定された型式である。

1～8は台付甕である。1・6は外反する口縁部をもち、口端にキザミ列を配している。5は内湾して受口状口縁部を成し、口縁部にクシ状器具による左下がりのキザミ列を施している。2～4は口縁部が内側に折れて受口状になるものであり、2・3の口縁部外面には左下がりのキザミ列を施している。4の口縁部は無文だが上胴部にはクシ描横線文が巡っている。7・8はハの字状に広がる脚台部であり、脚台端は角張る。全ての器表にはハケメ調整が成されている。

9・10は壺である。9は上胴部にクシ描横線文と波線文が施されている。10は無文で球形に近い胴部と大きく外反する口縁部をもつ広口壺である。

12～15は高坏である。坏部が深く、口端は内面に向かいカットしている。脚上部には円孔が穿かれて、クシ描横線文を施した12・15と認められない9・10がある。全て器表にはヘラミガキ痕のこのる。11は碗形高坏の脚部と考えられるものである。

16は脚付盤である。丸味をもつ坏部に内湾する口縁部をもつ。脚上部は中実し、器表にクシ状器具による横線文を施している。脚下部はハの字状に広がり、円孔が配されている。

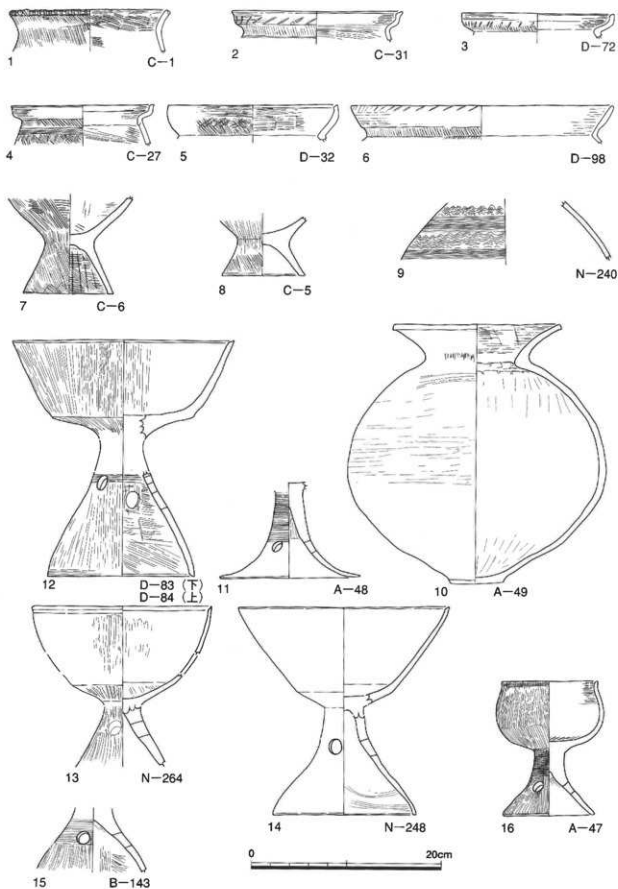
浪ノ上遺跡で欠山式土器が出土したのは、C-SB3・C-SB5・E-SB2・N-SB1・N-SB2・I-SB1・I-SB2と方形周溝墓のA-SZ2の8遺構である。

4、前川式土器（挿図第119～121）

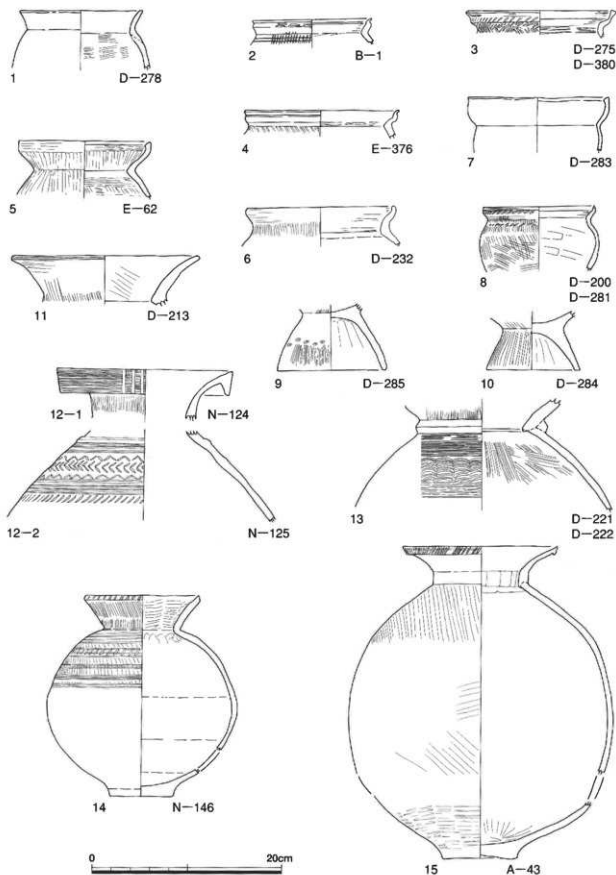
瓜郷遺跡第6次調査の第3トレンチ出土土器を標式として瓜郷上層第3様式（註5）とされた土器である。浪ノ上遺跡・浪ノ上1号墳南西周溝からこの時期の良好な資料が補填された。今回、第3トレンチの所在する瓜郷町の字名を冠して前川式土器と呼称することにした。

1～10・27は甕である。1は口縁部がくの字状に折れる。5～8は口縁部が外反して受口状になり、8の口縁部にはキザミを施す。他は無文である。2～4はS字状の口縁部である。2・3の口縁部にはキザミが巡っている。9・10は甕の脚台部である。27は短い頸部をもち平底である。

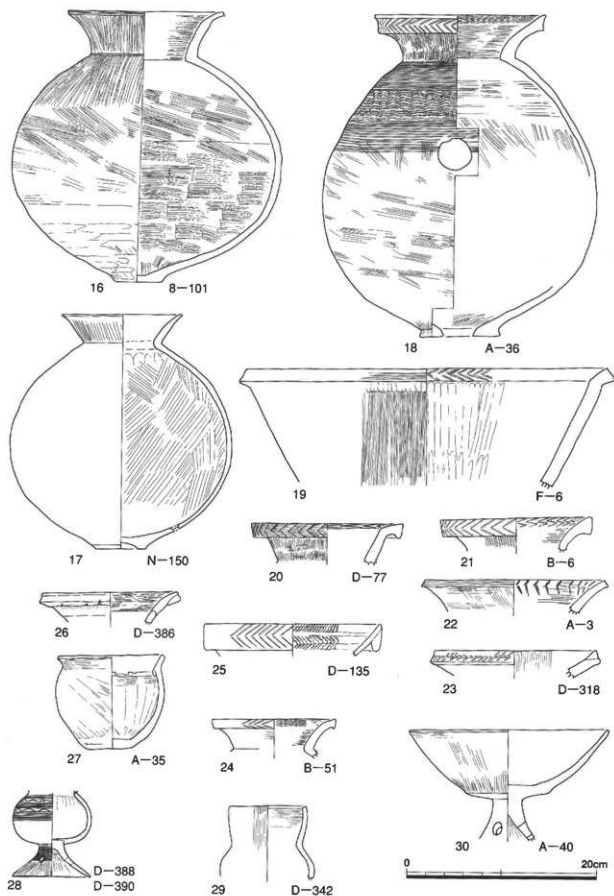
11～26・28・29は壺類である。11・16・17は球形の胴部に大きく外反する口頸部をもつ広口壺の口縁部であり、15はやや胴長の偏球形を呈した胴部をもち、筒状に立ち上る頸部から大きく外反する口縁部をもつもので、口端を上方に立ち上げ帯状を成している。口端面には左下がりのクシ状器具による片旗列を巡らした広口の壺である。12・13はパレススタイルの壺である。14は球形の胴部をもち赤



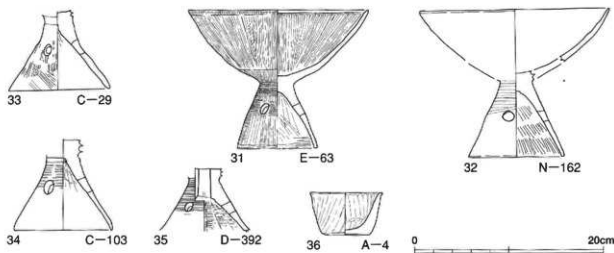
挿図第118 欠山式土器



挿図第119 前川式土器 I



挿図第120 前川式土器 2



挿図第121 前川式土器 3

彩を塗布している。胴部にクシ描横線文と瓦痕列が配され、口端にはキザミメが巡っている。伊勢湾系の土器である。26は広口の貼り付け口縁をもつ駿河系の土器である。18～24は柳ヶ坪形壺である。全形のわかる土器は18である。最大径を下胴部におく卵形を呈した胴部から大きく外反して口端面をもつ。そこにはクシ状器具による右回りの羽状文を巡らせ、内面にも同器具により羽状文を施している。これに類した口縁部文様をもつ20・21・25がある。22は口端面に横線文を施し、内面に羽状文を施している。23は口端面に羽状文を施し、内面は無文である。24は口端面に羽状文を施し、内面にはクシ描きの波線文を配している。19は大型壺で横線文と羽状文をもつ。28は脚付長頸壺で、瓜郷遺跡第6次調査で出土した上層第3様式高坏第4類と同系列の尾張系土器である。29は瓢形の壺である。瓢箪の頭を切った形状を呈した土器であり、底部を欠く。口端は内面に向かい傾斜している。

30～34は高坏である。坏部は口縁部と坏底の境界が無くなり、丸みをおびた坏部を作る。口端は丸く仕上げている。脚は円錐台形となり、脚上部にクシ描横線文と3カ所の円孔を配した31・32・34と3カ所の円孔のみの30・33がある。

35はクシ描横線文と3カ所の円孔をもつ、形状は高坏の脚部と同形であるが中央に直径2cmの穿孔がなされており、器台と考えられる。

36は碗である。平底の底部から直立する体部をもち、口端近くで外反する。

浪ノ上遺跡で前川式土器が出土した遺構は、B-SB1・B-SB4・B-SB7・B-SB18・C-SB1・C-SB4・D-SB18・D-SB22・E-SB3・E-SB15と方形周溝墓A-SZ1の11遺構である。

5、王江式土器（挿図第122～124）

王江式土器（註6）は、愛知県碧海郡高浜町（現高浜市）の王江遺跡出土土器を標式として設定された型式である。

1～15は甕である。1・2はくの字状の口縁部をもち、器表にハケメ調整を施している。2は低いハの字状の脚台が付く台付甕である。3は受口状口縁をもつ台付甕で、口縁部は無文である。脚台は

低いハの字状を呈し、胴部から脚台部にかけて斜位のハケメ痕を残す。4・5は口縁部が短い小形の甕である。6・7は平底の底部をもつもので、6は直立する口縁部をもつ。7は外反する口縁部をもち、底面に窪みをもつ。いずれも器表に荒いハケメ調整痕を残す。8～11はS字甕である。口縁部の開きが大きく、口端は丸く仕上げられている。口縁部は無文で、11の上胴部にはクシ描横線文が巡っている。12～15は、ハの字状を呈した脚台部である。12は低い脚台をもち、器表に斜位のハケメ調整痕を残す。13・14は高い脚台をもち、器表はナデ調整で仕上げている。15は器壁が薄く、脚台端部を内側に折り返し帯状を成している。S字甕の脚台である。

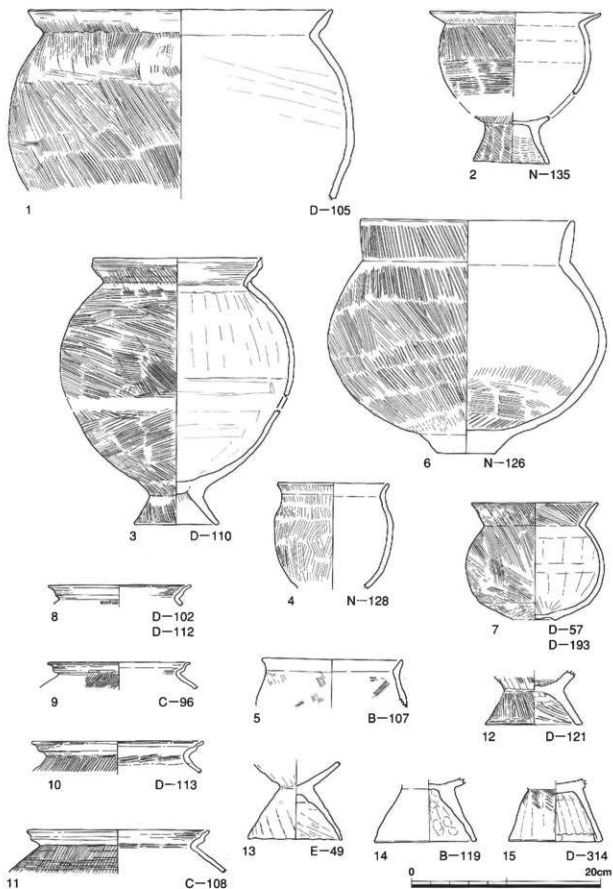
16～38は壺である。16は口縁部に貼り付け口縁を有し、口端上部は平坦面で内面に断面三角状の突帯が付く。口縁には3条一組の縦位棒条浮文を付けている。また口縁上方には焼成前に2mm前後の円孔が穿かれている。駿河系の土器である。17・18は広口壺である。17は口端近くで内反して浅い受け口状を成している。19・20・22はパレススタイルの壺である。21・22は頸部に断面が三角状の突帯を付けた複合口縁をもち、22の口縁部には棒状浮文の剥落痕を残す。23は口縁部にクシ状器具による乱れた横線文を施している。24～30はいわゆる柳ヶ坪形壺で二重口縁部の外面にクシ状器具による羽状文を捺捺している。また内面にも同器具により3列の斜線列を交互に配した羽状文を施している。31・32は大きく開く二重口縁部をもち、31の内面にはクシ状器具による羽状文列が巡っている。33は上記の頸部で三角状の突帯をもち管状に立ち上る畿内系の壺である。34～37は二重口縁をもち外反する口縁部であり、38は上胴部である。器表の上方から横線文と劔文を交互に配し、刺突文列でとめている。

39・40は体部が浅く口縁部が折れた丸底に近い鉢である。41・42は膨らみのある胴部から大きく折れた平底の鉢である。43～50は高坏である。43は坏部に丸みをもち、口端に線状の凹みを巡らしている。脚部には3ヶ所の円孔が配されている。44は浅い坏の下部に三角状の突帯をもつ坏部である。45は内湾する坏部をもち、脚に円孔を配している。49は丸をもつ小形の坏部に大きく開く脚部が付く、脚には上下2段の円孔を配している。同脚形の50が有る。46～48は脚部である。46は円錐形の脚で円孔がある。47は中実した棒状の脚上部から下方で開脚するものである。48は脚高が低く、脚端が上方に跳ね上がる。脚下方に3ヶ所の円孔が配されている。

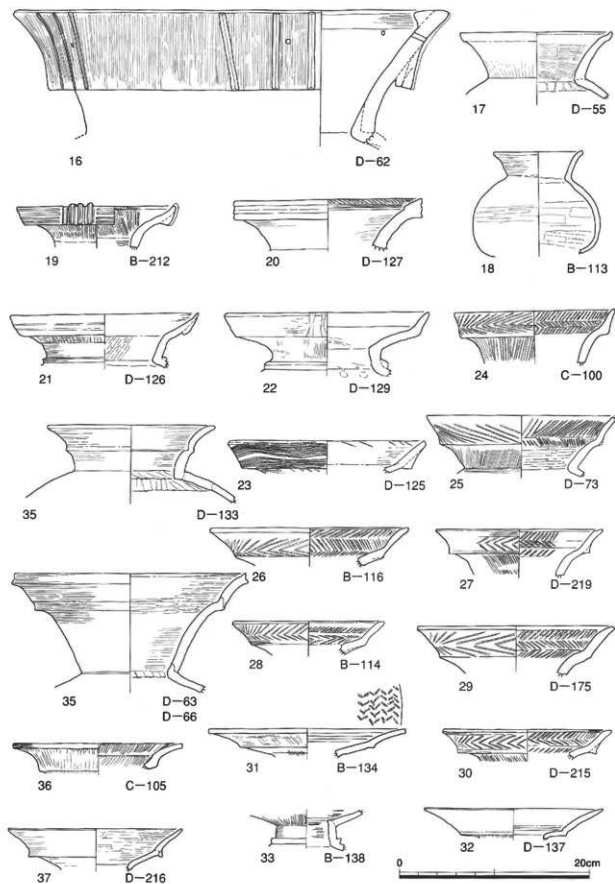
51・52は碗である。底部は平底でチューリップの花弁状にひらき、口唇部はやや内増きみである。

53～60は器台である。53・54は浅い皿状の受部をもつもので、口端は角張っている。34の口端面には左下がりの圧痕列が巡っている。脚部は53に受部から脚部に向かい円孔が貫いている。双方とも脚には3ヶ所の円孔が配されている。55は口端近くで折り返した受部をもち、受部から脚部に向かい円孔が貫いている。脚には3カ所の円孔を配している。56は受部の下方に稜をもち、口縁が外反している。脚には3カ所の円孔を配している。57は丸をもつ受部にやや外反する円錐形の脚部が付く。脚には3カ所の円孔が配されている。58・59は受部である。稜の部分に凹状の突帯をもつ。59の受部には4カ所の円孔が施されている。60は器台の脚下部と考えられる土器である。脚下部に稜を作り外反する。稜の上方にはクシ状器具による薄い波線文が巡っている。61は甕の底部で円孔が穿たれている。

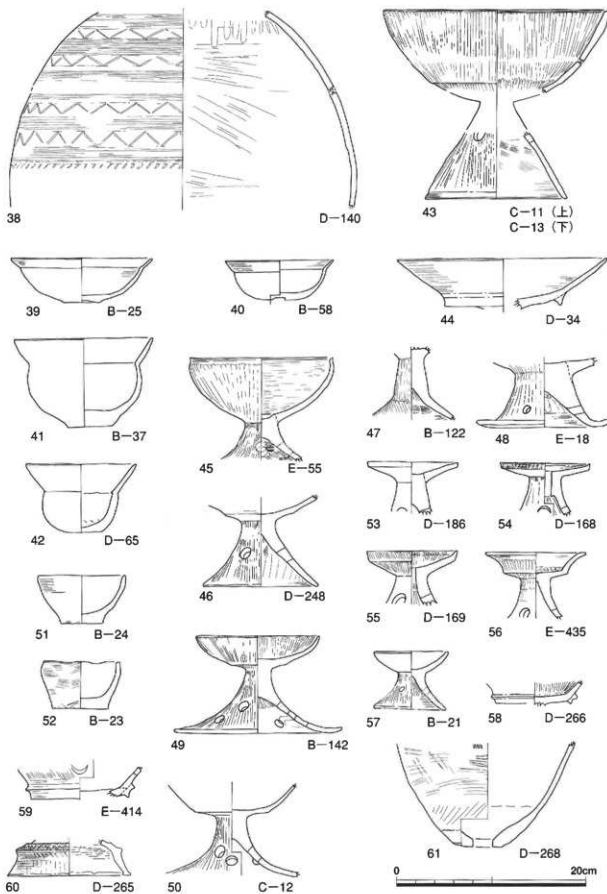
浪ノ上遺跡で王江式土器が出土したのは、B-SB3・B-SB5・B-SB6・B-SB10・B-SB15・B-SB17・B-SB19・B-SB20・C-SB6・C-SB8・C-SB11・C-SB



挿図第122 王江式土器 1



挿図第123 王江式土器 2



挿図第124 王江式土器 3

14・C-SB16・C-SB18・C-SB19・D-SB1・D-SB2・D-SB3・D-SB6・
D-SB13・D-SB14・D-SB16・D-SB19・D-SB20・D-SB21・D-SB23・D-S
B24・E-SB6・E-SB7・E-SB9・E-SB11・E-SB12・E-SB13・E-SB18・
F-SB3の35遺構である。

6、浪ノ上式土器（挿図第125・126）

愛知県豊橋市浪ノ上町の浪ノ上遺跡から検出した竪穴住居址E-SB16出土土器を標式とする。かつて青山式土器（註7）として包括された土器のうち、須恵器第1型式（註8）を伴出しない古い段階を分離して新しく型式設定した。

（1） E-SB16の一括遺物（挿図第125の1～16）

1～4は甕である。1は口縁部から下胴部にかけて残存する。胎土は荒く、口縁部は高く折れて立ち上がる。口端は丸く仕上げている。口縁部の内外面はヨコナデ調整、胴部の器表はハケメ調整を施した後に撫でている。2・3は外反する口縁部をもつ。4は下胴部から脚台部である。器表の調整は1と同じである。

5～8は壺である。5は丸底の壺である。口縁部は外反し高い。胴部は球形を成している。7は丸底の底部である。6は外反する二重口縁をもつ壺の口縁部である。8は小形で短い口縁部をもち、球形の胴部をもつ丸底の壺である。

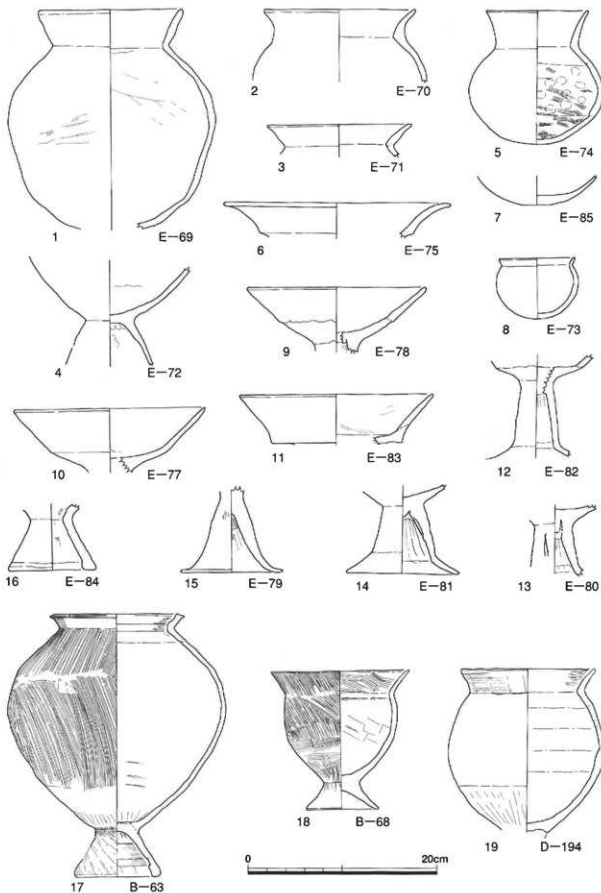
9～15は高杯の各部位である。9・10は坏部で浅い皿状を呈している。口端は丸く仕上げている。11は坏の下方に稜をもち、口縁は外反している。口端は丸く仕上げている。12～15は脚部である。管状の脚12～14と円錐形の脚15がある。16は鼓形を呈した器台である。

（2） 関連遺物（挿図第125の17～19・挿図第126の20～40）

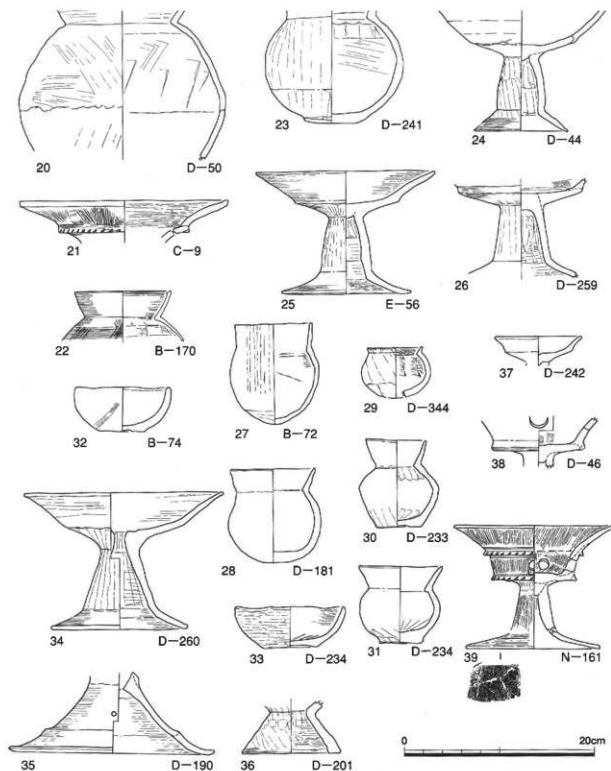
17～20は甕である。17はいわゆる宇田型の台付甕で口端を拡張して面をつくり、内面はヨコナデ調整で彎曲する。器表に荒い斜位のハケメ調整痕を残す。脚台は円錐形で、脚端を内面へ折り返す。18は小形の台付甕で長い口縁部が外反し、胴部径より口縁部径が大きい。口縁部から上胴部には斜位、下胴部には横位のハケメ調整を施す。脚台は低くハの字状に開き、ナデ調整を加える。19は台付甕で長く外反する口縁部をもち、卵形の胴部をもつ。口縁部内外面にはヨコナデ調整、胴部はナデ調整で仕上げている。20は外反する口縁部に卵形の胴部をもつ。調整は19と同じである。

21～23・27～31は壺である。21は広口壺または加飾器台の受部とも考えられる口縁部である。外反する口縁下方に三角状の文帯を付け、クシ状器具による押捺のキザミを巡らす。22は高く内湾する口縁部をもち、口端は内側に向かって斜めに切られ、この面に沈線を巡らしている。上胴部にはハケによる横線を区切る斜線列を配している。畿内系の土器である。23は口縁部を欠く平底の壺である。胴部は球形を成している。27は小形の丸底壺である。直立する口縁部に卵形の胴部をもつ。器壁は薄く、内外面ともにナデ調整で仕上げている。畿内系の土器であろう。28は外反する口縁部に球形に近い胴部をもつ。30・31は小形の平底の底部をもつ。くの字状に折れ立ち上がる口縁部をもち、胴部は球形に近い形を成している。29は小形丸底の短頸壺である。32・33は碗である。平底で、いずれも底面に窪みをもつ。胴部は丸みをもち立ち上がり、口縁部で直立している。

E-SB16一括資料 (1~16)



挿図第125 浪ノ上式土器 1



挿図第126 浪ノ上式土器2

24～26は高環である。24はE-S B16の9・10と同じ坏部をもち、やや膨らみのある筒状脚が付く。25は坏部下方に稜をもち、外反する口縁部を有している。脚部は筒状脚である。26は平坦な坏底をもち坏部下方に明確な稜が認められる管状脚である。

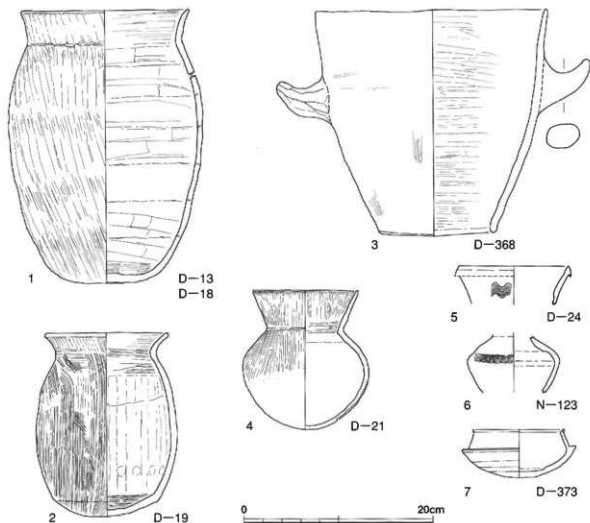
34～39は器台である。34は高環25と同じ器形をしている。坏部から脚部を貫く円孔を施している。

37の受部は25の坏部と34の受部を小形化した器形を成している。35は大きく外反する脚の中央に稜をもち、受部と脚部を貫通する円孔を施している。また稜の上部1ヶ所に小円孔があげられている。36はESB16kの器台と同形である。38は外反する受部の下方に三角状の稜をもち、受部には円孔が配されている。脚は残された脚上部の形状から管状脚であろう。39は加飾器台である。平坦な受部底面をもち、外反して立ち上がる受部をもつ。受部には2列の三角状突帯を付け、クシ状器具によるキザミを巡らしている。突帯間には円孔を配している。脚は管状脚である。突帯につくキザミの形状は21に、受部の下部と脚部は26・38に似ているが、伴出遺物と内外面のヘラミガキや口唇部の面取りから前形式である可能性が高い。資料の増加を待ちたい。

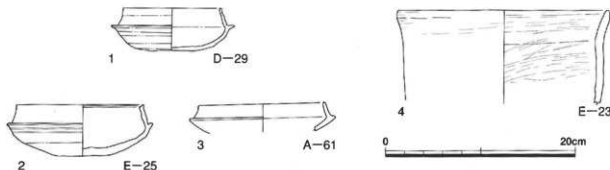
浪ノ上遺跡から出土した浪ノ上式土器を出土したのはC-SB2・C-SB7・C-SB10・C-SB17・C-SB21・C-SB22・D-SB10・D-SB11・D-SB12・D-SB15・E-SB1・E-SB14・E-SB16・E-SB17と浪ノ上1号墳南東周溝・南西周溝の16遺構である。

7、青山式土器 (挿図第127)

愛知県渥美郡福江町(現田原市)の青山貝塚出土土器を標式とする型式である。当地方の須恵器第



挿図第127 青山式土器



挿図第128 古墳時代後期

1 型式を伴出する。

1～5はD-SB4から出土した一括資料である。6は浪ノ上1号墳南西周溝（1区上層）から出土した。1・2は外反する口縁部をもち、胴部の最大径が口径より大きい縦長丸底の甕である。3は球形の胴部をもち外方に開く口縁部をもつ丸底の壺である。4は把手の付いた甕である。5は須恵器の壺または甕の口縁部でクシ描波線文が巡っている。6は須恵器の甕の胴部にクシ描波線文が巡っている。7は須恵器の坏身である。いずれも須恵器第1型式である。

浪ノ上遺跡から出土した青山式土器を出土したのはD-SB4・E-SB5・E-SB18の3遺構である。

8、古墳時代後期（挿図第128）

豊田市高橋遺跡出土土師器の編年に際して、第3期（註9）として設定されたものを含む。第3期は須恵器第3型式を伴出するものを前半期、須恵器第4型式を伴出するものを後半期として区分されている。浪ノ上遺跡ではE-SB10から前半期の須恵器と土師器が伴出している。また須恵器については第4型式の時期まで認められる。

1は第1型式の新しい段階の須恵器である。1は第2型式の坏身である。2は第3型式の坏身である。3は第4型式の坏身である。4は口縁部が軽く外方に開く土師器の甕である。2・4はE-SB10から出土している。

浪ノ上遺跡から出土した古墳時代後期の竪穴住居址はD-SB5・D-SB9・E-SB10・2-SB1の4遺構である。

註1 久永春男「東海」『日本考古学講座4』河出書房 1956

久永春男「東海」『日本の考古学 弥生時代』河出書房新社 1966

久永春男「中部（東海地方）」『新版考古学講座4 原史文化（上）』雄山閣 1969

久永春男「弥生式土器総括」『瓜郷』豊橋市教育委員会 1963

註2 註1文献

註3 註1文献

註4 註1文献

- 註5 芳賀陽「瓜郷遺跡の土器」『瓜郷2』豊橋市教育委員会 2007
- 註6 杉浦茂治・斎藤嘉彦・久永春男「王江遺跡」『愛知県碧海郡高浜町の先史時代遺跡』高浜町誌編纂委員会 1666
- 註7 芳賀陽「青山貝塚」『古代学研究20』古代学研究会 1959
久永春男他「薩原古墳群」渥美町教育委員会 1988
- 註8 斎藤嘉彦・久永春男「三河における古墳出土須恵器の編年」『岡崎市天神山古墳群』愛知県立岩津高等学校 1969
芳賀陽「二本松古墳群」『付載第3 東三河における古墳出土須恵器の編年』愛知県開拓パイロット事業石巻地区埋蔵文化財調査団 1974
- 註9 久永春男・斎藤嘉彦「高橋遺跡出土の弥生式土器と土師器の編年」『高橋遺跡』豊田市教育委員会 1969

第3節 浪ノ上遺跡の集落構成

浪ノ上遺跡は4次にわたる発掘調査と本調査前に行われた昭和54(1979)年の範囲確認調査、昭和55(1980)年に行われた三菱レイヨン送還水管施設移設工事に伴う発掘調査により、稲荷山1号墳を除き、ほぼ完掘された。これらの調査により竪穴住居址、掘立柱建物址、古墳、方形周溝墓、土壇、近世土壇墓、溝状遺構、集石遺構、ピット群、炉穴、竪穴状遺構が検出された。これらの遺構のうち竪穴住居址と掘立柱建物址をもとに浪ノ上遺跡の集落構成について時期別に考察する。竪穴住居址は108軒、掘立柱建物址は1棟が検出されたが、このうち時期の確認ができたのは竪穴住居址の89軒である。竪穴住居址の営まれた時期は縄文早期の神宮寺式併行土器(註1)、縄文晩期末から弥生前期の壱王式土器(註2)、弥生中期後葉の長床式土器(註3)、弥生後期の寄道式土器(註4)と欠山式土器(註5)、古墳前期の瓜郷上層第3様式土器(註6)と王江式土器(註7)、古墳中期の青山式土器(註8)、古墳後期の土師器第3期(註9)である。

1、竪穴住居址の時期別軒数と位置

(1) 縄文時代

ア 神宮寺式併行期 93(番号は表第16の遺構名と同一)の竪穴住居址が1軒である。この竪穴住居址の周辺から炉穴が7基、炉(焼土面)が3カ所検出されている。竪穴住居址東側のピット群では長軸が2.5m～5mの大きさの楕円形をした竪穴状遺構と想定される柱穴の並びが6カ所ほど認められている。93はかにあらの沢の東側の台地縁端部に位置している。

イ 壱王期 この時期の竪穴住居址は1と2の2軒である。2軒の住居址はおもどろの沢の近くの標高20mの台地縁端部に位置している。

(2) 弥生時代

ア 長床期 この時期の竪穴住居址は10・13・15・16・23・24・94・95・97・100・101の11軒である。そのうち10・13・15・16・23・24の6軒はおもどろの沢の西側の台地縁端部から100mの範囲に位置している。94・95・97・100・101の5軒はかにあらの沢の西側の台地縁端部から50mの範囲に位置している。

イ 寄道期 この時期の竪穴住居址は98・99の2軒である。2軒の住居址はかにあらの沢の西側の台地縁端部から40mの範囲に位置している。

ウ 欠山期 この時期の竪穴住居址は28・30・76・102・103・104・105の7軒である。浪ノ上1号墳封土下で2軒(102・103)、稲荷山2号墳封土下で2軒(104・105)、残りの3軒(28・30・76)は浪ノ上1号墳の墳丘裾から南側に広がる台地上60mの範囲に位置している。

(3) 古墳時代

ア 瓜郷上層第3様式期 この時期の竪穴住居址は3・6・9・20・26・29・65・69・77・89の10軒である。10軒はおもどろの沢と浪ノ上1号墳の間に広がる台地に散在している。そのうち1号墳の墳丘裾から10mの範囲に65・69・77・89の4軒が認められる。

表第16 浪ノ上遺跡竪穴住居址・掘立柱建物址一覧表(番号は挿図第129～第131と共通)

番号	遺構名	平面形	床面の規模(m)	貯蔵穴	炉址	面積(㎡)	時期	備考
1	A-SB1	小判形					柳ノ式	
2	A-SB2	小判形					柳ノ式	
3	B-SB1	?					瓜郷上層第3様式	
4	B-SB2	?					?	
5	B-SB3	隅田方形	4.46×4.50	1	3	20	王江式	
6	B-SB4	隅田長方形	4.06×4.42	3	1	17	瓜郷上層第3様式	
7	B-SB5	方形	3.82×3.62	1	0	13	王江式	
8	B-SB6	隅田方形	5.60×5.50	0	1	30	王江式	
9	B-SB7	隅田方形	5.20×5.20	1	0	26	瓜郷上層第3様式	
10	B-SB8	隅田方形	5.00×5.00	1	2	25	長床式	
11	B-SB9	隅田方形	5.78×5.56	2	1	32	青山式	
12	B-SB10	隅田	5.10×(4.4)	1	2		王江式	
13	B-SB11	隅田方形	4.70×4.70			22	長床式	
14	B-SB12	隅田方形	4.00×4.00			16	青山式	
15	B-SB13	隅田方形か隅田長方形	(4.4)×5.90				長床式	
16	B-SB14	?					長床式	
17	B-SB15	隅田隅田方形か隅田隅田長方形	3.20×(2.4)				王江式	
18	B-SB16	隅田隅田方形か隅田隅田長方形	4.72×(2.8)	1	0		?	
19	B-SB17	方形か長方形	4.40×(4.0)	1	2		王江式	
20	B-SB18	隅田方形	4.20×4.30	1	1	18	瓜郷上層第3様式	14C年代測定
21	B-SB19	隅田方形か隅田長方形	(3.2)×(1.6)				王江式	
22	B-SB20	隅田方形か隅田長方形	(3.0)×4.60				王江式	
23	B-SB21	楕円形	4.74×(2.7)	1	0		長床式	
24	B-SB22	隅田方形か隅田長方形	4.0×(2.0)				長床式	
25	B-SB23	楕円形	4.62×3.50				?	
26	C-SB1	方形	3.86×3.74	1	0	14	瓜郷上層第3様式	
27	C-SB2	方形	4.64×4.50	1	1	21	青山式(浪ノ上式)	
28	C-SB3	方形	3.60×3.80	2	0	14	欠山式	
29	C-SB4	隅田方形	2.94×2.84	1	2	8	瓜郷上層第3様式	
30	C-SB5	隅田方形	5.90×5.80	1	3	33	欠山式	
31	C-SB6	隅田長方形	5.80×5.30	0	1	27	王江式	
32	C-SB7	隅田方形	7.90×8.12	1	1	64	青山式(浪ノ上式)	14C年代測定
33	C-SB8	隅田方形	5.80×5.90	0	0	32	王江式	
34	C-SB9	方形	4.46×4.50	1	1	20	?	古墳時代前期
35	C-SB10	方形	3.30×3.10	1	1	10	青山式(浪ノ上式)	
36	C-SB11	隅田長方形	3.64×3.36	1	1	12	王江式	
37	C-SB12	隅田方形か隅田長方形	4.64×(4.4)	1			?	古墳時代前期
38	C-SB13	隅田方形か隅田長方形	(2.0)×3.80				?	古墳時代前期
39	C-SB14	隅田方形か隅田長方形	(3.2)×3.92				王江式	
40	C-SB15	隅田方形	3.92×4.06	1	1	15	?	古墳時代前期
41	C-SB16	隅田方形	4.46×4.40	1	1	20	王江式	
42	C-SB17	隅田方形か隅田長方形	7.40×(5.4)	1	0		青山式(浪ノ上式)	
43	C-SB18	隅田方形	4.84×4.90	1	1	24	王江式	
44	C-SB19	長方形	(4.4)×4.70	1	2		王江式	
45	C-SB20	隅田方形か隅田長方形		1	1		?	
46	C-SB21	方形か長方形		1	2		青山式(浪ノ上式)	
47	C-SB22	方形か長方形		2	1		青山式(浪ノ上式)	
48	D-SB1	方形か長方形	5.00×(3.5)	1	0		王江式	
49	D-SB2	方形か長方形	(5.0)×(3.6)	1	0		王江式	
50	D-SB3	方形	(3.2)×(1.4)	1	0		王江式	
51	D-SB4	方形か長方形	(2.6)×(4.4)	1	2		青山式	
52	D-SB5	方形か長方形	(3.6)×(4.0)	1	2		土師器第3期	
53	D-SB6	方形か長方形	(2.2)×(2.8)	1	0		王江式	
54	D-SB7	方形か長方形	3.80×(2.0)	0	0		?	
55	D-SB8	方形か長方形	(1.6)×(1.2)	1	0		?	
56	D-SB9	隅田長方形	(0.8)×3.76	1	0		?	古墳時代後期
57	D-SB10	方形か長方形	(3.2)×5.66	0	3		青山式(浪ノ上式)	
58	D-SB11	方形か長方形	4.80×(2.2)	1	0		青山式(浪ノ上式)	
59	D-SB12	長方形	4.60×3.60	0	0		青山式(浪ノ上式)	
60	D-SB13	長方形	3.50×3.90	1	1		王江式	
61	D-SB14	?	(2.4)×(0.8)				王江式	
62	D-SB15	方形	4.16×4.10				青山式(浪ノ上式)	
63	D-SB16	?	(2.5)×(2.0)				王江式	
64	D-SB17	隅田方形	2.28×2.24			5	?	
65	D-SB18	方形か長方形	(1.3)×(1.3)				瓜郷上層第3様式	
66	D-SB19	方形か長方形	(1.0)×2.16				王江式	
67	D-SB20	隅田方形	2.80×2.58				王江式	
68	D-SB21	?	(2.5)×(2.5)				王江式	
69	D-SB22	?	(1.3)×(3.2)				瓜郷上層第3様式	

番号	遺構名	平面形	床面の規模(m)	貯蔵穴	炉址	面積(m ²)	時期	備考
70	D-SB23	隅凹方形か隅凹長方形	3.10×(2.5)				王江式	
71	D-SB24	方形か長方形	(2.7)×3.50				王江式	
72	D-SB25	方形か長方形	(0.6)×(0.8)				?	
73	D-SB26	?					?	
74	D-SB27	方形か長方形	(1.4)×(1.7)				?	
75	E-SB1	長方形	3.20×2.72	1	1		青山式	
76	E-SB2	?	(3.0)×(2.8)	2	3		欠山式	
77	E-SB3	方形か長方形	5.20×(5.3)				瓜壺上層第3様式	
78	E-SB4	?	(3.0)×(1.2)				?	
79	E-SB5	方形か長方形	(4.2)×(1.0)				青山式	
80	E-SB6	方形	5.0×(3.2)	2	1		王江式	
81	E-SB7	隅凹長方形	4.80×4.54	2	1	21	王江式	
82	E-SB8	隅凹方形	3.20×3.20	1	0	10	?	
83	E-SB9	方形か長方形	(3.0)×(2.7)				青山式	
84	E-SB10	長方形	3.70×4.40	1	2	16	土師器第3期	
85	E-SB11	隅凹方形	5.00×4.80	1	0	23	王江式	
86	E-SB12	隅凹方形	4.40×4.50	1	3	19	王江式	
87	E-SB13	胴張隅凹方形	3.60×3.50	3	0	12	王江式	
88	E-SB14	隅凹方形	4.10×4.10	1	0	18	青山式(浪ノ上式)	
89	E-SB15	方形か長方形	5.06×(1.5)	0	2		瓜壺上層第3様式	
90	E-SB16	長方形	4.50×4.90	1	3	27	青山式(浪ノ上式)	
91	E-SB17	長方形	3.60×(3.9)	1	0		青山式(浪ノ上式)	
92	E-SB18	長方形	5.10×4.70	1	1	23	王江式	14C年代測定
93	E-SB19	横円形	4.80×3.00	0	0	14	神宮寺式併行	
94	F-SB1	隅凹長方形	6.50×(1.0)				長床式	
95	F-SB2	隅凹長方形	(1.0)×3.10				長床式	
96	F-SB3	隅凹方形か隅凹長方形	6.30×(2.7)	1	0		王江式	
97	F-SB4	隅凹方形	3.50×3.50			12	長床式	14C年代測定
98	F-SB5	長方形	3.40×3.06	1	1	11	寄道式	
99	F-SB6	隅凹方形	4.10×3.70			18	寄道式	
100	F-SB7	隅凹方形か隅凹長方形	(5.20)×(1.0)				長床式	
101	F-SB8	隅凹方形か隅凹長方形	3.90×(1.6)	1	0		長床式	
102	N-SB1	胴張隅凹長方形	3.70×4.82	3	2	21	欠山式	14C年代測定
103	N-SB2	胴張隅凹方形	4.06×(4.14)	1	1		欠山式	14C年代測定
104	I-SB1	胴張隅凹方形	(5.2)×(5.2)			3	欠山式	14C年代測定
105	I-SB2	?				2	欠山式	
106	2-SB1	横円形	5.17×(2.4)				土師器第3期	
107	H-6-SB	隅凹方形か隅凹長方形	(3.15)×5.54				?	古式土師器
108	H-8-SB	隅凹方形か隅凹長方形	(0.8)×(2.3)				?	
109	D-SB28	長方形	3.80×3.00				?	掘立柱建物址

イ 王江期 この時期の竪穴住居址は5・7・8・12・17・19・21・22・31・33・36・39・41・43・44・48・49・50・53・60・61・63・66・67・68・70・71・80・81・85・86・87・92・96の34軒である。この時期には浪ノ上の台地一帯に竪穴住居が構築されている。そのうち浪ノ上1号墳の墳丘裾周辺20mの範囲に11軒の竪穴住居址が認められる。稲荷山2号墳の墳丘裾周辺8mの範囲に1軒の竪穴住居址が認められる。

ウ 青山期 この時期の竪穴住居址は11・14・27・32・35・42・46・47・51・57・58・59・62・75・79・83・88・90・91の19軒である。住居址は台地の中央部東西150m、南北60mの範囲に位置している。

エ 土師器第3期 この時期の竪穴住居址は52・84・106の3軒である。52・106は浪ノ上台地の北側縁端部に、84は南側の中央部に位置している。

(4) 時期不詳

竪穴住居址は4・18・25・34・37・38・40・45・54・56・55・64・72・73・74・78・82の17軒と107の掘立柱建物址の1棟は時期不詳である。

表第17 竪穴式住居址平面形分類表（数字は浪ノ上遺跡竪穴住居址一覧表の番号）

	神宮寺式	樫王式	長床式	寄道式	欠山式	瓜郷上層 第3様式	王江式	青山式	土師器 第3期	時期不詳	合計
楕円形	93		23						106	25	4
小判形		1・2									2
隅円方形			10・13		30	9・20・29	5・8・33・41・ 43・67・85・86	11・14・88		40・64・82	20
隅円長方形				99		6	31・36・81			56	6
隅円方形あるいは 隅円長方形			15・24・94・ 95・100・101				21・22・39・70・96			37・38・45	15
胴張隅円方形							87				1
胴張隅円長方形					102						1
胴張隅円方形あるいは 胴張隅円長方形					103・104		12・17			18	5
方形					28	26	7・44・50・80	27・32・35・62		34	11
長方形				98			60・92	59・75・90・91	84		8
方形・長方形						65・77・89	19・48・49・ 53・66・71	46・47・51・57・ 58・79・83	52	54・55・72・ 74・107・108	23
不明			隅円台形97・16		76・105	3・69	61・63・68			4・73・78	12
合計	1		11	2	7	10	34	19	3	19	108

2、竪穴住居址の時期別面積と平面形

(1) 縄文時代

ア 神宮寺式併行期 竪穴住居址93の面積は14㎡であり、平面形は直径3mの2つの同じ大きさの円をもとに仕上げられた楕円形をしている。

イ 樫王期 竪穴住居址1は西壁が不明であり、竪穴住居址2は東壁が不明なため面積は求められなかった。平面形はともに北壁と南壁は直線であるが、それぞれ残存している東壁と西壁は膨らみをもった曲線を呈していることから小判形に近いものと考えられる。

(2) 弥生時代

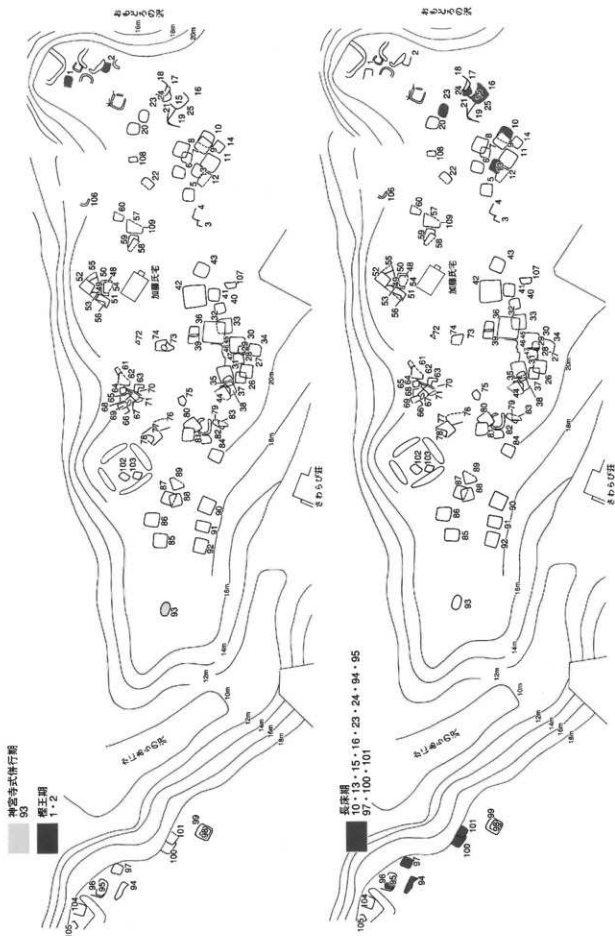
ア 長床期 竪穴住居址11軒のうち面積が求められたのは3軒である。3軒のうちの床面の最小面積は97の12㎡、最大面積は10の25㎡で、平均すると約20㎡である。平面形は隅円方形が10・13の2軒、隅円で方形に近い台形の97が1軒、楕円形が23の1軒、隅円方形が隅円長方形が15・24・94・95・100・101の6軒、不明が16の1軒である。

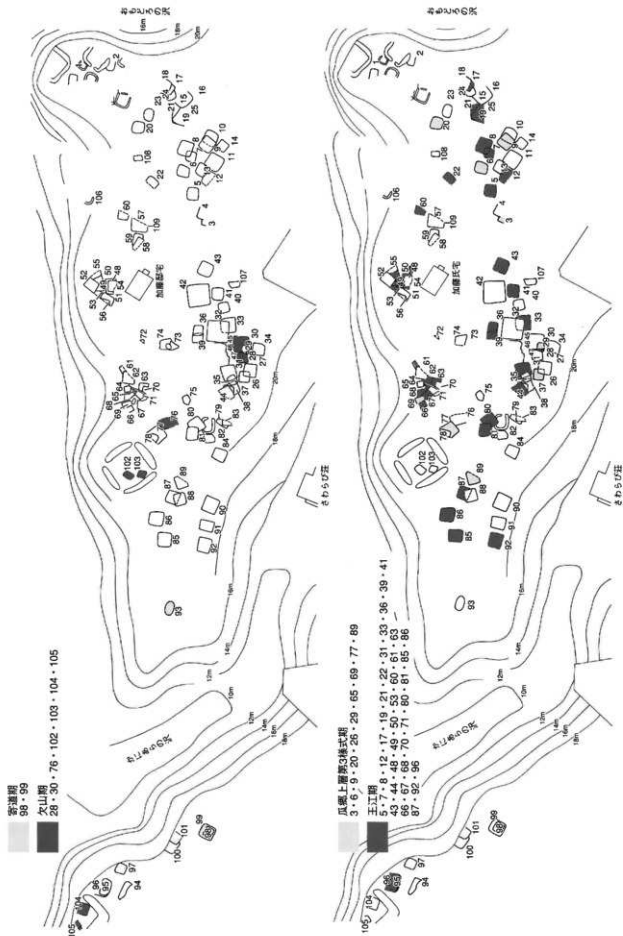
イ 寄道期 竪穴住居址2軒のうち98は床面の面積は11㎡、99のそれは18㎡で、平均すると約15㎡である。平面形は98が長方形、99が隅円長方形である。

ウ 欠山期 竪穴住居址7軒のうち面積が求められたのは3軒である。3軒のうちの最小面積は28の14㎡、最大面積は30の33㎡で、平均すると約23㎡である。平面形は隅円方形が30の1軒、方形が28の1軒、胴張隅円長方形が102の1軒、胴張隅円方形が胴張隅丸長方形が103・104の2軒、不明が76・105の2軒である。

(3) 古墳時代

ア 瓜郷上層第3様式期 竪穴住居址10軒のうち面積が求められたのは5軒である。5軒のうち最小面積は29の8㎡、最大面積は9の26㎡、平均すると約18㎡である。平面形は隅円方形が9・20・29





挿図第130 浪ノ上遺跡における竪穴住居址の分布2

の3軒、隅円長方形が6の1軒、方形が26の1軒、方形か長方形が65・77・89の3軒、不明が3・69の2軒である。

イ 王江期 竪穴住居址34軒のうち面積が求められたのは13軒である。13軒のうち最小面積のものは36と87の12㎡、最大面積は33の32㎡、平均すると約20㎡である。平面形は隅円方形が5・8・33・41・43・67・85・86の8軒、隅円長方形が31・36・81の3軒、隅円方形か隅円長方形が21・22・39・70・96の5軒である。胴張隅円方形が87の1軒、胴張隅円方形か胴張隅円長方形が12・17の2軒、方形が7・44・50・80の4軒、長方形が60・92の2軒、方形か長方形が19・48・49・53・66・71の6軒、不明が61・63・68の3軒である。

ウ 青山期 竪穴住居址19軒のうち面積が求められたのは8軒である。8軒のうち最小面積は75の8㎡で、最大面積は32の64㎡、平均すると約24㎡である。平面形は隅円方形が11・14・88の3軒、隅円方形か隅円長方形が42の1軒、方形が27・32・35・62の4軒、長方形が59・75・90・91の4軒、方形か長方形が46・47・51・57・58・79・83の7軒である。

エ 土師器第3期 竪穴住居址3軒のうち面積が求められたのは84の1軒のみで16㎡である。平面形は楕円形が106の1軒、長方形が84の1軒、方形ないしは長方形が52の1軒である。

(4) 時期不詳

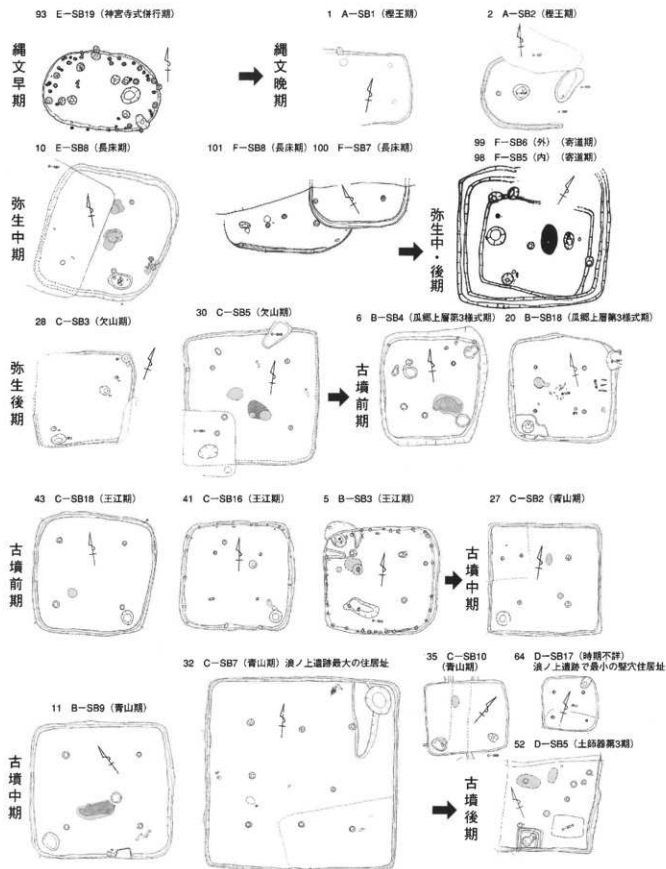
竪穴住居址17軒のうち面積が求められたのは4軒で、そのうち最小面積は64の5㎡、最大面積は34の20㎡、平均は約13㎡である。平面形は隅円方形が40・64・82の3軒、隅円方形か隅円長方形が37・38・45の3軒、胴張隅円方形か胴張隅円長方形が18の1軒、楕円形が25の1軒、方形が34の1軒、方形か長方形が54・55・72・74の4軒、不明が4・73・78の3軒である。107の掘立柱建物2は2柱間×2柱間である。

浪ノ上遺跡での竪穴住居址の時期別平面形は弥生中期の長床式土器の時期では隅円方形ないしは隅円長方形が多いが、弥生後期の欠山式土器の時期には胴張隅円方形ないしは胴張隅円長方形が増えてくる。占墳前期の瓜郷上層第三様式土器、それに続く王江式土器の時期になると竪穴住居址の数が増えている。竪穴住居址の平面形も隅円方形・隅円長方形が16軒、胴張隅円方形・胴張隅円長方形が3軒、方形・長方形が12軒と種類も増えるとともに隅が円から角に変遷している。さらに、古墳中期の青山式土器の時期になると隅円方形・隅円長方形が4軒、方形・長方形が15軒である。隅が円から角への変遷は顕著になってくる。王江式土器の時期には方形が4軒、長方形が2軒であったものが青山式土器の時期には方形、長方形がともに4軒となり、方形から長方形への緩やかな変遷がみられる。古墳後期の土師器第3期の時期は楕円形が1軒、方形が1軒、方形か長方形が1軒となる。

3、浪ノ上遺跡の集落について

浪ノ上遺跡は豊川沖積地に面した標高20m前後の浪ノ上支丘上の縁端部に所在しており、段丘の西側は急峻な段丘崖を成し、段丘の東縁にはおもどろの沢、西縁にはかにあらの沢と呼ばれる小浸食谷が形成されている。これらの沢や台地から15mほど下がった北西側崖下で湧水が確認され(註10)、これらの湧水が生活用水として利用された確率が高い。

神宮寺式併行土器の時期の93や榎王式土器の時期の1・2、長床式土器の時期の10・13・15・16・



挿図第132 浪ノ上遺跡の壁穴住居址平面形の変遷

23・24・94・95・97・100・101、寄道式土器の時期の98・99がおもどろの沢やかにあらの沢の近くの台地上に居を構えたのも湧水が求められたからではなかろうか。また、沢が台地と豊川沖積地を結ぶ連絡路として利用された可能性が伺える。

欠山式土器の時期には沢の周辺だけでなく、台地の中央部にも竪穴住居が構築されている。この時期の住居址が浪ノ上1号墳や稲荷山2号墳の封土下から確認されている。

瓜郷上層第3様式の時期には3・6・9・20・26・29・65・69・77・89の10軒と欠山式の時期より2軒増えている。同じ時期に構築されたと思われる浪ノ上1号墳の墳丘裾から15mの範囲に4軒も竪穴住居が構築され、居住地も浪ノ上1号墳の南側にも広がりを見せている。ほぼ同時期の権現山1号墳は集落から離れた丘陵に構築された前方後円墳であるのに比べると、浪ノ上1号墳は集落近くに所在している。次の王江式の時期になると竪穴住居は浪ノ上の台地一帯に広がりを見せ、36軒と前の時期の3倍も増加している。集落は浪ノ上1号墳の周辺と台地の中央部で東西100m、南北30mの楕円形の範囲とその周辺に竪穴住居が密集している。

次の青山式の時期になると32のように床面積が64㎡の建物構築されている。この時期の最小床面積が75の8㎡、平均が約24㎡であることから32は集会所的な役割の施設と考えられる。さらに、この施設の5m東側で同じような大きさの建物42が認められる。

土器第3期の時期になると3軒と大きく減少し、浪ノ上の集落は衰退したようである(註11)。

区画整理面積は96,001㎡に対して、調査面積は9,875㎡で全体の約1割であることを考えると、浪ノ上遺跡の各時期の竪穴住居址の軒数は多く、集落は大きなものであったと考えられる。

- 註1 片岡肇「神宮寺式押型文土器の様相」『小林知生教授退職記念考古学論集』南山大学小林知生教授退職記念会編 1978
- 註2 紅村弘 他 「篠東第2次・櫛王・行明調査報告書」『篠東』小坂井町教育委員会 1961
- 註3 久永春男「東海地方(土器形式の推移と地域圏)」『新版考古学講座』雄山閣出版株式会社 1969
- 註4 久永春男「弥生式土器」『瓜郷』豊橋市教育委員会 1963
- 註5 久永春男・芳賀陽「欠山遺跡」『瓜郷』豊橋市教育委員会 1963
- 註6 芳賀陽「結語」『豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第93集 瓜郷(Ⅱ)』豊橋市教育委員会 2007
- 註7 久永春男・斎藤嘉彦 杉浦茂治 「王江遺跡」『愛知県碧海郡高浜町の先史・古代遺跡』高浜町誌編纂委員会 1966
- 註8 芳賀陽「青山貝塚一帯美半島における古代漁村の土器」『古代学研究20』古代学研究会 1959
- 註9 斎藤嘉彦・久永春男 「結語」『高橋遺跡発掘調査報告書』豊田市教育委員会 1969
- 註10 石川一美「古希記念伊豆閑話」三遠文化協会 1976・『写真集 ふるさと牛川』豊橋市牛川文化協会 1981
- 『牛河』1959と木下克己氏、伊藤恵氏のご教示
- 註11 挿図第133「浪ノ上遺跡の竪穴住居址平面形の変遷」は伊藤恵氏のご教示により作成したものである。

参考文献

木下克己『愛知県八名郡の先史遺跡』豊橋石巻地区文化財保存会 1975「浪ノ上地区遺跡所在調査の結果報告

について』 1980

木下克己・森田勝三「浪ノ上遺跡範囲確認調査『豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第3集』豊橋市教育委員会 1982

岩瀬彰利『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第96集眼鏡下池北遺跡』豊橋市教育委員会 2008

芳賀陽・伊藤恵「結語」『西山』豊橋市遺跡調査会 1988

小林久彦「まとめ」『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第18集 橋良遺跡』豊橋市教育委員会 1994

第4節 東三河における方形周溝墓と方墳

愛知県の東三河において現在41基ほどの方形周溝墓が知られているが、比較的その平面形がよく残り、伴出遺物からその築造時期が明らかな事例について検討し、平面形を中心としてその形態はどのように変化し、古墳時代前期初頭の方墳に推移するのかを明らかにしたいと思う。

蒲郡市の門前遺跡（註1）で検出された方形周溝墓（挿図第133）は、隅円方形周溝墓（以下、門前SZとよぶ）と称するほど四隅が円く、直角部分がない。南と北の辺はほぼ直線で、東と西の辺は胴張りの曲線をなし、全体として小判型であり、北西部で周溝が切れ、陸橋が1箇所つくられている。溝からの伴出土器は少量の続水神平式土器で、弥生中期前葉に属し、現在東三河で最古の方形周溝墓とされている。

弥生中期の中葉から後葉にかけての方形周溝墓の発掘例は比較的多い。豊橋市東脇一丁目の見丁塚F遺跡（註2）の方形周溝墓（以後、見丁塚SZとよぶ）、豊橋市橋良遺跡（註3）の1次・2次調査（SZ-1・2）、3次調査（SZ1・2）、4次調査（SZ1-10）、6次調査（SZ1-4）、豊川市麻生田大橋遺跡（註4）のSX1-SX6、豊川市小坂井町の吉添第1地点、同第2地点（註5）、豊橋市森岡SZ（註6）などがある。方形の各辺に4条の周溝を掘り、四隅を掘り残して陸橋とするタイプと考えられている。また周溝の共有（橋良第4次例・麻生田SX2・3・4の例）も明らかにされている。しかし、4条あるべき周溝の一边がなくコの字型となったり、二辺がなくニの字型となる例も併存するのではなかろうか。橋良1次・2次のように、3条の周溝が検出され、残る1条の位置が調査区外であったり、削平されている場合は明確でないが、麻生田大橋のSX1や吉添第1地点のように調査区の範囲が広く、削平もない好条件であっても、4条の溝が検出されない例があるからである。見丁塚SZの場合は、北西周溝と南西周溝が検出されている。北東部は道路となり破壊されていると推定されるが、南東周溝は、表土を削平された区域とはいえ、南西周溝の東端部はそこで検出されているのであるから当初から掘られなかったものと判断される。コの字型周溝は、橋良第4次調査のSZ-2、SZ-7、SZ-10などにも認められるようである。

弥生後期前葉の時期の方形周溝墓は豊川市大木町山ノ奥SZ1・2（註7）がある。後期後葉の穴山期の方形周溝墓は新城市上平井のタイカ遺跡（註8）、豊川市小坂井町の栗原地区（註9）の方形周溝墓と浪ノ上A-SZ2（註8）の3例が確認されている。タイカSZの場合、周溝が南東隅で切れ陸橋をなしている。栗穴SZは、四周のうち南東周溝を欠損するが、周溝の切れ目の南西周溝の中間点が陸橋となり、中央やや東寄りに埋葬主体部を有している。浪ノ上A-SZ2は、南東周溝を土取りで欠損するが、北東、北西、南西周溝はよく残存する。陸橋は2箇所あり、一つは北西周溝の西寄り、他は南西周溝と南東周溝の接する位置にある。いずれの方形周溝墓も、周溝の外縁のラインは胴張りで、コーナーは隅円であるが、周溝の内縁すなわち方台部の四辺は直線で、コーナーは直角状を呈する点は弥生中期前葉の門前SZとの大きな相違点である。

古墳時代前期前葉の前川期として浪ノ上A-SZ1（註10）と浪ノ上8-SZ1（註11）とがある。浪ノ上A-SZ1は、南東周溝と南西周溝を残し、北半部は土取り工事のため滅失している。現状で

表第18 東三河の方形周溝墓地名表

番号	名称	地名	発掘年	発行年	周溝墓数	主体部	平面形	時期
1	タイカ	新城市	1999	1979	1	?	方形	欠山
2	見丁塚F	豊橋市	1976	2001	1	?	?	下長山
3	門前	蒲郡市	1978	1980	1	?	小判型	綾木神平
4	浪ノ上 8-SZ1・2	豊橋市	1980	2010	2	有	方形	古墳前期初頭
5	浪ノ上 A-SZ1-5	豊橋市	1981	2009	5	有	方形	欠山-前川
6	浪ノ上 E-SZ1	豊橋市	1982	2010	1	?	方形	?
7	麻生田大橋	豊川市	1987 1989	1993	6	?	方形	中期後葉
8	橋良1次・2次 SZ1・2	豊橋市	1989	1994	2	?	?	長床
9	森岡SZ1	豊橋市	1989	1991	1	?	長方形?	高蔵
10	小坂井・吉澤1次・2次	豊川市	1994 1996	1998	2	?	?	瓜郷
11	小坂井・栗穴	豊川市	1997 1998	1998	1	有	方形	欠山
12	山ノ奥SZ1・2	豊川市	1997-1999	2008	2	?	不整形方形	寄道
13	橋良3次 SZ1・2	豊橋市	1998	1999	2	?	?	下長山
14	橋良4次 SZ1-SZ10	豊橋市	2001	2002	10	?	方形 長方形	古井
15	橋良6次 SZ1-SZ4	豊橋市	2005	2008	4	?	方形	長床

は周溝の切れ目は不明で陸橋の有無もわからない。周溝外縁は胴張りで、コーナーは凹いが、内縁のラインは直線的で、特にコーナーは直角で幅が狭い。埋葬主体部は中央やや南にあり、東西に主軸をもつ。浪ノ上8-SZ1は、同8-SZ2を切ってつくられており、東に口を開いた逆コの字型をなし、東辺は短い1条の周溝を備えている。南西部には、主軸を北西-南東とする埋葬主体部が設けられている。

以上、伴出遺物によって時期の明らかな方形周溝墓を概観してきたが、出土遺物が乏しかったり時期の異なる土器が混入する方形周溝墓を再検討してみたい。

浪ノ上A-SZ3は、浪ノ上A-SZ2の北西周溝の北部にびたっと寄り添うようにつくられた方形周溝墓で、陸橋を北東周溝と南東周溝の接点においている。外縁は胴張りしているが内縁は直直しコーナーも直角を示していることから欠山期の特徴をもつと考える。

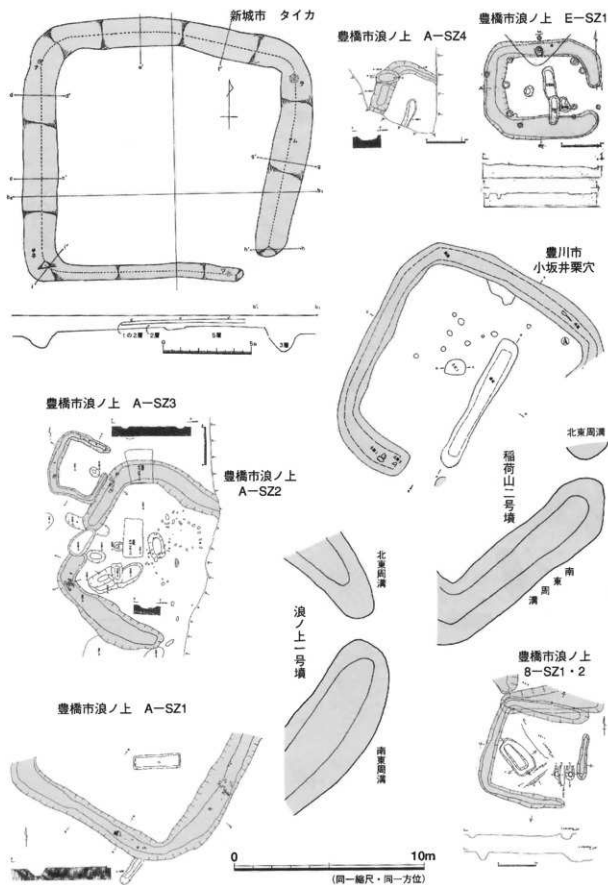
浪ノ上A-SZ4は、A-SK16によって周溝の北西部を切られている。A-SK16にはA-SZ1に伴出した碗と同じものが出土しているので、A-SZ4は、A-SZ1よりも古い時期と推定される。周溝の外縁や内縁はコーナーにおいて曲線を描くが、内縁は直線的である。このような点から欠山期より古く、中期の長床期よりは新しい時期に絞られる。

浪ノ上A-SZ5は、A-SK1（縄文晩期中葉の稲荷山式土器を伴出）を切っている。平面形はA区の5基の方形周溝墓の中で最も円形に近い。晩期末葉の櫛王式土器を伴出するA-SB1とA-SB2の中間に在り、溝中には1片の櫛王式土器片を有する。縄文晩期末葉から弥生中期前葉の間あたりという時期が推定できる。

浪ノ上E-SZ1は、陸橋が南東部にある。新城市タイカ方形周溝墓とほぼ同じ平面形をとり、そ



挿図第134 東三河における方形周溝墓2



挿図第135 東三河における方形周溝墓3 及び方墳の周溝(部分)

の6分の1ほどの大きさである。矢山期とみてよいであろう。

方形周溝墓の周溝内縁の直行する線や四隅の直角のコーナーは、そのまま方墳の平面形に伝統的に受け継がれていく。棺槨の残存していたA-SZ1の中で特に注目されるのは、土壌の東端に並べられた16個の礫であり、西端に置かれた13個の礫である。径5cm～10cm大の円礫や角礫が南北に並ぶ状況は、浪ノ上1号墳を調査したさなみ会の日誌の中の一節を想起させる。それは、「第1住居趾の形状は、長軸5m、短軸4mの隅円の長方形であって、壁の上部に沿って12個の石が不規則に並んでいた。」という一節である。壁の上部の12個の石列は、A-SZ1の土壌の石列と関係があるのではないか。封土の有無は方形周溝墓の場合不明であるが、周溝の内縁を直線状に削り出して四周を整えるという構築法も似ている点である。しかし、方形周溝墓と方墳を分ける基本的規準は、周溝の幅である。大型とされる浪ノ上A-SZ1であっても、周溝の幅は0.94m～1.80m（上端）である。A-SZ2もほぼ同規模である。しかし、浪ノ上1号墳でも稲荷山2号墳でも周溝の幅は3mをはるかに超える大きさである。深さはそれほどの差はなく、長さにも大きな差はないが、周溝幅を広く設定することは、その後の中期の古墳にも継承されていくのである。

- 註1 小野田勝一、竹内尚武、森田勝三、小畑頼孝、園井正隆、伊藤忍、増田弘美、久永春男『門前遺跡』 蒲都市教育委員会 1980
- 註2 森田勝三、小畑頼孝「見丁塚遺跡F地点」『豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第59集 東脇遺跡群』 豊橋市教育委員会 2001
- 註3 小林久彦、水野季彦『豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第18集 橋良遺跡』 豊橋市教育委員会 1994
岩瀬彰利『豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第51集 橋良遺跡（Ⅱ）』 豊橋市教育委員会 1999
岩瀬剛『豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第62集 橋良遺跡（Ⅲ）』 豊橋市教育委員会 ユタカ自動車総業株式会社 2002
小林久彦「橋良遺跡第6次発掘調査」『豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第97集 市内遺跡発掘調査 平成17年度』 豊橋市教育委員会 2008
- 註4 林弘之、前田清彦、小島隆、片山洋、薬科哲男、斎藤嘉彦『麻生田大橋遺跡発掘調査報告書』 豊川市教育委員会 1993
- 註5 中村文哉、鈴木徹、安井俊則、川瀬久美子、中井信之、バリノ・サーヴェイ（株）、芦谷美奈子、井関弘太郎『篠東遺跡群』 小坂井町教育委員会 1998
- 註6 北村和宏他『森岡遺跡・淡洲神社北遺跡』愛知県埋蔵文化財センター 1991
- 註7 天野暢保『新城市上平井タイカ遺跡』 新城市教育委員会 1979
- 註8 前田清彦・栗原将人『愛知県豊川市山ノ奥遺跡』豊川市教育委員会 2008
- 註9 註5と同じ
- 註10 住吉政浩、小畑頼孝、芳賀隆、伊藤忍『豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第100集 浪ノ上 Ⅰ』 豊橋市教育委員会 2009
- 註11 森田勝三「付載 三菱レイヨン送還水管施設移設工事に伴う発掘調査（第2地区・第8地区）」本書所収 2010

第7章 結語

昭和55年4月2日、浪ノ上地区の遺跡範囲確認調査を終えた木下克己氏（範囲確認調査担当者）は、その調査報告（註1）の結びの言葉として、次のように誌されている。

「今回の試掘面積は、浪ノ上地区の全体から見れば、まことに僅少な面積であり、今回の試掘は、飽くまで面ではなく、線でもなく、点にしか当たらないことを忘れてはならない。それに初めに述べた如く、浪ノ上を囲む遺跡群の存在を銘記して、区画整理事事前に実施すべき調査、工事中に注意すべき箇所などふまえて、貴重な埋蔵文化財の保護、保存に配慮されることを願いたい。」

病身を押して、10地区約65㎡の試掘から、竪穴住居址2ヶ所、土構4ヶ所、溝4ヶ所、土器207点以上を検出した木下氏は、「遺物は数の多少こそあれ、どれからも採集された。柱穴、堀（溝）などが少しでも発見された箇所は全体の半数以上に及び、この試掘箇所は、さらに発掘面積を拡大すれば住居址やその他の遺構になる可能性が高い。」（註2）とも述べられている。

同年8月31日から9月26日まで三菱レイヨン送還水管移設工事に伴う発掘調査が行われた。参加者17名、第2地区251㎡、第8地区191㎡での発掘調査（本書付載）の結果、竪穴住居址1軒、方形周溝第2基、土構7基、ピット群、土器128点、石器11点等が検出されたが、木下氏は病状が悪化し同年12月31日ご逝去（註3）された。

昭和56年3月からは牟呂地区区画整理事業（註4）が始まり、同年57年7月からは瓜郷地区（註5）で豊橋市宮下水道事業の工事が予定され、その他に大岩町岩屋下古窯調査（註6）、娘田古窯址（註7）、橋良東郷古窯址（註8）の調査、城戸中遺跡調査（註9）、西山遺跡（註10）の調査と発掘調査が実施されるなかで、豊橋牛川浪ノ上東部土地区画整理事業は本格化し、昭和56年5月31日から6月30日まで浪ノ上第1次発掘調査がA区で開始されたが、この時、区画整理総面積96,001㎡の地積のうちの東半分は、調査前に削平され区画整理が完了していた。第1次調査から第4次調査までの推移を表と

表第19 浪ノ上遺跡発掘調査の概要

調査地区	発掘面積(㎡)	遺 構									遺 物		
		参加人数	竪穴住居址	掘立柱建物址	土 構	近世土壌	方 形周溝	屋外炉	ピット群	集石遺構	土器	石器	金属製品
A 区	450	50	2	0	22	0	5	0	0	0	55	7	10
B 区	2,000	53	23	0	17	0	0	0	0	0	210	21	4
C 区	1,500		22	0	6	0	0	0	0	0	106	5	4
D 区	1,500	20	27	1	30	0	0	0	0	0	381	10	1
E 区	2,300	48	19	0	15	33	1	7	1	1	370	63	0
F 区	700		8	0	5	0	0	0	0	0	75	2	1
浪ノ上1号墳	730	35	2	0	3	0	0	0	0	0	262	9	1
稲荷山2号墳	115		2	0	2	0	0	0	0	0	35	4	0
合計	9,295	206	105	1	100	33	6	7	1	1	1,494	121	21

してまとめる。

昭和54年9月から開始した浪ノ上の調査は、3年余に亘り昭和57年9月10日終了した。遺跡確認調査面積は63.75㎡であり、それは浪ノ上全地積96,001㎡の0.07%という小さな点であったが、最終時には調査面積が9,800.75㎡となり、全体の10.2%に達した。

そして、調査された遺構は、竪穴住居址109軒、掘立柱建物1軒、土壌110基、近世土壌墓33基、方形周溝墓8基、方墳2基、屋外炉址7ヶ所、ピット群8ヶ所に達した。遺物は、土器1661点、石器132点、金属製品21点で総数1814点となった。

「面ではなく、線でもなく、点にしか当たらない」とされた試掘調査から、いくつかに分断されながらも第2地区・第8地区・A区・B区・C区・D区・E区・F区・浪ノ上1号墳・稲荷山2号墳という面の調査ができ、稲荷山1号墳の保存が実現するまでには、関係者の並々なぬ尽力があったことを銘記したい。

それまでの区画整理事業では埋蔵文化財調査はほとんど試掘調査で完了していたが、この豊橋牛川浪ノ上東部土地区画整理事業以後全面的な発掘調査が行われることが多くなってきた。このことは、浪ノ上の調査が豊橋市の埋蔵文化財保護をすすめる上での重要な一里塚であったことをしめしている。

註1 木下克己 「浪ノ上地区遺跡所在調査の結果報告について」 1980

註2 木下克己・森田勝三「浪ノ上遺跡範囲確認調査」『豊橋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第3集』豊橋市教育委員会 1982

註3 「香花」刊行会編集「香花 木下克己追悼集」 1982

註4 伊藤應 「牟呂遺跡調査の歩み」『豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第48集 築根遺跡・大海津遺跡（1）』豊橋市教育委員会 1998

註5 芳賀陽 「豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第93集 瓜郷（Ⅱ）」豊橋教育委員会 2007

註6 芳賀陽・石川明弘・小畑頼孝「豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第5集 岩屋下古窯」豊橋市教育委員会 2000

註7 伊藤應 「鍛田古窯」『豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第81集 豊橋南西部古窯址群』豊橋市教育委員会 2004

註8 伊藤應 「橋良東郷古窯」『豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第74集 東龍田古窯・橋良東郷古窯』豊橋市教育委員会 2003

註9 芳賀陽他 「豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第75集 城戸中遺跡」豊橋市教育委員会 2003

註10 芳賀陽他 「西山」豊橋市遺跡調査会 1988

表第20 浪ノ上遺跡E区出土 土器観察表

実測 番号	検出 番号	出土 地点	層位	器種	部位	法量 (cm)										口縁部 残存率	部群 相#
						口径	肩径	底径	脚上 部径	脚上 部台径	器高	坯高	頸高	胴高	脚高	脚台高	
1	E-14	SB5	ビツ内	高坏	坏部	18.6											55
2	E-28	SB11	床面	壺	口縁部	15.9											10
3	E-34	SB11	床面	高坏	坏部	23.9											12
4	E-32	SB11	床面	壺	底部				3.9								100
5	E-31	SB11	床面	壺	底部				3.6								100
6	E-75	SB16	床面	壺	口縁部	24.0											25
7	E-29	SB11	床面	壺	口縁部	10.2	8.4						8.1				16
8	E-72	SB16	貯蔵穴内	甕	下胴部-脚台部				5.1								
9	E-74	SB16	床面	壺	口縁部-底部	10.8	14.4				14.1		6.6	8.0			80 90
10	E-83	SB16	床面	高坏	坏部	20.3											25
11	E-76	SB16	埋土	高坏	坏部	16.2											23
12	E-80	SB16	床面	高坏	脚部				4.2								
13	E-77	SB16	床面	高坏	坏部	20.1			4.5			6.6					15
14	E-84	SB16	床面	甕台	脚部				4.5	9.3						5.4	45
15	E-73	SB16	床面	壺	口縁部-底部	7.8	8.7				6.3		0.7				80 100
16	E-79	SB16	床面	高坏	脚部				2.4	10.5						8.1	20
17	E-71	SB16	床面	壺	口縁部	15.3							2.1				32
18	E-78	SB16	床面	高坏	坏部	18.9			4.5				4.5				30
19	E-82	SB16	床面	高坏	坏部-脚部				3.6								
20	E-18	SB6	床面	高坏	脚部				4.0	14.4						5.4	72
21	E-16	SB6	床面	甕	口縁部-上胴部	19.5	21.3						1.5				17
22	E-15	SB6	床面	甕	口縁部	20.4							1.5				10
23	E-19	SB6	床面	高坏	坏部	22.9						10.2					31
24	E-42	SB12	床面	壺	底部				5.9								100
25	E-44	SB12	床面	壺	底部				8.4								45
26	E-37	SB12	貯蔵穴内	壺	口縁部								1.5				3
27	E-38	SB12	埋土	深鉢	口縁部												2
28	E-39	SB12	床面	壺	上胴部												
29	E-93	SB17	ビツ内	高坏	坏部	20.1											15
30	E-96	SB17	床面	高坏	脚部					12.9							26
31	E-94	SB17	床面	高坏	脚部				3.1								
32	E-95	SB17	床面	高坏	脚部				3.3								
33	E-20	SB7	床面	壺	底部				7.5								36
34	E-8	SB3	床面	甕	口縁部-上胴部	14.8							2.4				40
35	E-11	SB3	床面	壺	上胴部												
36	E-102	SB18	床面	壺	胴部												
37-①	E-99	SB18	床面	甕	口縁部-上胴部	15.0	15.9						2.4				15
37-②	E-100	SB18	床面	壺	上胴部												
38	E-103	SB18	床面	高坏	坏部												4.5
39	E-46	SB13	床面	甕	下胴部-脚台部				6.6	11.1							58
40	E-51	SB14	床面	甕	口縁部	11.7							1.7				15
41	E-55	SB14	床面	高坏	坏部-脚部	15.6			3.3			7.2					40
42	E-56	SB14	床面	高坏	坏部-脚部	18.0			3.6		13.1	5.4				7.8	20 55
43	E-58	SB14	床面	高坏	脚部				3.9								
45	E-57	SB14	床面	高坏	脚部				4.5	12.6						7.5	90
46①	E-53	SB14	床面	壺	口縁部	9.6											70
47	E-50	SB14	床面	甕	脚台部				2.1	6.3						4.5	100
48	E-59	SB14	床面	高坏	脚部					3.0							
49	E-54	SB14	床面	壺	下胴部-底部												
50	E-49	SB14	床面	甕	脚台部				3.3	9.6						5.4	55
51	E-52	SB14	床面	壺	胴部												
52	E-61	SB15	床面	甕	口縁部-胴部	18.3	19.5						2.4				95
53	E-66	SB15	埋土	高坏	脚部				3.6								
54	E-67	SB15	埋土	壺	胴部-底部		9.0										
55	E-68	SB15	床面	甕	口縁部-底部	9.0		3.6			5.1						10 90
56	E-65	SB15	埋土	高坏	坏部	17.7											50

調 整		胎 土	焼成	色調	備 考
内 面	外 面				
ヨコナデ,ナデ	ヨコナデ,ナデ	密	硬	明茶褐色	黒斑あり
不明	ナデ	砂粒を含む	軟	白黄色	2条の梯状浮文
ヨコナデ,ナデ	不明	密	硬	茶褐色	
ナデ	ハケメ	密	硬	暗黄褐色	黒斑あり
ナデ	ハケメ	5mm前後の石粒を含む	硬	茶褐色	黒斑あり
ヨコナデ	ヨコナデ	密	硬	淡茶褐色	
ヨコナデ	ハケメ,ヨコナデ	密	硬	明茶褐色	
ナデ	ハケメ,ナデ	5mm前後の石粒を含む	硬	暗茶褐色	胴部内面に炭化物
ヨコナデ,ナデ 指痕	ヨコナデ,ナデ	密	硬	淡茶褐色	丸底蓋
ヨコナデ,ナデ	ヨコナデ,ナデ	密	硬	淡茶褐色	
ヨコナデ,ナデ	ヨコナデ,ナデ	5mm前後の石粒を含む	硬	暗茶褐色	
ヘラケズリ	ミガキに近いナデ	密	硬	暗茶褐色	へう記号
ヨコナデ,ナデ	ヨコナデ,ナデ	密	硬	淡茶褐色	
ナデ,指痕	ナデ	5mm前後の石粒を含む	やや軟	茶褐色	
ナデ,指痕	ナデ,指痕	砂粒を含む	やや軟	赤褐色	丸底蓋
ヨコナデ,指痕	ミガキに近いナデ	密	硬	淡茶褐色	
ヨコナデ,指痕	ヨコナデ,指痕	砂粒を含む	硬	赤褐色	黒斑あり
ヨコナデ,指痕	ヨコナデ,ナデ	密	硬	淡茶褐色	
ヨコナデ,ヘラケズリ	ヨコナデ,ナデ	密	硬	茶褐色	
ヨコナデ,ナデ	ヨコナデ,ナデ	9mm前後の石粒を含む	硬	黄白色	胴部3か所に円孔
ヨコナデ	ヨコナデ,ハケメ	砂粒を含む	硬	黄白色	口縁部に炭化物
ヨコナデ	不明	砂粒を含む	やや軟	黄白色	
ハケメ,ナデ	ハケメ,ヨコナデ,ナデ	密	硬	明茶褐色	黒斑あり
不明	ナデ	砂粒を含む	硬	淡茶褐色	底面に指による凹み
ナデ	ハケメ,ナデ	砂粒を含む	硬	黒褐色	
ハケメ,ナデ	ハケメ,ヨコナデ	密	硬	黄白色	
ナデ	条痕	7mm前後の石粒を含む	硬	明茶褐色	口縁内面に条痕
ナデ	ハケメ,ナデ	石粒を含む	硬	白黄色	赤彩,刷目文
ヨコナデ,ナデ	ヨコナデ	5mm前後の石粒を含む	硬	白黄色	
ヨコナデ,ケズリ	不明	砂粒を含む	やや軟	淡赤褐色	
ヘラケズリ,指痕	ナデ	9mm前後の石粒を含む	硬	淡黄褐色	黒斑あり
ヨコナデ,指痕	ナデ	密	硬	淡黄褐色	
ハケメ,ナデ	ナデ	砂粒を含む	やや軟	淡黄褐色	
ハケメ	ハケメ,ヨコナデ	砂粒を含む	硬	黄白色	口縁部に炭化物
ナデ	ナデ	3mm前後の石粒を含む	硬	淡黄褐色	横線文,刷目文,連続刺突文
ハケメ,ナデ	ナデ	砂粒,雲母を含む	硬	黄白色	赤彩
ハケメ,ナデ	ヨコナデ,ナデ	5mm前後の石粒を含む	硬	暗茶褐色	
不明	ハケメ,ナデ	密	硬	暗茶褐色	L.R横文
ヨコナデ,ナデ	ヨコナデ,ナデ	密	硬	暗茶褐色	
ハケメ,指痕,ヨコナデ,ナデ	ハケメ,ナデ	9mm前後の石粒を含む	硬	淡茶褐色	
不明	ヨコナデ,ナデ	密	軟	淡茶褐色	
ハケメ,ナデ	ヘラミガキ	密	硬	淡茶褐色	胴部3か所に円孔
ヨコナデ,ケズリ,指痕	ヨコナデ,ナデ	密	硬	黄褐色	
ナデ	ハケメ,ナデ	砂粒を含む	硬	淡黄褐色	
ヨコナデ,ケズリ	ナデ	密	硬	茶褐色	
ヨコナデ	ヨコナデ	密	硬	暗茶褐色	
ヨコナデ,ケズリ	ハケメ,ナデ	密	硬	茶褐色	
ヨコナデ,指痕	ミガキに近いナデ	密	硬	暗茶褐色	
不明	ヨコナデ,ナデ	砂粒を含む	硬	暗黄褐色	丸底蓋
ヨコナデ,指痕	ナデ	6mm前後の石粒を含む	硬	茶褐色	
ハケメ,ナデ	ハケメ,ヨコナデ	密	硬	灰黄色	
ハケメ,ヨコナデ	ハケメ	密	硬	暗黄褐色	内外面に炭化物
ヨコナデ,指痕	ナデ	密	硬	淡赤褐色	
ナデ,指痕	ナデ	密	硬	暗茶褐色	丸底蓋
ヘラミガキ	ヘラミガキ	密	硬	暗茶褐色	底面に指による凹み
ヨコナデ,ナデ	ヨコナデ,ナデ	密	硬	淡黄褐色	

実測 番号	採回 番号	出土 地点	層位	器種	部位	法量 (cm)										口縁部 残存率	特殊 形状
						口径	胴径	底径	脚上 部径	脚注 部径	器高	坯高	頸高	胴高	胎高 部径		
57	E-64	SB15	埋土	高坏	坏部	18.0										28	
58	E-62	SB15	埋土	壺	口縁部	13.8								3.0		11	
59	E-63	SB15	床面	高坏	坏部-脚部	19.6			3.3	8.1	15.0	8.1			6.9	65	48
60	E-25	SB10	床面	坏身	口縁-底部	14.1					5.1					12	65
61	E-23	SB10	床面	瓶	口縁部	21.6										40	
62	E-438	E-1	表土層	壺	口縁部	18.3										13	
63	E-379	SZ9	埋土	かわらけ	ほぼ完形	9.9		6.0			2.1					98	
71	E-426	E-2	黒色有機土層	甕	脚台部				4.5	9.3					4.8	50	
72	E-430	E-2	黒色有機土層	甕	脚台部				5.2	9.3					4.9	75	
73	E-431	E-2	黒色有機土層	甕	脚台部				6.0	10.0					5.7	90	
74	E-429	E-2	黒色有機土層	甕	脚台部				4.6	8.1					3.0	80	
75	E-432	E-2	黒色有機土層	壺	口縁部	10.5										23	
76	E-433	E-2	黒色有機土層	埴瓶	胴部		17.1						4.2				
77	E-395	E-グレンヂ		甕	口縁部-胴部	15.0	12.9										
78	E-400	E-グレンヂ		壺	口縁部	6.0							1.8			31	
79	E-396	E-グレンヂ		甕	口縁部	20.0							3.9			8	
80	E-435	E-2	黒色有機土層	甕台	坏部-脚部	10.6			3.2				1.8			85	
81	E-384	SZ31	埋土	かわらけ	完形	8.4						2.7				100	
82	E-26	SB10	埋土	土製支脚			7.5	4.5			1.6						
83	E-425	E-2	黒色有機土層	壺	口縁部	25.8		8.4								12	
84	E-427	E-2	黒色有機土層	甕	脚台部				5.1	8.7					3.3	62	
85	E-428	E-2	黒色有機土層	甕	脚台部				4.5	7.2					3.2	90	
86	E-397	E-グレンヂ		甕	口縁部											15	
87	E-386	SK37	埋土	碗	口縁部	14.1										30	
88	E-378	SZ6	埋土	高坏	坏部	18.3										20	
89	E-380	SZ10	埋土	深鉢	口縁部	27.0										5	
90	E-377	SZ5	埋土	蓋坏	坏蓋												
91	E-376	SZ4	埋土	甕	口縁部	16.2										5	
92	E-375	SZ4	埋土	甕	口縁部								1.2			5	
93①	E-436	E-2	黒色有機土層	高坏	脚部				3.0								
93②	E-441	E-3	表土層	壺	口縁部	13.5										10	
94	E-442	E-3	表土層	壺	上胴部												
95	E-81	SB16	床面	高坏	胴部			4.2	12.0						7.2	13	
96	E-403	E-グレンヂ		壺	口縁部-上胴部	16.2										21	
97	E-402	E-グレンヂ		壺	口縁部	21.0							4.0			15	
98	E-411	E-1-3	黒色有機土層	甕	脚台部				4.8	9.1			3.9			85	
99	E-410	E-1-3	黒色有機土層	甕	脚台部				5.4	8.1			4.5			100	
100	E-406	E-1-3	黒色有機土層	甕	口縁部	18.0							4.2			13	
101	E-414	E-1-3	黒色有機土層	甕台	坏部								4.0				
102	E-415	E-1-3	黒色有機土層	高坏	脚部				4.5								
103	E-412	E-1-3	黒色有機土層	甕	脚台部				5.1								
104	E-407	E-1-3	黒色有機土層	甕	口縁部-上胴部	15.2										14	
105	E-413	E-1-3	黒色有機土層	壺	口縁部-上胴部	12.0							1.1			13	
106	E-408	E-1-3	黒色有機土層	甕	脚台部				6.0	9.9			2.7		4.5	30	
107	E-409	E-1-3	黒色有機土層	甕	F胴部-脚台部				5.2	7.2					3.6	100	
108	E-401	E-グレンヂ		深鉢	口縁部-胴部	34.2	34.4									24	
109	E-69	SB16	床面	甕	口縁部-下胴部	15.3	21.9						3.9			85	
112	E-60	SB15	埋土	壺	口縁部	20.3									3.0		
115	E-381	SZ13	埋土	壺	底部			6.6								75	
116	E-383	SZ27	埋土	壺	下胴部												
117	E-394	E-グレンヂ		壺	底部			9.3								40	
118	E-382	SZ26	埋土	かわらけ	口縁部	9.6										28	
119	E-17	SB6	床面	壺	口縁部											5	
120	E-21	SB7	床面	瓶	口縁部											14	
121	E-24	SB10	床面	坏蓋	口縁部											2	
122	E-398	E-グレンヂ		壺	底部			6.6								28	

調 整		胎 土	焼成	色調	備 考
内 面	外 面				
ヨコナデ	ヨコナデ,ナデ	3mm前後の石粒を含む	やや軟	茶褐色	
ハケメ,ヨコナデ	ヨコナデ,ナデ	砂粒を含む	やや軟	黄白色	
ヘラミガキ,ハケメ,ナデ	ヘラミガキ	密	硬	暗茶褐色	胴部に横線,3か所に円孔
回転ナデ	回転ナデ,回転ケズリ	密	硬	青灰色	
ハケメ,ナデ,指痕	ハケメ,ナデ,指痕	9mm前後の石粒を含む	硬	茶褐色	口縁部外面に炭化物
不明	ハケメ,ヨコナデ	密	軟	明茶褐色	
指痕,ヘラナデ	指痕,ナデ	密	硬	黄白色	
ナデ,指痕	ハケメ,ナデ	砂粒を含む	やや軟	暗茶褐色	
ハケメ,ナデ	ハケメ	砂粒を含む	やや軟	淡黄褐色	
ハケメ,ナデ	ハケメ	砂粒を含む	硬	淡黄褐色	
ハケメ,ナデ	ハケメ,ナデ	密	硬	赤褐色	
ハケメ,ヨコナデ	ハケメ,ヨコナデ	密	やや軟	淡赤褐色	
回転ナデ	回転ナデ	密	硬	青灰色	上部に降灰
ハケメ,ヨコナデ	ハケメ,ヨコナデ	密	やや軟	暗黄褐色	
不明	ハケメ	砂粒を含む	硬	黄白色	
不明	不明	砂粒を含む	硬	暗黄褐色	口部に刻み
ヨコナデ	ヨコナデ,ヘラミガキ	密	硬	淡黄褐色	胴部3か所に円孔
ナデ	ナデ	雲母を含む	やや軟	灰黄色	
不明	ナデ	1.5cm前後の石粒を含む	硬	赤褐色	
不明	ハケメ,ヨコナデ	砂粒を含む	軟	茶褐色	口縁内外面に羽状文
ナデ	ナデ	砂粒を含む	やや軟	淡黄褐色	
ヨコナデ,指痕	ハケメ,ナデ,ヨコナデ	密	硬	暗茶褐色	
ヨコナデ	ヨコナデ	砂粒を含む,雲母を含む	硬	淡茶褐色	S字罫
回転ナデ	回転ナデ	密	硬	灰白色	
ヨコナデ,ナデ	ヨコナデ,ナデ	密	硬	茶褐色	
ヨコナデ	条痕	砂粒を含む,雲母を含む	硬	黄褐色	口縁に貝殻による押引文
回転ナデ	回転ナデ,回転ヘラケズリ	密	硬	青灰色	
ハケメ,ヨコナデ	ハケメ,ヨコナデ	砂粒を含む	軟	黄白色	S字罫
不明	ヨコナデ,ナデ,指痕	6mm前後の石粒を含む	軟	淡黄褐色	
ヨコナデ,ヘラケズリ	ミガキに近いナデ	密	硬	茶褐色	
ヘラミガキ	ヨコナデ,ヘラミガキ	砂粒を含む	硬	暗茶褐色	
ナデ	ナデ	密	硬	明茶褐色	赤彩
ナデ,ユビナデ	ナデ	9mm前後の石粒を含む	硬	赤褐色	
ヨコナデ,ハケメ,ナデ	ハケメ,ヨコナデ,ナデ	砂粒を含む	硬	白黄色	
ヨコナデ,ハケメ	ヨコナデ,ナデ	密	やや軟	黄褐色	赤彩
ナデ	ハケメ,ナデ	砂粒を含む	やや軟	淡茶褐色	
ナデ	ハケメ,ナデ	砂粒を含む	硬	淡茶褐色	
ハケメ	ハケメ,ヨコナデ	砂粒を含む	硬	淡黄褐色	
ヨコナデ	ヨコナデ	密	やや軟	黄白色	
不明	ヘラミガキ	砂粒を含む	軟	淡黄褐色	胴部3か所に円孔
不明	ハケメ,ナデ	砂粒を含む,雲母を含む	やや軟	暗黄褐色	
ヨコナデ,ナデ,指痕	ハケメ,ヨコナデ	砂粒を含む,雲母を含む	硬	淡黄褐色	S字罫
ナデ	ハケメ,ナデ	砂粒を含む	やや軟	黄白色	
不明	ハケメ,ナデ	砂粒を含む,雲母を含む	硬	淡茶褐色	
ハケメ,ナデ	ハケメ	密	硬	茶褐色	
ヨコナデ	条痕	3mm前後の石粒を含む	硬	暗茶褐色	胴部外面に炭化物
ヨコナデ,ナデ,指痕	ヨコナデ,ナデ	4mm前後の石粒を含む	硬	赤褐色	
ハケメ,ナデ	ハケメ,ヨコナデ	砂粒を含む	軟	暗茶褐色	
ナデ	ハケメ,ナデ	砂粒を含む	硬	明黄褐色	底面ナデによる回み
ナデ,指痕	ヘラミガキ	密	硬	明黄褐色	赤彩
降灰	回転ヘラケズリ	密	硬	灰白色	
ヨコナデ	ナデ,指痕	密	硬	白黄食	
ヨコナデ	ヨコナデ	砂粒を含む	硬	淡茶褐色	
ナデ	ナデ,指痕	密	やや軟	明茶褐色	
回転ナデ	回転ナデ	密	硬	青褐色	
ハケメ	不明	密	やや軟	明茶褐色	底面に木葉痕

実測 番号	神田 番号	出土 地点	層位	器種	部 位	法量 (cm)											口縁部 残存率	器部 残存率
						口径	胴径	底径	脚上 部径	脚径・ 脚台径	器高	坏高	颈高	胴高	器高・ 脚台高			
123	E-399	E-カレンチ		壺	底部			5.4									100	
124	E-437	E-1	表土層	壺	胴部													
125	E-434	E-2	黒色有機土層	壺	底部			9.3									40	
126	E-35	SB11	埋土	高坏	胴部				3.0									
127	E-43	SB12	床面	壺	底部			6.6									40	
128	E-40	SB12	床面	壺	上胴部													
129	E-41	SB12	床面	壺	胴部													
130	E-47	SB13	床面	壺	底部			4.3									100	
131	E-385	SK28	埋土	壺	底部												100	
132	E-85	SB16	床面	壺	底部				3.0								100	
133	E-91	SB17	土壌内	壺	上胴部													
134	E-92	SB17	床面	壺	底部			4.8									38	
135	E-101	SB18	床面	壺	下胴部													
136	E-98	SB18	床面	甕	口縁部～上胴部	25.5							1.8				28	
137	E-405	E-カレンチ		坏蓋	口縁部													
138	E-404	E-カレンチ		瓶	底部													
139	E-443	E-4	表土層	高坏	坏部～胴部				4.8									
140	E-439	E-1	表土層	甕	脚台部												23	
141	E-440	E-1	表土層	かわらけ	完形	8.7	3.9					8.7					30	
142	E-70	SB16	床面	甕	口縁部～上胴部	15.9	18.3						2.7				72	
143	E-416	E-1-3	黒色有機土層	壺	上胴部													
144	E-417	E-1-3	黒色有機土層	壺	上胴部													
145	E-418	E-1-3	黒色有機土層	壺	上胴部													
146	E-421	E-1-3	黒色有機土層	壺	下胴部													
147	E-422	E-1-3	黒色有機土層	壺	下胴部													
149	E-97	SB17	床面	高坏	坏部～胴部	20.7									12.0	13	32	
150	E-90	SB17	床面	深鉢	口縁部												8	
151	E-104	SB18	床面	高坏	胴部													
154	E-420	E-1-3	黒色有機土層	壺	胴部													
155	E-419	E-1-3	黒色有機土層	壺	胴部													
156	E-33	SB11	床面	甕	底部			3.0										
157	E-30	SB11	床面	壺	口縁部												26	
158	E-27	SB11	床面	壺	口縁部												3	
159	E-1	SB1	床面	壺	口縁部	18.6							3.6				5	
160	E-2	SB1	床面	壺	胴部													
161	E-3	SB1	床面	高坏	坏部	21.9											10	
162	E-4	SB1	床面	高坏	坏部				3.6									
163	E-5	SB2	床面	甕	脚台部					9.1							6	
164	E-6	SB2	床面	高坏	胴部													
165	E-7	SB3	床面	甕	口縁部	29.1							2.7				5	
166	E-12	SB3	床面	高坏	坏部	19.2											3	
167	E-13	SB3	床面	高坏	坏部				4.5									
168	E-9	SB3	床面	甕	脚台部													
169	E-10	SB3	床面	甕	脚台部					10.8							4	
170	E-22	SB9	床面	甕	口縁部～上胴部								1.5				2	
付置110	E-423	E-1-3	黒色有機土層	ほうろく	完形	37.5					6.9		0.7			90	100	

調 整		胎 土	焼成	色調	備 考
内 面	外 面				
不明	不明	砂粒を含む	軟	暗茶褐色	
不明	回転ナデ	砂粒を含む	硬	灰白色	
ナデ	ナデ	砂粒を含む	軟	明黄灰色	底面に凹み
指痕	ヘラミガキ	密、雲母を含む	硬	淡黄褐色	脚部3カ所に円孔
ハケメ	ハケメ、ナデ	砂粒を含む	硬	茶褐色	
ハケメ	ナデ	砂粒を含む	やや軟	淡黄褐色	クシによる横線、割欠文
ハケメ	不明	砂粒を含む	硬	淡黄褐色	赤彩
ナデ、指痕	ハケメ、ナデ	密	硬	暗茶褐色	黒斑あり
不明	ハケメ、ナデ	砂粒を含む	やや軟	淡黄褐色	
ナデ、指痕	ナデ、指痕	密	硬	暗茶褐色	黒斑あり、丸底痕
ナデ	ハケメ、ナデ	密	硬	黄白色	ヘラによる割欠文、刺欠文、赤彩
ナデ、指痕	ナデ	砂粒を含む、雲母を含む	硬	黄白色	底面にクズリによる凹み
ナデ	ナデ	密	硬	黄白色	ヘラの刺欠文、赤彩
不明	ナデ、ヨコナデ	砂粒を含む	軟	暗茶褐色	
回転ナデ	回転ナデ	密	やや軟	黄白色	
ナデ	不明	砂粒を含む	軟	黄白色	脚部2カ所に円孔
ナデ、指痕	ヘラミガキ	5mm前後の石粒を含む	硬	淡茶褐色	脚部にうすいクシ模様、3カ所に円孔
ナデ、指痕	ハケメ、ナデ	密	硬	暗茶褐色	黒斑あり
ヘラあて、指痕	ナデ	密	硬	淡黄褐色	
ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	4mm前後の石粒を含む	硬	茶褐色	
ハケメ、ナデ	ナデ	密	硬	淡白黄色	赤彩
ハケメ、ナデ	ナデ	密	硬	淡白黄色	内外面に赤彩
ハケメ、ナデ	ナデ	密	硬	淡白黄色	赤彩
ハケメ、ナデ	ナデ	密	硬	淡白黄色	赤彩
ハケメ、ナデ	ナデ	密	硬	淡白黄色	内外面に赤彩
ヨコナデ	指痕、ナデ	密	硬	淡黄褐色	脚部の外面に5本の線刻あり
ヨコナデ	条痕	砂粒を含む	やや軟	茶褐色	口端一条痕
ヨコナデ、ヘラケズリ	ミガキに近いナデ	密	硬	暗茶褐色	
ハケメ、ナデ	ナデ	砂粒を含む	やや軟	淡白黄色	赤彩
ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	砂粒を含む	やや軟	暗黄褐色	ヘラによる刺欠文、赤彩
指痕	ナデ	密	硬	暗黄褐色	
ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ	密	硬	茶褐色	
不明	不明	砂粒を含む	軟	淡茶褐色	内面にクシによる羽状文
ハケメ、ナデ	ハケメ、ヨコナデ	4mm前後の石粒を含む	硬	暗黄褐色	
ハケメ、ナデ	ハケメ、ヨコナデ	密	硬	淡茶褐色	
ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	密	硬	淡茶褐色	
ケズリ	ミガキに近いナデ	密	硬	茶褐色	
ナデ	ハケメ、ヨコナデ	密	硬	茶褐色	
剥落	ハケメ、ナデ	密	硬	黄褐色	脚部1カ所に円孔
ヨコナデ	ハケメ	砂粒を含む、雲母を含む	硬	暗茶褐色	口端にクシによるクズリ、片蓋裏に物付き
ヨコナデ、ナデ	ハケメ、ヨコナデ、ナデ	密	やや軟	黄褐色	
ナデ、指痕	ナデ	砂粒を含む	硬	茶褐色	
不明	ハケメ	砂粒を含む、雲母を含む	硬	淡茶褐色	
ヨコナデ	ヨコナデ、指痕	密	硬	淡茶褐色	
ヨコナデ、ナデ	不明	砂粒を含む	軟	黒褐色	
ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	砂粒を含む	硬	茶褐色	内耳3カ所

表第21 浪ノ上遺跡 E区出土 押型文土器観察表

実測 番号	棟号 番号	出土 地点	層 位	器 種	法量 (cm)		文様の形と法量 (cm)			
					厚さ	土器片の 大きさ	表	裏	文様の大きさ	文様の 深さ
1	E-139	SB19	床面	深鉢	0.7	4.5×3.6	C1	無し	0.8×0.3	0.10
2	E-192	SB19	床面	深鉢	0.6	1.5×1.5	F	無し	幅0.1	0.08
3	E-193	SB19	床面	深鉢	0.5	1.6×1.1	F	無し	幅0.08	0.06
4	E-143	SB19	床面	深鉢	0.7	2.2×1.5	C1	無し	0.7×0.4	0.08
5	E-190	SB19	床面	深鉢	0.7	1.5×1.2	F	無し	幅0.1	0.06
6	E-177	SB19	床面	深鉢	0.9	2.4×1.8	D1	無し	1.0×0.4	0.10
7	E-140	SB19	床面	深鉢	0.7	3.6×1.8	C1	無し	1.0×0.4	0.09
9	E-178	SB19	床面	深鉢	0.7	2.3×2.0	D1	無し	1.0×0.2	0.10
10	E-202	SB19	埋土	深鉢底部近く	1.2	5.8×3.0	無し	無し	無し	無し
11	E-200	SB19	埋土	深鉢	0.7	2.2×2.0	D1	無し	1.0×0.5	0.05
12	E-201	SB19	埋土	深鉢	0.7	2.5×2.4	D2	無し	0.7×0.4	不明
13	E-199	SB19	埋土	深鉢底部近く	1.0	4.2×2.5	D1	無し	0.9×0.4	0.10
14	E-171	SB19	床面	深鉢	0.7	2.7×2.0	C2	無し	0.9×0.2	0.06
15	E-188	SB19	床面	深鉢	0.7	2.5×2.3	F	無し	幅0.1	0.05
16	E-116	SB19	床面	深鉢口縁部	0.9	2.9×2.2	C1	無し	0.8×0.4	0.08
17	E-164	SB19	床面	深鉢	0.7	2.3×1.5	C2	無し	0.6×0.2	0.05
18	E-127	SB19	床面	深鉢	0.7	2.0×1.5	C1	無し	1.0×0.3	0.10
19	E-129	SB19	床面	深鉢	0.6	1.7×1.5	C1	無し	0.9×0.3	0.07
20	E-134	SB19	床面	深鉢	1.0	2.7×1.5	C1	無し	0.9×0.4	0.12
21	E-141	SB19	床面	深鉢	0.7	1.5×1.3	C1	無し	1.0×0.3	0.05
22	E-152	SB19	床面	深鉢	0.7	2.0×2.0	C1	無し	0.9×0.3	0.03
23	E-153	SB19	床面	深鉢	0.8	3.0×1.6	C1	無し	1.1×0.3	0.03
24	E-125	SB19	床面	深鉢	0.9	2.5×1.7	C1	無し	1.5×0.4	0.15
25	E-147	SB19	床面	深鉢	0.7	2.0×1.7	C1	無し	0.6×0.4	0.06
26	E-144	SB19	床面	深鉢	0.7	2.2×1.5	C1	無し	0.9×0.4	0.02
27	E-146	SB19	床面	深鉢	0.8	1.8×1.2	C1	無し	0.7×0.3	0.09
28	E-137	SB19	床面	深鉢口縁部	0.8	2.0×1.8	C1	無し	0.7×0.3	0.09
29	E-142	SB19	床面	深鉢	0.9	2.2×2.0	C1	無し	1.0×0.4	0.07
30	E-130	SB19	床面	深鉢	0.7	3.5×2.7	C1	無し	1.0×0.3	0.05
31	E-110	SB19	床面	深鉢	0.8	1.5×1.0	A	無し	0.5×0.5	0.12
32	E-108	SB19	床面	深鉢	0.8	2.8×2.5	A	無し	0.5×0.5	0.12
33	E-189	SB19	床面	深鉢	0.6	2.4×2.0	F	無し	幅1.5	0.05
34	E-173	SB19	床面	深鉢	0.9	3.2×2.3	C2	無し	0.9×0.3	0.05
35	E-126	SB19	床面	深鉢	0.7	2.6×2.2	C1	無し	1.0×0.3	0.08
36	E-179	SB19	床面	深鉢	0.6	2.2×2.2	D1	無し	0.6×0.3	0.03
37	E-191	SB19	床面	深鉢	0.7	2.6×1.8	F	無し	幅0.2	0.04
38	E-113	SB19	床面	深鉢	0.8	2.8×2.2	B1	無し	0.8×0.5	0.12
39	E-118	SB19	床面	深鉢	0.8	3.0×1.8	B1	無し	0.7×0.5	0.10
40	E-175	SB19	床面	深鉢底部近く	1.0	3.5×3.0	D1	無し	0.8×0.5	0.05
41	E-119	SB19	床面	深鉢	0.7	3.0×3.0	B1	無し	1.1×0.5	0.07
43	E-161	SB19	床面	深鉢	0.7	2.0×2.0	C2	無し	1.0×0.2	0.03
44	E-124	SB19	床面	深鉢	0.7	3.3×2.0	C1	無し	1.3×0.4	0.10
45	E-132	SB19	床面	深鉢	0.8	2.8×2.3	C1	無し	1.0×0.4	0.08
46	E-109	SB19	床面	深鉢	0.8	2.8×1.0	A	無し	0.6×0.6	0.10
47	E-156	SB19	床面	深鉢	0.7	2.8×2.5	C1	無し	1.0×0.3	0.06
48	E-167	SB19	床面	深鉢	0.7	2.2×1.5	C2	無し	1.0×0.3	0.04
49 A	E-136	SB19	床面	深鉢口縁部	0.7	2.3×1.7	C1	無し	0.7×0.3	0.02
49 B	E-149	SB19	床面	深鉢	0.6	1.0×1.1	C1	無し	1.0×0.4	0.05
50	E-117	SB19	床面	深鉢	0.9	4.0×3.8	B1	無し	1.3×0.6	0.11
51	E-162	SB19	床面	深鉢	0.7	2.2×1.8	C2	無し	0.9×0.3	0.03
52	E-133	SB19	床面	深鉢	0.8	2.8×2.4	C1	無し	0.9×0.4	0.10
53	E-138	SB19	床面	深鉢底部近く	0.7	4.0×3.6	C1-C2	無し	0.9×0.4 0.5×0.2	0.07
54	E-121	SB19	床面	深鉢	0.7	2.0×1.8	B2	無し	0.8×0.4	0.05
55	E-172	SB19	床面	深鉢口縁部	0.7	2.6×2.6	C2	無し	1.1×0.2	0.04
56	E-186	SB19	床面	深鉢	0.7	3.0×2.0	F	無し	幅0.2	0.03
57	E-131	SB19	床面	深鉢	0.8	2.2×1.8	C1	無し	0.9×0.3	0.02
58	E-135	SB19	床面	深鉢	0.8	4.0×3.0	C1	無し	1.2×0.4	0.10
59	E-182	SB19	床面	深鉢底部近く	1.2	3.6×3.0	E1	無し	1.1×0.3	0.05
60	E-157	SB19	床面	深鉢	0.7	2.4×2.1	C2	無し	0.8×0.2	0.02
61	E-184	SB19	床面	深鉢	0.6	3.3×3.0	F	無し	幅0.1	0.05
62	E-158	SB19	壁面	深鉢	0.7	2.3×2.1	C2	無し	1.0×0.2	0.05
63	E-155	SB19	床面	深鉢底部近く	1.2	3.7×3.0	C1	無し	0.8×0.4	0.07
64	E-183	SB19	床面	深鉢口縁部近く	0.7	3.7×3.6	F	無し	幅0.15	0.07
65	E-122	SB19	床面	深鉢底部近く	1.0	5.0×4.5	B1	無し	0.9×0.4	0.08
66	E-123	SB19	床面	深鉢底部近く	1.3	6.5×4.5	B1	無し	0.9×0.4	0.05

表裏の調整		胎 上	焼成	色調	備 考	
文様の 断面形状	①外面 ②内面					
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
c	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	文様内部に燃痕有り
c	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	文様内部に燃痕有り
a	不明	ナデ	砂粒を含む	不良	明茶褐色	平行四辺形の文様
c	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	文様内部に燃痕有り
b	不明	ナデ	2mm前後の砂粒を含む	やや不良	明茶褐色	横四角の文様がかさなる
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	1.5mm前後の砂粒を含む	やや不良	明茶褐色	平行四辺形の文様
b	ナデの後に文様	不明	4mm前後の砂粒を含む	良好	暗茶褐色	楕円の文様が丸い
	ユビオサエ	タナナデ	3mm前後の砂粒を含む	やや不良	明茶褐色	ユビ痕有り
a	ナデの後に文様	ナデ	1mm前後の石粒を含む	良好	明茶褐色	長円形に見える文様
不明	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	うすい横四角文様
a	ナデの後に文様	タナナデ	3mm前後の砂粒を含む	やや不良	暗茶褐色	長円形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形
c	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	燃痕を明確にのこす
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	2mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	平行四辺形
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
b	不明	ナデ	砂粒を含む	不良	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	不明	1.5mm前後の砂粒を含む	やや不良	明茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ミガキに近いナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	明茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	3mm前後の砂粒を含む	良好	明茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	暗茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ミガキに近いナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様と考えられる
a	ミガキに近いナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ミガキに近いナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	平行四辺形の文様
b	ナデの後に文様	不明	3mm前後の砂粒を含む	やや不良	赤褐色	不定な正方形の文様
b	ナデの後に文様	ヨコナデ	3mm前後の砂粒を含む	やや不良	赤褐色	不定な正方形の文様
c	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	燃痕を 燃痕不明確
a	ナデの後に文様	ミガキに近いヨコナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	明茶褐色	縦長の平行四辺形の文様(市松文風)
b	ナデの後に文様	ミガキに近いナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	平行四辺形の文様
b	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長円形に見える
c	ナデの後に文様	ナデ	2mm前後の砂粒を含む	やや不良	明茶褐色	燃痕を 燃痕は明確
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	明茶褐色	菱形の文様
a	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	良好	茶褐色	菱形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	やや変形した菱形文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ミガキの様なナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	やや不良	暗茶褐色	特に良い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
b	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	暗赤褐色	不定の正方形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ミガキの様なナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	口縁にキズ
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	3mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	菱形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	明茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	不明	1mm前後の砂粒を含む	やや不良	暗茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ユビオサエ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	菱形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	明茶褐色	縦長の良い平行四辺形の文様
c	不明	ナデ	2mm前後の砂粒を含む	やや不良	茶褐色	燃痕を明確にのこる
a	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む(ハガレ有り)	やや不良	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ユビによるヨコナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	横長の山形文
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
c	ナデの後に文様	ナデ	1mm前後の砂粒と金雲母が混ざる	良好	明茶褐色	燃痕を 燃痕が明確
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	明茶褐色	平行四辺形の文様
b	ナデの後に文様	ヨコナデ	2mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
c	ナデの後に文様	ヨコナデ	1mm前後の砂粒と雲母が混ざる	良好	暗茶褐色	燃痕を 燃痕が明確
a	ナデの後に文様	ユビオサエとナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	菱形の文様
a	ナデの後に文様	ユビオサエとナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	菱形の文様

実測 番号	棒四 番号	出土 地点	層 位	器 種	法量 (cm)		文様の形と法量 (cm)				
					厚さ	土器片の 大きさ	表	裏	文様の大きさ	文様の 深さ	文様の 深さ
67	E-154	SB19	床面	深鉢底面近く	1.2	4.3×4.0	C1	無し	0.8×0.4	0.05	
68	E-163	SB19	床面	深鉢	0.6	1.8×1.4	C2	無し	0.9×0.2	0.03	
69	E-187	SB19	床面	深鉢	0.7	2.3×1.8	F	無し	幅0.1	0.05	
70	E-165	SB19	床面	深鉢	0.6	2.0×1.3	C2	無し	0.7×0.2	0.03	
71	E-169	SB19	床面	深鉢	0.7	1.8×1.5	C2	無し	0.9×0.2	0.02	
73	E-120	SB19	床面	深鉢	0.6	1.9×1.9	B1	無し	0.9×0.4	0.08	
74	E-265	壺石遺構	埋土	深鉢	0.6	3.0×1.8	D2	無し	0.5×0.3	0.04	
75	E-270	壺石遺構	埋土	深鉢	0.8	3.3×2.5	E2	1.4×0.6	0.9×0.3	0.02	
76	E-259	壺石遺構	埋土	深鉢	0.8	2.7×2.0	C1	無し	1.8×0.4	0.10	
77	E-368	表様		深鉢11縁部近く	0.9	4.6×4.5	C1	無し	0.9×0.3	0.10	
85	E-128	SB19	床面	深鉢	0.7	1.9×1.0	C1	無し	1.2×0.3	0.03	
87	E-365	表様		深鉢	0.8	2.7×2.5	A	無し	0.7×0.6	0.10	
88	E-222	SK1	埋土	深鉢	0.7	2.0×2.0	C1	無し	0.9×0.3	0.03	
89	E-216	SK1	埋土	深鉢	0.7	3.0×2.5	A	無し	0.5×0.5	0.08	
90	E-228	SK1	埋土	深鉢	0.7	1.4×1.4	C1	無し	1.0×0.4	0.10	
91	E-227	SK1	埋土	深鉢	0.7	2.0×1.0	C1	無し	1.0×0.3	0.06	
92	E-219	SK1	埋土	深鉢	1.0	3.3×1.8	B	無し	1.0×0.5	0.1	
93	E-218	SK1	埋土	深鉢口縁部近く	1.0	4.5×3.2	B	無し	1.0×0.5	0.1	
95	E-217	SK1	埋土	深鉢11縁部近く	1.0	2.8×1.5	B	無し	1.0×0.5	0.1	
96	E-226	SK1	埋土	深鉢	0.8	3.0×1.5	C1	無し	0.9×0.3	0.02	
97	E-221	SK1	埋土	深鉢	0.7	2.0×2.0	C1	無し	1.1×0.3	0.05	
98	E-223	SK1	埋土	深鉢	0.7	4.0×2.2	C1	無し	1.0×0.4	0.10	
99	E-225	SK1	埋土	深鉢	0.6	2.0×2.0	C1	無し	0.9×0.4	0.04	
100	E-215	SK1	埋土	深鉢	0.6	2.4×1.8	A	無し	0.5×0.5	0.06	
101	F-220	SK1	埋土	深鉢口縁部 (小形)	0.6	3.2×2.0	C1	B1	表0.8×0.4 裏0.6×0.3	0.07 0.03	
102	E-229	SK1	埋土	深鉢	0.8	2.0×1.0	C1	無し	0.7×0.4	0.10	
103	E-224	SK1	埋土	深鉢	0.7	2.5×2.0	C1	無し	0.9×0.4	0.04	
104	E-235	SK2	埋土	深鉢	0.9	2.5×1.7	B1	無し	1.0×0.6	0.10	
105	E-236	SK2	埋土	深鉢	0.9	1.2×1.2	B1	無し	0.8×0.6	0.10	
106	E-239	SK2	埋土	深鉢	0.7	4.0×2.4	C1	無し	1.1×0.4	0.05	
107	E-237	SK2	埋土	深鉢	0.7	4.2×2.0	C1	無し	1.0×0.4	0.07	
108	E-238	SK2	埋土	深鉢	0.7	4.0×2.1	C1	無し	1.0×0.3	0.05	
109	E-240	SK2	埋土	深鉢口縁部近く (小形)	0.6	3.0×2.3	無し	E1	0.8×0.7	0.10	
110	E-195	SB19	ピット内	深鉢	0.7	2.0×2.0	C2	無し	0.5×0.2	0.05	
111	E-198	SB19	ピット内	深鉢底面近く	1.4	4.0×4.0	無し	無し	無し	無し	
112	E-196	SB19	ピット内	深鉢	0.7	3.0×1.5	D1	無し	1.0×0.5	0.07	
113	E-358		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.8	2.5×1.8	F	無し	幅0.2	0.05	
114	E-340		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.6	1.8×1.5	C1	無し	0.9×0.3	0.03	
115	E-336		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.7	3.5×2.0	C1	無し	0.9×0.4	0.07	
116	E-356		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.5	2.5×2.0	E1	無し	1.5×0.6	0.03	
117	E-347		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.8	2.5×1.8	C1	無し	0.8×0.2	0.07	
118	E-333		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.7	2.1×2.0	C1	無し	0.9×0.4	0.08	
119	E-329		壺石上層の黒色有機土層	深鉢口縁部	0.6	3.0×1.5	C1	無し	1.1×0.4	0.08	
120	E-354		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.9	3.8×2.5	E2	無し	0.9×0.3	0.06	
121	E-335		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.7	3.0×3.0	C1	無し	0.9×0.4	0.02	
122	E-359		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.8	3.0×2.7	F	無し	幅0.4	0.04	
123	E-332		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.5	3.5×2.2	C1	無し	0.7×0.4	0.05	
124	E-330		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.8	2.8×2.8	B1-C1-4	無し	0.9×0.3 0.7×0.3	0.08	
125	E-353		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.9	3.0×2.5	C1	無し	1.0×0.3	0.12	
126	E-342		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.8	5.5×3.8	C1	無し	0.8×0.4	0.02	
127	E-343		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.6	2.5×1.8	C1	無し	1.1×0.3	0.06	
128	E-360		壺石上層の黒色有機土層	深鉢底面	0.7	2.0×1.5	無し	無し	無し	無し	
129	E-331		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.8	3.7×2.0	B1-B2-C1	無し	0.4×0.3 0.6×0.4 1.0×0.3	0.08	
130	E-337		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.7	2.8×2.5	C1	無し	0.7×0.3	0.04	
131	E-352		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.5	1.3×1.3	D1	不明	0.8×0.4	0.06	
132	E-339		壺石上層の黒色有機土層	深鉢	0.7	2.0×1.8	C1	無し	1.0×0.3	0.03	
133	E-274	壺石遺構	埋土	深鉢底面近く	0.9	5.0×3.0	無し	無し	無し	無し	
134	E-255	壺石遺構	埋土	深鉢	0.9	2.0×1.8	C1	無し	0.9×0.4	0.08	
135	F-251	壺石遺構	埋土	深鉢	0.7	2.5×2.5	B1	無し	0.5×0.4	0.09	
136	E-243	SK20	埋土	深鉢	0.7	5.8×3.5	C1	無し	1.2×0.4	0.10	
137	E-246	SK20	埋土	深鉢	0.7	5.0×4.4	B1-C1-D1	無し	1.1×0.3 1.0×0.4 0.9×0.3	0.10	
138	E-244	SK20	埋土	深鉢	0.7	4.0×2.0	C1	無し	0.8×0.3	0.03	
139	E-245	SK20	埋土	深鉢	0.9	4.0×3.5	C1	無し	0.9×0.3	0.10	
140	E-269	壺石遺構	埋土	深鉢	0.7	3.0×2.5	E1	無し	1.8×0.70	0.09	
141	E-256	壺石遺構	埋土	深鉢	0.8	3.0×3.0	C1-D1	無し	1.0×0.30 0.8×0.20	0.10	

表裏の調整			胎土	焼成	色調	備考
文様の 裏面形状	①外面	②内面				
a	ナデの後に文様	ユビオサエトナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	平行四辺形の文様
c	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	明茶褐色	横糸文 横糸が明確
a	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	不良	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	菱形の文様
b	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	横糸の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	暗茶褐色	山形文に見える文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	特に長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	やや不良	暗茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
b	ナデの後に文様	ナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	暗茶褐色	不定な正方形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
b	ナデの後に文様	ナデ	2mm前後の砂粒を含む	やや不良	赤褐色	不定な正方形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	菱形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	明茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	2mm前後の砂粒を含む	良好	明茶褐色	菱形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	2mm前後の砂粒を含む	良好	明茶褐色	菱形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	2mm前後の砂粒を含む	良好	明茶褐色	菱形の文様
b	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	やや不良	明茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	特に長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	不定な正方形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデの後に文様	砂粒を含む	良好	茶褐色	表、平行四辺形文様 裏、菱形文様
a	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	良好	明茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	明茶褐色	菱形の文様 236と同 個体
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	明茶褐色	菱形の文様 235と同 個体
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	暗茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	明茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	タナナデ	ナデの後に文様	砂粒を含む	やや不良	暗茶褐色	表面に山形文
a	ナデの後に文様	不明	1mm前後の石粒を含む	やや不良	茶褐色	平行四辺形の文様
無し	不明	タナのユビナデ	3mm前後の砂粒を含む	やや不良	明茶褐色	底部にあつた文様
b	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	レンズ状の文様
c	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	横糸文 (あらい横糸)
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ミガキに近いナデ	粘土質の土	良好	淡黄褐色	山形文
a	ナデの後に文様	ナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	口端にキザミ、平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	6mm前後の石粒を含む	良好	茶褐色	山形文
不明	不明	ナデ	1mm前後の砂粒を含む	やや不良	茶褐色	うすい平行四辺形の文様
c	ナデの後に文様	ナデ	2mm前後の砂粒を含む	やや不良	茶褐色	横糸文
a	ナデの後に文様	ナデ	粘土質の土	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様 横糸の文様 菱形の文様
a	ナデの後に文様	不明	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
不明	不明	ナデ+カーボン付く	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	平行四辺形の文様
無し	ナデ	不明	砂粒を含む	良好	明茶褐色	高さ1mm 径1.6mmの丸突起
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	菱形の文様 菱形の文様 平行四辺形の文様
b	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	平行四辺形の文様
a	不明	不明	砂粒を含む	良好	茶褐色	横糸の文様と考えられる
a	ナデの後に文様	ナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
無し	ナデ	ユビによるヨコナデ	2mm前後の砂粒と黄色重曹が混ざる	やや不良	明茶褐色	無文
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	粘土質の土	良好	暗茶褐色	正方形に近い菱形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様 菱形の文様 横糸の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	2mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	山形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様 横糸の文様

実測 番号	棟号	出土 地点	層位	器種	法量 (cm)		文様の形と法量 (cm)				
					厚さ	土器片の 大きさ	表	裏	文様の大きさ	文様の 深さ	
142	E-272	集石遺構	埋土	深鉢	0.7	2.5×2.0	F	無し	幅0.2	0.05	
143	E-261	集石遺構	埋土	深鉢口縁部	0.6	2.2×1.8	C2	無し	0.6×0.3	0.05	
144	E-264	集石遺構	埋土	深鉢	0.9	2.0×1.5	D2	不明	0.5×0.2	0.03	
145	E-271	集石遺構	埋土	深鉢	0.8	1.5×1.0	F	不明	幅0.10	0.02	
146	E-252	集石遺構	埋土	深鉢口縁部	0.7	3.0×3.0	C1+C2	C2	表幅0.4 裏0.6×0.2	0.10 0.06	
147	E-260	集石遺構	埋土	深鉢	0.9	4.5×3.9	C1	無し	1.1×0.4	0.12	
149	E-266	集石遺構	埋土	深鉢	0.6	4.0×3.8	E1	C1	表幅0.3 裏0.5×0.2	0.05 0.03	
150	E-263	集石遺構	埋土	深鉢	0.7	3.0×2.0	C2	無し	0.5×0.2	0.02	
151	E-267	集石遺構	埋土	深鉢	0.7	4.0×3.0	E1	無し	2.1×0.9	0.03	
152	E-249	集石遺構	埋土	深鉢	0.8	3.0×2.5	B1	無し	1.4×0.5	1.10	
153	E-366	表柱	埋土	深鉢	0.8	3.0×2.2	B2	無し	0.5×0.3	0.06	
154	E-242	SK46	埋土	深鉢	0.7	2.5×2.2	B1	無し	1.0×0.5	1.10	
155	E-322	SB19上層の黒色有機土層	深鉢底部近く	深鉢	0.7	5.5×5.0	無し	無し	無し	無し	
156	E-321	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.9	6.5×6.5	刺突文	条痕	無し	1.0×0.5	2.50	
157	E-320	SB19上層の黒色有機土層	深鉢底部近く	深鉢	0.7	3.7×2.8	E1	無し	1.2×0.6	0.10	
158	E-308	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.7	3.5×2.5	C1	無し	無し	0.7×0.3	0.03	
159	E-303	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.8	3.2×2.0	B2	無し	無し	0.7×0.5	0.07	
160	E-319	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.7	2.5×2.3	D2	無し	無し	1.0×0.3	0.03	
163	E-312	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.7	4.8×3.3	C1	無し	無し	0.5×0.5	0.03	
161	E-297	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.8	3.0×2.5	A	無し	無し	0.5×0.5	0.09	
162	E-302	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.9	3.0×2.2	B1	無し	無し	0.7×0.4	0.06	
164	E-315	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.6	2.5×2.2	D1	無し	無し	1.4×0.6	0.15	
165	E-316	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.7	3.0×2.0	D1	無し	無し	1.2×0.6	0.20	
166	E-317	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.6	2.5×1.4	D1	無し	無し	1.5×0.7	0.15	
167	E-323	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.6	3.5×2.0	平行線	無し	無し	幅0.4	0.03	
168	E-314	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.6	3.0×2.0	C1	無し	無し	0.8×0.3	0.07	
169	E-313	SB19上層の黒色有機土層	深鉢底部近く	深鉢	1.0	4.5×3.2	C2	無し	0.6×0.3	0.04	
170	E-301	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.6	2.0×2.0	B1	無し	無し	0.8×0.3	0.06	
171	E-309	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.6	4.0×3.5	C1	無し	無し	0.7×0.3	0.02	
172	E-310	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.8	3.0×2.8	C1	無し	無し	0.7×0.3	0.02	
173	E-298	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.9	2.0×2.0	A	無し	無し	0.4×0.4	0.05	
174	E-300	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.7	2.5×1.8	B1	無し	無し	0.6×0.4	0.05	
175	E-305	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.7	4.0×3.0	C1	無し	無し	1.0×0.4	0.10	
176	E-306	SB19上層の黒色有機土層	深鉢	0.8	4.0×3.3	C1	無し	無し	1.0×0.3	0.08	
177	A E-114	SB19 床面	深鉢	0.8	7.5×7.5	B1	無し	無し	0.8×0.6	0.05	
177	B E-115	SB19 床面	深鉢	0.8	5.0×3.2	B1	無し	無し	0.8×0.6	0.05	
178	E-268	集石遺構	埋土	深鉢	0.5	3.0×2.5	E1	無し	2.2×0.7	0.03	
179	E-253	集石遺構	埋土	深鉢	0.8	2.2×1.8	C1	無し	0.7×0.3	0.07	
180	E-250	集石遺構	埋土	深鉢	0.8	4.0×3.5	B1	無し	0.7×0.4	0.06	
181	E-258	集石遺構	埋土	深鉢	0.7	2.0×2.0	C1	無し	0.8×0.3	0.03	
182	E-273	集石遺構	埋土	深鉢	0.6	4.0×2.2	F	無し	幅0.2	0.04	
183	E-262	集石遺構	埋土	深鉢	0.6	3.0×2.0	C2	無し	0.5×0.2	0.05	
184	E-160	SB19 床面	深鉢	0.6	2.3×1.5	C2	無し	無し	0.6×0.2	0.05	
187	E-159	SB19 床面	深鉢	0.6	3.0×1.5	C2	無し	無し	0.6×0.2	0.03	
188	E-181	SB19 床面	深鉢	0.7	1.8×1.6	D2	無し	無し	0.5×0.2	0.04	
189	E-145	SB19 床面	深鉢	0.5	2.5×1.5	C1	無し	無し	0.6×0.2	0.06	
190	E-111	SB19 床面	深鉢	0.8	1.7×1.2	A	無し	無し	0.4×0.4	0.10	
191	A E-166	SB19 床面	深鉢	0.5	1.2×1.0	C2	無し	無し	0.6×0.2	0.03	
191	B E-148	SB19 床面	深鉢	0.7	1.6×0.8	C1	無し	無し	0.6×0.3	0.05	
192	E-180	SB19 床面	深鉢	0.8	2.0×1.5	D2	無し	無し	0.4×0.2	0.02	
193	E-168	SB19 床面	深鉢	0.6	2.0×1.4	C2	無し	無し	0.5×0.2	0.04	
194	E-176	SB19 床面	深鉢	0.7	1.5×1.3	D2	無し	無し	0.5×0.2	0.05	
195	E-194	SB19 床面	深鉢	0.6	1.0×0.8	F	無し	無し	幅0.2	0.04	
196	E-112	SB19 床面	深鉢	0.6	0.8×0.6	A	無し	無し	0.5×0.4	0.10	
197	E-150	SB19 床面	深鉢	不明	1.1×0.9	C1	無し	無し	0.6×0.3	0.03	
199	E-257	集石遺構	埋土	深鉢	0.6	1.7×1.5	C1	無し	0.9×0.2	0.05	
201	E-328	集石上層の黒色有機層	深鉢	0.7	2.0×2.0	B1	不明	無し	0.8×0.5	0.010	
202	E-357	集石上層の黒色有機層	深鉢	0.6	2.2×2.0	F	不明	無し	幅0.3	0.05	
203	E-348	集石上層の黒色有機層	深鉢	0.7	2.3×2.0	D1	無し	無し	1.1×0.4	0.10	
204	E-351	集石上層の黒色有機層	深鉢	0.6	2.0×1.8	D1	無し	無し	0.7×0.4	0.03	
205	E-334	集石上層の黒色有機層	深鉢	0.9	3.0×2.5	C1	無し	無し	0.7×0.3	0.03	
206	E-327	集石上層の黒色有機層	深鉢	0.9	3.2×2.5	A	不明	無し	0.5×0.5	0.02	
207	E-369	表柱	深鉢底部近く	深鉢	1.2	3.0×2.4	F	無し	幅0.05	不明	
208	E-350	集石上層の黒色有機層	深鉢	0.7	1.8×1.5	D1	無し	無し	0.8×0.4	0.12	
209	E-338	集石上層の黒色有機層	深鉢	0.9	2.3×1.2	C1	不明	無し	0.6×0.3	0.03	

表裏の異装			船 上	焼成	色調	備 考
文様の 断面形状	①外面	②内面				
c	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む黒色の雲母が混ざる	良好	茶褐色	粗糸紋
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
c	ナデの後に文様	不明	2mm前後の砂粒を含む	良好	明茶褐色	小形の楕円の文様
c	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	良好	茶褐色	粗糸文
a	ナデの後に文様、その後	ヨコナデその後に文様	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	不明	ナデ	砂粒を含む	不良	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様の文様	ヨコナデ	粘土質の上	良好	茶褐色	山形 小形で長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	明茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	山形文
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	変形の文様
b	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	やや不良	明茶褐色	小さな変形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	変形の文様
∧形	ヨコナデの後に文様	ヨコの条痕	15mm前後の砂粒を濃縮(5mm)を含む	良好	暗茶褐色	条痕
不明	不明	ナデ	3mm前後の砂粒と濃縮(5mm)を含む	やや不良	暗茶褐色	粗糸文
a	ナデの後に文様	ナデ	粘土質の上	良好	暗茶褐色	山形文
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
b	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	やや不良	明茶褐色	変形の文様
a	不明	不明	砂粒を含む	良好	茶褐色	楕円の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	1mm前後の砂粒を含む	不良	明茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	暗赤褐色	正方形の文様(市松文)
a	ナデの後に文様	ナデ	3mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	小さな変形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	楕円の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	楕円の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	粘土質の上	良好	暗赤褐色	楕円の文様
丸形	ナデの後に文様	ヨコナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	暗茶褐色	半響による文様
a	ナデの後に文様	ナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	不明	ナデ	2mm前後の砂粒を含む	やや不良	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	変形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	2mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	不明	ナデ	3mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様(うすい)
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	正方形の文様(市松文)
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	変形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	不明	ヨコナデ	砂粒を含む	不良	茶褐色	菱形の文様(側部径17mm)
a	不明	不明	砂粒を含む	不良	茶褐色	変形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	粘土質の上	良好	暗茶褐色	山形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	長い平行四辺形の文様
a1	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	明茶褐色	菱形の文様
a	ナデの後に文様	不明	1mm前後の砂粒と黒色の雲母が混ざる	不良	暗茶褐色	長い平行四辺形の文様
c	ナデの後に文様	ヨコナデ	砂粒を含む	良好	明茶褐色	粗糸文
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	変形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	楕円の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
b	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	やや不良	茶褐色	正方形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	良好	茶褐色	菱形の文様と考えられる
a	ナデの後に文様	ナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	暗茶褐色	楕円の文様(レンズ状)
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
c	ナデの後に文様	不明	砂粒と銀雲母が混ざる	良好	茶褐色	楕円の文様(小さい)
b	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	粗糸文
a	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	良好	茶褐色	角が丸い正方形に近い文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	不明	不明	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
c	不明	不明	2mm前後の砂粒を含む	不良	茶褐色	変形の文様
a	ナデの後に文様	不明	1mm前後の砂粒を含む	良好	暗茶褐色	粗糸文
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	楕円の文様
a	不明	ナデ	砂粒を含む	やや不良	茶褐色	楕円の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
b	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	良好	茶褐色	角味をおびた正方形の文様
不明	ナデの後に文様	ヨコナデ	4mm前後の砂粒を含む(金雲母混入)	良好	暗茶褐色	粗糸文
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	暗茶褐色	楕円の文様
a	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様

実測 番号	押印 番号	出土 地点	層 位	器 種	法量 (cm)		文様の形と法量 (cm)			
					厚さ	土器片の 大きさ	表	裏	文様の大きさ	文様の 深さ
210	E-355		黒石上層の黒色有機層	深鉢	0.9	1.7×1.7	E2	不明	1.5×0.8	0.08
211	E-349		黒石上層の黒色有機層	深鉢	0.6	2.0×1.5	D1	不明	0.7×0.5	0.07
212	E-341		黒石上層の黒色有機層	深鉢	0.6	1.8×0.8	C1	無し	0.7×0.3	0.03
213	E-345		黒石上層の黒色有機層	深鉢	0.8	2.5×1.5	C1	無し	0.8×0.3	0.10
214	E-185	SB19	床面	深鉢	0.7	2.5×2.1	F	無し	幅0.15	0.04
215	E-170	SB19	床面	深鉢	0.6	2.7×1.8	C2	無し	0.5×0.2	0.02
216	E-151	SB19	床面	深鉢	0.6	2.2×1.9	C1	無し	0.6×0.3	不明
217	E-174	SB19	床面	深鉢	0.5	2.2×1.4	D1	無し	1.1×0.5	0.10
218	E-254	黒石遺構	埋土	深鉢	0.6	2.3×1.8	C1	無し	1.0×0.4	0.08
219	E-230	SK1	埋土	深鉢	0.9	3.5×2.5	E1	無し	1.5×1.5	0.15
220	E-197	SB19	ピット内	深鉢	0.7	1.8×1.5	C1	無し	0.9×0.3	0.03
221	E-346		黒石上層の黒色有機層	深鉢	0.7	1.7×1.5	C1	無し	0.7×0.3	0.04
222	E-344		黒石上層の黒色有機層	深鉢	0.7	2.2×1.7	C1	無し	0.7×0.2	0.03
223	E-307		SB19上層の黒色有機層	深鉢	0.6	2.0×1.5	C1	無し	0.6×0.4	0.08
224	E-304		SB19上層の黒色有機層	深鉢	0.7	2.0×1.5	C1	不明	0.7×0.3	0.10
225	E-311		SB19上層の黒色有機層	深鉢	0.7	2.5×2.5	C1	無し	0.6×0.3	0.03
226	E-318		SB19上層の黒色有機層	深鉢	0.6	1.7×1.3	D1	無し	1.0×0.5	0.10
227	E-299		SB19上層の黒色有機層	深鉢	0.7	2.0×1.7	B1	無し	0.6×0.6	0.07
228	E-367	表注		深鉢	0.8	1.5×1.1	C1	無し	1.1×0.4	0.04

表裏の調査			胎 土	焼成	色調	備 考
文様の 断面形状	①外面	②内面				
a	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	良好	茶褐色	切れた山形文
a	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	良好	茶褐色	楕円形の文様
a	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
b	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	懸垂文
不明	ナデの後に文様その後にナデ	ヨコナデ	粘土質の上	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	粘土質の上	良好	暗赤褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ヨコナデ	粘土質の上、銀雲母が混ざる	良好	茶褐色	楕円の文様(レンズ状)
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	不明	ヨコナデ	砂粒を含む	やや不良	茶褐色	みだれた山形文
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ほぼ同じナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	ナデの後に文様	不明	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様
a	不明	ナデ	砂粒を含む	不良	茶褐色	長い平行四辺形の文様(ローリングを付けている)
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	楕円の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	明茶褐色	菱形の文様
a	ナデの後に文様	ナデ	砂粒を含む	良好	茶褐色	長い平行四辺形の文様

表第22 浪ノ上遺跡E区出土 石器等観察表

通し番号	採区番号	出土地点	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材質	備考
1	E-36	SB11	埋土	石斧	164.9	47.0	33.8	320.0	塩基性岩	刃部のみ研磨
2	E-45	SB12	埋土	石皿			42.0	600.0	花崗岩	
3	E-86	SB16	埋土	縦長剥片	25.8	24.0	9.1	5.3	チャート	側縁使用痕
4	E-87	SB16	埋土	礫石	111.3	71.8	50.0	590.0	花崗岩	両側縁に磨痕
5	E-88	SB16	埋土	磨製石斧			54.8	23.5	塩基性岩	全面に磨き
6	E-89	SB16	埋土	石皿			39.5	800.0	凝灰岩	
7	E-105	SB18	埋土	石皿			38.0	360.0	凝灰岩	
8	E-106	SB18	貯蔵穴	縦長剥片	21.3	20.0	4.5	2.8	チャート	側縁使用痕
9	E-107	SB18	床面	河石+磨石			80.0	59.5	1000.0	凝灰岩
10	E-203	SB19	ピット内	縦長剥片	37.8	15.0	6.2	2.8	チャート	両側縁に使用痕
11	E-204	SB19	床面	石鏃	47.8	35.0	15.5	35.4	片麻岩	
12	E-205	SB19	床面	縦長剥片	24.9	23.0	6.2	3.7	チャート	側面に使用痕
13	E-206	SB19	床面	剥片	77.2	62.5	23.0	121.8	安山岩	
14	E-207	SB19	床面	剥片	48.5	46.2	14.0	38.7	砂岩	
15	E-208	SB19	床面	剥片	40.0	39.0	12.0	21.8	泥岩	
16	E-209	SB19	床面	剥片	67.5	65.0	13.2	59.0	玄武岩	
17	E-210	SB19	床面	剥片	46.0	52.3	12.5	37.4	凝灰岩	
18	E-211	SB19	床面	剥片	67.0	59.5	16.0	73.7	安山岩	
19	E-212	SB19	床面	縦長剥片	40.0	23.0	8.5	9.9	凝灰岩	
20	E-213	SB19	床面	縦長剥片	42.0	34.5	14.5	20.1	泥岩	
21	E-214	SB19	床面	剥片	80.4	90.2	13.4	132.6	安山岩	
22	E-231	SK1	埋土	横長剥片	34.0	14.2	4.0	11.2	凝灰岩	
23	E-232	SK1	埋土	横長剥片	28.2	25.1	6.5	5.2	凝灰岩	
24	E-233	SK1	埋土	縦長剥片	48.3	28.5	10.1	14.1	凝灰岩	
25	E-234	SK1	埋土	礫石	96.0	35.0	21.0	230.0	不明	
26	E-241	SK-3	埋土	剥片	135.0	98.8	17.3	97.5	泥岩	
27	E-247	E区西地区ピット群	埋土	縦長剥片	53.2	16.8	8.5	8.5	チャート	側縁に使用痕
28	E-248	E区西地区ピット群	埋土	縦長剥片	18.7	15.5	4.2	1.6	チャート	側縁に使用痕
29	E-375	集石遺構	埋土	横長剥片	28.5	33.0	8.0	7.8	チャート	側縁に使用痕
30	E-276	集石遺構	埋土	縦長剥片	29.0	21.8	4.5	2.9	珪質頁岩	側縁に使用痕
31	E-277	集石遺構	埋土	横長剥片	25.3	22.3	6.1	2.3	凝灰岩	
32	E-278	集石遺構	埋土	縦長剥片	25.8	24.0	8.0	6.0	チャート	側縁に使用痕
33	E-279	集石遺構	埋土	縦長剥片	30.0	14.8	4.8	2.6	チャート	両側縁に使用痕
34	E-280	集石遺構	埋土	縦長剥片	21.0	20.0	3.6	0.8	チャート	
35	E-281	集石遺構	埋土	石斧	75.8	40.5	14.9	65.6	塩基性岩	礫石斧
36	E-282	集石遺構	埋土	剥片	60.0	32.0	8.3	17.2	安山岩	
37	E-283	集石遺構	埋土	縦長剥片	28.0	26.5	9.0	5.9	安山岩	
38	E-284	集石遺構	埋土	縦長剥片	35.0	28.5	10.1	7.9	チャート	側縁に使用痕
39	E-285	集石遺構	埋土	剥片	50.0	39.2	13.0	17.9	安山岩	
40	E-286	集石遺構	埋土	縦長剥片	68.5	30.3	9.2	20.8	塩基性岩	両縁に調整痕
41	E-287	集石遺構	埋土	縦長剥片	33.5	24.3	7.0	6.9	チャート	側縁に使用痕
42	E-288	集石遺構	埋土	石核	56.5	55.0	16.0	54.4	安山岩	
43	E-289	集石遺構	埋土	石核	43.3	53.8	9.3	21.6	安山岩	
44	E-290	集石遺構	埋土	石核	126.0	42.0	41.0	260.0	安山岩	
45	E-291	集石遺構	埋土	スタンプ形石器	135.2	40.8	23.0	240.0	結晶片岩	
46	E-292	集石遺構	埋土	礫石	96.2	63.5	27.3	250.0	砂岩	
47	E-293	集石遺構	埋土	スタンプ形石器	76.4	66.0	53.2	490.0	花崗岩	
48	E-294	集石遺構	埋土	磨石	92.8	84.9	43.2	550.0	花崗岩	
49	E-295	集石遺構	埋土	礫石	95.5	83.0	51.3	630.0	チャート?	
50	E-296	集石遺構	埋土	石皿+河石	200.0	122.3	94.5	3550.0	花崗岩	磨り面状にくぼみ
51	E-324	E-SB19上層の黒色有機土	包含層	剥片	28.2	22.5	5.0	3.5	凝灰岩?	側縁に使用痕
52	E-326	E-SB19上層の黒色有機土	包含層	剥片	45.0	53.8	20.0	41.0	砂岩	
53	E-325	E-SB19上層の黒色有機土	包含層	剥片	54.0	53.1	18.0	38.0	凝灰岩	
54	E-361	集石上層の黒色有機土	包含層	縦長剥片	34.0	29.0	8.8	6.8	凝灰岩	
55	E-362	集石上層の黒色有機土	包含層	横長剥片	21.1	33.2	8.3	2.4	凝灰岩	側縁に使用痕
56	E-363	集石上層の黒色有機土	包含層	横長剥片	33.0	43.5	10.0	13.4	凝灰岩	
57	E-364	西端座断面	包含層	珪岩	80.1	37.9	7.5	13.6	凝灰岩	
58	E-370	表探		縦長剥片	70.1	30.0	11.0	31.6	凝灰岩	側縁に使用痕
59	E-371	表探		横長剥片	41.9	45.3	8.4	11.2	安山岩	
60	E-372	表探		石核	25.5	52.0	15.0	24.5	凝灰岩	
61	E-373	表探		石核	44.5	95.8	28.0	92.5	安山岩	
62	E-374	SK1	埋土	礫器	105.5	113.8	65.0	1150.0	安山岩	石核?

通し番号	検出番号	出土地点	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材質	備考
63	E-393	SZ7	埋土	簪首	61.8	11.0	11.3	10.5	銅	
64	E-393	SZ7	埋土	羅字		9.5	9.0	1.3	竹	
65	E-393	SZ7	埋土	環口	54.3	11.3	11.1	5.0	銅	
66	E-424	E-1・3	埋土	銅銭	25.0		1.3	3.0	銅	裏面に「文」
67	E-48	SB13	床面	鉄器	40.0	4.0	8.0	5.6	鉄	
68	E-387	SZ22	埋土	銅銭	25.0			1.3	銅	
69	E-388	SZ22	埋土	銅銭	25.0			1.3	銅	
70	E-389	SZ22	埋土	銅銭	23.0			1.2	銅	
71	E-390	SZ22	埋土	銅銭	23.0			1.2	銅	
72	E-391	SZ22	埋土	銅銭	23.0			1.2	銅	
73	E-392	SZ22	埋土	銅銭	23.0			1.2	銅	

表第23 浪ノ上遺跡F区出土 土器観察表

実測 番号	検出 番号	出土 地点	層 位	器 種	部 位	法量 (cm)											口縁部 残存率	観察 結果
						口径	胴径	底径	肩上 部径	胴上 部径	器高	坏高	頸高	胴高	器高・ 胴高	口縁部 残存率		
1	F-57	SK3	埋土	壺	上胴部													
2	F-24	SB5	床面	高坏	胴部					4								
3	F-23	SB5	床面	高坏	胴部					3.9								
4	F-22	SB5	床面	高坏	胴部					4.5								
5	F-17	SB5	埋土	深鉢	口縁部												8	
6	F-19	SB5	埋土	壺	上胴部													
7	F-20	SB5	埋土	壺	上胴部													
8	F-18	SB5	埋土	壺	上胴部													
9	F-30	SB6	床面	壺	口縁部	18											70	
10	F-32	SB6	床面	壺	ほぼ完形	7.2	10.8	4.8			11.1		3	8.1			85	100
11	F-59	F	黒色粘土層	壺	口縁部～上胴部	18.3							2.1				18	
12	F-60	F	黒色粘土層	壺	口縁部～上胴部	20.4							1.5				10	
13	F-5	SB2	床面	壺	口縁部～上胴部	24							1.5				45	
14	F-4	SB2	床面	壺	口縁部～上胴部	18	19.8						2.1				10	
15	F-6	SB2	床面	壺	口縁部												5	
16	F-37	SB7	床面	壺	口縁部	15							2.6				30	
17	F-36	SB7	床面	壺	頸部～上胴部												2	
19	F-38	SB7	床面	壺	上胴部													
20	F-35	SB7	床面	壺	下胴部～脚台部				5.1	8.1					4.8		52	
21	F-12	SB4	床面	壺	脚台部		9.6	5.1							6.0		100	
22	F-13	SB4	埋土	壺	口縁部												5	
23	F-14	SB4	床面	壺	上胴部													
24	F-9	SB4	床面	壺	口縁部～上胴部	19.5	21.3						1.8				20	
25	F-6-1-4	SB8	床面	壺	上胴部		29.6											
27	F-47	SB8	床面	壺	上胴部													
28	F-44	SB8	床面	壺	上胴部～下胴部	17.4							3.2				20	
29	F-43	SB8	床面	壺	口縁部～上胴部	28.5	29.4						3.6				23	
30	F-31	SB6	床面	壺	頸部													
31	F-46	SB8	床面	壺	頸部～上胴部													
32	F-51	SK1	埋土	壺	口縁部～上胴部	28.5	33.9						2.6				23	
33	F-49	SK1	埋土	壺	口縁部～上胴部	28.5	33.9						2.4				68	
34	F-73	F	表土層	深鉢	口縁部												3	
35	F-67	F	黒色粘土層	深鉢	口縁部												2	
36	F-69	F	黒色粘土層	壺	口縁部	17.4							1.8				5	
37	F-66	F	黒色粘土層	深鉢	口縁部												4	
38	F-68	F	黒色粘土層	壺	口縁部												2	
39	F-71	F	黒色粘土層	壺	上胴部													
40	F-72	F	黒色粘土層	壺	上胴部													
41	F-70	F	黒色粘土層	壺	上胴部～下胴部		21.9											
42	F-61	F	黒色粘土層	壺	上胴部													
43	F-76	F	表土層	高坏	坏部	21.3											20	
44	F-74	F	表土層	壺	上胴部													
45	F-75	F	表土層	壺	上胴部													
46	F-58	SK4	埋土	高坏	胴部				3.3	13.2					8.4		32	
47	F-54	SK2	埋土	壺	口縁部	19.5											19	
48	F-62	F	黒色粘土層	壺	上胴部													
51	F-53	SK1	埋土	壺	上胴部													
52	F-3	SB1	床面	壺	頸部													
53	F-2	SB1	床面	壺	上胴部													
55	F-7	SB2	埋土	製塩土器	胴部				1.8									
56	10	SB4	ピット内	壺	口縁部～上胴部	21.3							3.3				10	

調 整		胎 上	焼 成	色 調	調 考
内 面	外 面				
ハケメ,指痕	ナデ	砂粒を含む	硬	黒褐色	クシによる横線文2条,波線文2条
指痕	ナデ	密	硬	淡黄褐色	クシによる横線文
指痕,ナデ	ナデ	砂粒を含む	やや軟	茶褐色	クシによる横線文3条
不明	不明	密	軟	茶褐色	クシによる横線文4条,斜線列文3条
ヨコナデ	条痕	砂粒を含む	やや軟	黄褐色	口端に条痕
ナデ,指痕	ナデ	砂粒を含む	硬	黒褐色	クシによる横線文
ハケメ,ナデ	ナデ	6mm前後の石粒を含む,雲母を含む	やや軟	暗黄褐色	クシによる横線文,浮線文
指痕,ナデ	不明	5mm前後の石粒を含む	軟	黒褐色	クシによる横線文に縦線文
ハケメ	ヨコナデ,ナデ	密	硬	茶褐色	
ヨコナデ,ナデ,指痕	ミガキに近いナデ,ヨコナデ	砂粒を含む,雲母を含む	やや軟	淡黄褐色	胴部に焼成後円孔,底面にナデによる凹み
ハケメ,ヨコナデ,指痕	ヨコナデ,ナデ	密	硬	暗黄褐色	ヘラによるキザミ
ハケメ,ナデ,ヨコナデ	ヨコナデ,ナデ	砂粒を含む	やや軟	淡黄褐色	ヘラによるキザミ
ハケメ,ナデ,指痕	ハケメ	砂粒を含む	硬	黄白色	外面に炭化物付着
不明	不明	砂粒を含む	軟	黒褐色	
ヘラミガキ	ヨコナデ,ナデ	砂粒を含む	やや軟	茶褐色	口縁内面にクシによる羽状文
不明	ハケメ,ヨコナデ	砂粒を含む	やや軟	赤褐色	胴部にクシによる横線文
ヨコナデ,ナデ,指痕	ヨコナデ,ナデ	砂粒を含む,雲母を含む	硬	淡茶褐色	所胴部 クシによる横線文2条,斜線文1条
不明	ヨコナデ,ナデ	砂粒を含む	硬	明茶褐色	クシによる波線2条
ヨコナデ,指痕	ハケメ,ナデ	砂粒を含む	硬	茶褐色	
ヨコナデ,ナデ	ミガキに近いナデ	砂粒を含む	やや軟	暗黄褐色	
不明	不明	砂粒を含む	軟	赤褐色	口端に1条の沈線文,内面に羽状文
ナデ	不明	砂粒を含む,雲母を含む	硬	淡茶褐色	半截竹管の横線と縦線の中に細かい波線文
不明	不明	砂粒を含む	軟	暗茶褐色	
ナデ,指痕	ミガキに近いナデ	4mm前後の石粒を含む	やや軟	淡黄褐色	クシによる横線文1条,波線文2条
ナデ	不明	砂粒を含む	硬	暗茶褐色	クシによる横線文2条,斜線文1条
ナデ,指痕	ナデ	砂粒を含む	やや軟	暗黄褐色	クシによる横線文2条,口端にナデによる凹みの刺突
不明	不明	5mm前後の石粒を含む	軟	暗茶褐色	
ナデ	ナデ	砂粒を含む	硬	黒褐色	沈線2条,斜線文1条
不明	ナデ	砂粒を含む	軟	黒褐色	沈線2条,斜線文1条
ヨコナデ,ナデ,指痕	ハケメ,ナデ,指痕	砂粒を含む,雲母を含む	硬	淡茶褐色	F-49と同一個体
ヨコナデ,ナデ,指痕	ハケメ,ナデ,指痕	砂粒を含む,雲母を含む	硬	暗黄褐色	F-51と同一個体
ナデ	ナデ	2mm前後の石粒を含む	硬	茶褐色	
ナデ	条痕	3mm前後の石粒を含む	硬	茶褐色	
ヨコナデ,ナデ	条痕	4mm前後の石粒を含む	硬	明茶褐色	ヘラによるキザミ
ナデ	条痕	砂粒を含む	やや軟	暗黄褐色	
ヨコナデ	ヨコナデ	密	硬	茶褐色	クシによるキザミ
ナデ	ナデ	砂粒を含む	硬	茶褐色	クシによる横線文1条
不明	ナデ	砂粒を含む	やや軟	茶褐色	クシによる横線文1条,波線文2条
ハケメ,指痕	ナデ	砂粒を含む	やや軟	淡黄褐色	クシによる横線文1条,波線文1条
不明	ナデ	密	やや軟	明茶褐色	クシによる横線文1条,円形浮文1個
ヨコナデ,ナデ	ヨコナデ,ナデ	密	やや軟	黄白色	坯部外面に赤彩
ナデ,指痕	ナデ	密	軟	黄白色	クシによる横線文,クシによる縦線文
ハケメ	ナデ	密	軟	黄白色	クシによる横線文
ヨコナデ,ナズリ	ミガキに近いナデ	密	やや軟	黄褐色	
ハケメ	ハケメ,ヨコナデ	砂粒を含む	やや軟	茶褐色	口端部に3条の沈線,内面にクシによる2条の斜線列文
ナデ,指痕	ミガキ	密	硬	暗茶褐色	クシによる横線文2条,クシによる波線文1条
不明	ナデ	砂粒を含む	やや軟	黄褐色	クシによる波線文2条,黒斑あり
不明	ナデ	軟	軟	黄白色	斜線文1条
ナデ	ナデ	密	硬	黄白色	斜線文1条
不明	ナデ,指痕	砂粒を含む,雲母を含む	硬	黄褐色	
ヨコナデ	ハケメ,ナデ	砂粒を含む	やや軟	淡黄褐色	

実測 番号	神田 番号	出土 地点	層 位	器 種	部 位	法量 (cm)										口縁部 残存率	総高 残存率
						口径	胴径	底径	脚上 部径	胴上 部径	器高	耳高	頸高	胴高	脚高 器台高		
57	F-16	SB4	床面	壺	底部			5.4									45
58	F-15	SB4	床面	壺	底部			5.1									90
59	F-50	SK1	埋土	甕	口縁部	24.3							1.8			18	
60	F-55	SK2	埋土	甕	上胴部												
61	F-56	SK2	埋土	壺	頸部												
62	F-64	F	埋土層上層	甕	胴部												
63	F-77	F	表土層	土製支脚	部分												
64	F-65	F	埋土層上層	甕	底部			12.0									10
65	F-25	SB5	床面	壺	胴部		12.0										
66	F-26	SB5	床面	壺	底部			6.0									100
67	F-33	SB6	床面	壺	上胴部～下胴部		15.0										
68	F-27	SB5	床面	壺	底部			6.2									50
69	F-21	SB5	床面	高坏	坏部	19.5											20
70	F-40	SB7	床面	壺	上胴部												
71	F-34	SB7	床面	甕	口縁部～上胴部	18.0	15.2						1.0			13	
73	F-41	SB7	床面	壺	下胴部～底部			5.7									100
76	F-1	SB1	床面	甕	口縁部												15
77	F-52	SK1	埋土	甕	口縁部												3
78	F-11	SB4	床面	甕	口縁部												5
80	F-42	SB8	床面	甕	口縁部	17.9							3.0			28	
81	F-48	SB8	床面	壺	上胴部												
82	F-39	SB7	床面	壺	上胴部												
83	F-8	SB3	床面	甕	下胴部		24.0										
121	F-63	F	埋土層上層	深鉢	下胴部												

表第24 浪ノ上遺跡F区出土 石器等 観察表

通し番号	神田番号	出土地点	層 位	器 種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材質	文様の深さ
61	F-28	SB5	埋土	石鏃		10.1	3.3	0.5	黒曜石	
62	F-29	SB5	埋土	銅銭	23.0			1.2	銅	
63	F-78	表採		燧石	117.2	40.8	36.2	350.0	塩基性岩	上下に磨痕

調 整		胎 土	焼成	色調	備 考
内 面	外 面				
ナデ	ハケメ、ナデ	3mm前後の石粒を含む	硬	暗黄褐色	
ミガキ、指痕	ミガキ、ヨコナデ	密	やや軟	黄白色	
ヨコナデ、ナデ	ハケメ、ヨコナデ	4mm前後の石粒を含む	硬	茶褐色	口端にヘタによるキザミ
ナデ	不明	砂粒を含む	硬	淡黄褐色	クシによる横線1条、波線文1条
ナデ	ハケメ	砂粒を含む	やや軟	赤褐色	頸部に1条の突帯
ナデ	タタキメ	密	硬	黄灰色	須恵器の變
		砂粒を含む	やや軟	赤褐色	
回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ	密	硬	灰白色	平文瓷器の碗
ハケメ、ナデ、指痕	ナデ	密	軟	暗黄褐色	
ナデ、指痕	ハケメ、ナデ	3mm前後の石粒を含む	やや軟	黄白色	
ナデ	ハケメ、ヨコナデ、ナデ	4mm前後の石粒を含む	やや軟	暗黄褐色	
不明	不明	密	軟	明茶褐色	
不明	ヨコナデ、ナデ	5mm前後の石粒を含む	軟	淡黄褐色	
不明	不明	砂粒を含む	硬	淡茶褐色	クシによる横線文、斜格文1条
ヨコナデ、ナデ	ハケメ、ヨコナデ	砂粒含む	硬	茶褐色	口端にハケメ、外面に炭化物
ヨコナデ、ナデ	ハケメ、ナデ	3mm前後の石粒を含む	硬	暗茶褐色	外面に黒皮あり
ヨコナデ	ヨコナデ	砂粒を含む	硬	茶褐色	口端にクシによるキザミ
ヨコナデ	ヨコナデ	密	硬	暗茶褐色	口端にヘタによるキザミ
不明	ヨコナデ、ナデ	砂粒を含む	硬	暗茶褐色	口端にヘタによるキザミ
ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	砂粒を含む	硬	暗黄白色	
ナデ、指痕	ナデ	砂粒を含む	やや軟	明茶褐色	クシによる波線文1条
ナデ	ナデ	砂粒を含む	硬	茶褐色	クシによる波線文2条
ヨコナデ、ナデ	ナデ	砂粒を含む	硬	茶褐色	内面に炭化物
ナデ	条痕	3mm前後の石粒を含む	硬	暗茶褐色	

表第25 浪ノ上1号墳及び封土下の竪穴住居址出土 土器観察表

検出 番号	出土地点	層 位	器種	部 位	法量 (cm)										口縁部 残存率	線部 結
					口径	胴径	底径	脚上 径	脚径	器高	耳高	頸高	胴高	脚高		
N-1	南東周溝1区	上層	甕	口縁部	27.0							5.0			15	0
N-2	南東周溝1区	上層	甕	口縁部	15.0							2.1			10	0
N-3	南東周溝1区	上層	甕	口縁部	18.4							1.5			12	0
N-4	南東周溝1区	上層	甕	口縁部	16.2	15.6						1.5			4	0
N-5	南東周溝1区	上層	甕	口縁部	20.2							2.3			25	0
N-6	南東周溝1区	上層	甕	口縁部	10.6							0.9			5	0
N-7	南東周溝1区	上層	甕	脚部				4.5							0	0
N-8	南東周溝1区	上層	甕	脚部				3.7	9.0					5.0	0	12
N-9	南東周溝1区	上層	甕	脚部					10.6					(4.7)	0	10
N-10	南東周溝1区	上層	甕	脚部				5.2	9.6					4.0	0	23
N-11	南東周溝1区	上層	甕	脚部				4.1	6.0					3.5	0	40
N-12	南東周溝1区	上層	甕	脚部				5.6	11.6					4.5	0	18
N-13	南東周溝1区	上層	甕	脚部				5.0	9.2					5.2	0	100
N-14	南東周溝1区	上層	甕	脚部				5.4	9.2					4.5	0	75
N-15	南東周溝1区	上層	甕	脚部				(4.1)							0	0
N-16	南東周溝1区	上層	甕	脚部				5.2	9.6					4.9	0	12
N-17	南東周溝1区	上層	甕	脚部				5.4	10.4					6.0	0	28
N-18	南東周溝1区	上層	甕	脚部				5.7							0	0
N-19	南東周溝1区	上層	甕	脚部					9.2						0	10
N-20	南東周溝1区	上層	甕	底部			5.0								0	50
N-21	南東周溝1区	上層	甕	底部			4.4								0	50
N-22	南東周溝1区	上層	甕	底部			4.4								0	52
N-23	南東周溝1区	上層	甕	口縁部	15.0							—			13	0
N-24	南東周溝1区	上層	甕	口縁部	11.0							2.5			5	0
N-25	南東周溝1区	上層	甕	底部			3.8								0	100
N-26	南東周溝1区	上層	甕	底部			5.3								0	100
N-27	南東周溝1区	上層	甕	口縁部	9.4							3.0			10	0
N-28	南東周溝1区	上層	甕	口縁部	8.2							2.5			5	0
N-29	南東周溝1区	上層	甕	底部			4.6								0	50
N-30	南東周溝1区	上層	高坏	口縁部	20.8										10	0
N-31	南東周溝1区	上層	高坏	脚部			3.8								0	0
N-32	南東周溝1区	上層	高坏	脚部			4.5	(13.6)						(8.8)	0	0
N-33	南東周溝1区	上層	高坏	口縁と脚部を欠く			3.8								0	0
N-34	南東周溝1区	上層	高坏	脚部			3.9								0	0
N-35	南東周溝1区	上層	器台	脚部			3.2	(9.2)						(4.0)	0	0
N-36	南東周溝2区	上層	高坏	脚部			3.3								0	0
N-37	南東周溝2区7-10地点	下層	高坏	坏部	20.4										23	0
N-38	南東周溝2区	上層	高坏	脚部			3.0	10.3						6.9	0	15
N-39	南東周溝2区	上層	高坏	坏部			2.6								0	0
N-40	南東周溝2区	上層	高坏	坏部	(9.4)		3.1				(5.0)				0	0
N-41	南東周溝2区	上層	高坏	脚部			3.7								0	0
N-42	南東周溝2区	上層	高坏	脚部			2.8								0	0
N-43	南東周溝2区	上層	高坏	脚部			3.0								0	0
N-44	南東周溝2区1地点	下層	高坏	脚部を欠く	19.8		3.2								15	0
N-45	南東周溝2区15地点	下層	器台	脚部			3.8	10.8						6.0	0	55
N-46	南東周溝2区	上層	高坏	脚部			3.6								0	0
N-47	南東周溝2区	上層	高坏	脚部			2.8								0	0
N-48	南東周溝2区	上層	器台	脚部			4.8								0	0
N-49	南東周溝2区10地点	下層	器台	脚部			3.2	7.8						3.9	0	0

調 整		胎 土	焼 成	色 調	備 考
内 面	外 面				
指痕 ナデ	ナデ	良	堅	暗灰褐色	
ハケメ	ハケメ	密	堅	淡紅褐色	
ナデ	ハケメ	良	堅	灰褐色	
ナデ	ハケメ	粗(10mm大の円礫を含む)	堅	暗黄褐色	
荒いハケメ	荒いハケメ	良	良	灰褐色	
ケズリ	不明	良	やや軟	淡灰褐色	
ナデ	ハケメ	良	やや軟	淡黄土色	
ハケメ	ハケメ	良	やや軟	淡紅褐色	
ナデ	ハケメ	密	堅	灰褐色	
ハケメ	4条のハケメ	密	堅	淡黄灰色	
ハケメ	ハケメ	良	良	黒褐色	
ハケメ	ハケメ	良	やや軟	淡黄土色	
ナデ	ハケメ	3-4mmの石英粒多	堅	黄褐色	
ハケメ ナデ	ハケメをナデ清す	砂粒少	やや軟	淡赤褐色	
ケズリ	ハケメ	2-3mmの小礫多	堅	淡紅灰色	
ハケメ ナデ	ハケメ	良	良	淡紅黄色	
ナデ	ケズリ ナデ	良	堅	暗黄褐色	
ナデ	ハケメ	良	良	灰褐色	
ナデ	ナデ	良	やや軟	淡灰褐色	脚端内折
指痕 ナデ	指痕 ナデ	密	堅	赤褐色	外底中央凹み
指痕 ナデ	ヘラミガキ	密	堅	赤褐色	平底
指痕 ナデ	ナデ	密	堅	明黄褐色	平底
ハケメ	ハケメ ナデ	良	やや軟	赤褐色	口縁外面に鋸歯文
ハケメ	ハケメ	良	堅	灰褐色	
ナデ	ハケメ	密	堅	淡赤褐色	上げ底
ナデ	ヘラミガキ ナデ	密	堅	紅褐色	底面突出
ナデ	ハケメ	密	堅	淡紅灰色	
指痕 ナデ	ナデ	良	軟	赤褐色	29と同一個体
指痕 ナデ	ナデ	良	軟	赤褐色	28と同一個体
ナデ	ヘラミガキ	密	堅	淡紅褐色	口縁内を面取り
ハケメ	ハケメ ヘラミガキ	密	堅	赤褐色	脚端を欠く 円孔不明
指痕	ヘラミガキ	密	堅	赤褐色	
ナデ	ヘラケズリ ナデ	密	堅	淡赤褐色	
指痕 ナデ	ヘラケズリ ナデ	良	堅	赤褐色	
ナデ	ヘラケズリ ナデ	密	堅	赤褐色	中心孔貫通
ハケメ	ナデ	良	軟	赤褐色	
ナデ	不明	密	堅	淡紅褐色	
ハケメ ナデ	ハケメ ヘラミガキ	密	堅	明茶色	先沢あり
ヘラケズリ ナデ	ヘラケズリ ナデ	密	堅	灰褐色	有様
ヘラケズリ	ナデ	密	堅	黒褐色	小碗型
ハケメ ナデ	ヘラミガキ	密	堅	赤褐色	
ナデ	ナデ	密	堅	赤褐色	
ナデ	ヘラミガキ	良	堅	赤褐色	
(不明)	(不明)	良	軟	赤褐色	
板ハケ ナデ	ヘラミガキ ナデ	密	堅	暗赤褐色	
不明	不明	良	軟	赤褐色	
ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	良	やや軟	淡黄土色	脚端を欠く
ナデ	ハケメ	良	堅	淡紅褐色	
ハケメ ナデ	ヘラミガキ	良	堅	淡黄褐色	脚部に赤彩

神田 番号	出土地点	層 位	器 種	部 位	法量 (cm)										口縁部 残存率	浮彫 残存率
					口徑	胴徑	底徑	脚上 部径	脚径	器高	坯高	頸高	肩高	脚高		
N-50	南東周溝2区	上層	壺	口縁部	17.2							3.5			10	0
N-51	南東周溝2区	上層	壺	口縁部	18.0										10	0
N-52	南東周溝2区	上層	壺	口縁部	19.0							5.3			15	0
N-53	南東周溝2区	上層	壺	口縁部	25.0						5.0以上				15	0
N-54	南東周溝2区7地点	下層	壺	下胴部											0	0
N-55	南東周溝2区	上層	壺	下胴部											0	0
N-56	南東周溝2区	上層	壺	下胴部											0	0
N-57	南東周溝2区	上層	壺	下胴部											0	0
N-58	南東周溝2区	埋上層	壺	上胴部											0	0
N-59	南東周溝2区	上層	壺	上胴部											0	0
N-60	南東周溝2区	上層	壺	上胴部											0	0
N-61	南東周溝2区	上層	壺	上胴部											0	0
N-62	南東周溝2区	上層	壺	上胴部											0	0
N-63	南東周溝2区	上層	壺	上胴部											0	0
N-64	南東周溝2区	上層	壺	胴・底部		16.0	6.8								0	53
N-65	南東周溝2区	上層	壺	底部			9.0								0	100
N-66	南東周溝2区	上層	壺	底部			6.0								0	40
N-67	南東周溝2区	上層	壺	底部			4.8								0	35
N-68	南東周溝2区	上層	壺	底部			5.8								0	100
N-69	南東周溝2区	上層	壺	底部			6.6								0	100
N-70	南東周溝2区	上層	壺	底部			4.2								0	100
N-71	南東周溝2区15地点	下層	甕	底部	5.8	3.8			3.6						30	100
N-72	南東周溝2区	上層	甕	底部			4.8								0	25
N-73	南東周溝2区	上層	甕	底部			5.0								0	40
N-74	南東周溝2区13地点	下層	高坏	脚上部を欠く	18.6			3.9	13.0	(14.1)	5.7			(8.3)	96	53
N-75	南東周溝2区14地点	下層	高坏	坏部	20.0			3.2			6.2				5	0
N-76	南東周溝2区	上層	高坏	坏部	16.6						(4.5)				11	0
N-77	南東周溝2区	上層	高坏	坏部・脚部				3.6							0	0
N-78	南東周溝2区	上層	高坏	脚部					(12.2)						0	0
N-79	南東周溝2区	上層	高坏	脚部			3.3								0	0
N-80	南東周溝2区	上層	高坏	脚部			3.0	12.8					(9.0)	0	30	
N-81	南東周溝2区	上層	高坏	脚部				13.2							0	50
N-82	南東周溝2区	上層	高坏	脚部			3.6								0	0
N-83	南東周溝2区16地点	下層	高坏	脚部			3.1								0	0
N-84	南東周溝2区	包含層	高坏	脚部			3.1	—							0	0
N-85	南東周溝2区	上層	高坏	脚部			3.8	—							0	0
N-86	南東周溝2区	上層	高坏	脚部			—	—							0	0
N-87	南東周溝2区2地点	下層	高坏	脚部			3.7	(12.0)					(8.2)	0	0	
N-88	南東周溝2区	上層	高坏	脚部			3.3								0	0
N-89	南東周溝2区	上層	高坏	脚部			3.2								0	0
N-90	南東周溝2区	上層	高坏	脚部											0	0
N-91	南東周溝2区4地点	下層	甕	口縁部	14.0						1.2				8	0
N-92	南東周溝2区	上層	甕	口縁部	17.8						2.1				11	0
N-93	南東周溝2区	上層	甕	口縁部	16.4						2.0				10	0
N-94	南東周溝2区	上層	甕	口縁部	20.8						3.2				13	0
N-95	南東周溝2区	上層	甕	口縁部	20.4						3.6				13	0
N-96	南東周溝2区	上層	甕	口縁部	19.6						3.4				18	0
N-97	南東周溝2区	上層	甕	口縁部	(15.0)						(2.8)				0	0
N-98	南東周溝2区	上層	甕	口縁部	23.0						2.1				20	0

調 整		胎 土	焼成	色調	備 考
内 面	外 面				
ナデ	ハケメ	良	堅	黄土色	口の腹縁による刺突文
ハケメ	ハケメ	良	やや軟	暗黄上色	
ナデ	ハケメ	砂粒多	良	灰褐色	
不明	不明	良(1~2mmの小礫多)	やや軟	黄褐色	
ナデ	ナデ	密	堅	淡黄灰白色	赤彩
ナデ	ナデ	密	堅	淡黄灰白色	赤彩
ナデ	ナデ	密	堅	淡黄灰白色	赤彩
ナデ	ナデ	密	やや軟	淡黄灰白色	赤彩
ハケメ	ナデ	密	堅	淡紅褐色	赤彩
ハケメ	ハケメ	砂粒多	やや軟	淡黄土色	赤彩
ナデ	ナデ	密	堅	暗褐色	胴部の窪(8.6cm)
ナデ	ナデ	良	やや軟	淡黄土色	
ナデ	ナデ	良	やや軟	淡黄土色	
ナデ	ナデ	良	やや軟	淡黄土色	
ナデ 指痕	(不明)	良	やや軟	淡灰褐色	上げ底
ナデ	ナデ	砂粒多	堅	暗灰褐色	葉脈状、4cmの底部に厚さ8mmの粘土をかぶせる
ケズリ	ハケメ	良(4mm大の礫あり)	良	淡黄土色	葉脈状
不明	ヘラミガキ	密	堅	淡紅灰色	
不明	不明	良	軟	暗黄上色	上げ底 底部無突出
ケズリ	ナデ	粗(砂多)	軟	淡灰褐色	底部無突出
不明	ヘラミガキ	良	明紅褐色	やや上げ底	
ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	密	やや軟	暗黄上色	ぐい呑み型 平底
ハケメ	ナデ	密	堅	赤褐色	内罎 外底中央凹み
指痕 ナデ	ナデ	密	堅	黒褐色	内罎 外底中央凹み
ヘラケズリ ナデ	ケズリ ナデ	密	堅	暗赤褐色	
ナデ	ナデ	5~6mmの石英多	堅	赤褐色	直径3.2cm
ナデ	ナデ	粗 1cm大の円礫あり	堅	暗褐色	
ケズリ 指痕	ナデ	良	やや軟	黄褐色	
指痕 ナデ	ナデ	密	堅	淡黄褐色	
指痕 ナデ	ヘラケズリ ナデ	良	やや軟	赤褐色	
ナデ	ヘラケズリ ナデ	密	やや軟	淡紅色	
ナデ	ナデ	密	堅	明赤褐色	脚柱と脚翼の接合がわかる
指痕 ナデ	ケズリ ナデ	密	堅	赤褐色	下脚屈折
ナデ	ヘラケズリ ナデ	密	堅	黄褐色	
指痕	ヘラケズリ ナデ	密	やや軟	淡黄灰色	
ナデ	ヘラケズリ ナデ	密	堅	濃赤褐色	
指痕 ナデ	ヘラケズリ ナデ	良	堅	灰褐色	
ナデ	ヘラケズリ ナデ	良	堅	赤褐色	
ナデ	ヘラケズリ ナデ	密	堅	濃赤褐色	
指痕 ナデ	ヘラケズリ ナデ	密	堅	淡紅灰色	
指痕 ナデ	ハケメ	良	堅	淡紅褐色	下部外反
ナデ	ハケメ	密	良	暗黄上色	
ハケメ	ハケメ	粗	軟	淡紅褐色	
ヘラミガキ	ヘラミガキ	密	堅	赤褐色	
不明	ハケメ	密	堅	暗黄上色	
ハケメ	ハケメ	密	堅	暗黄上色	口縁部に赤彩
ハケメ	ハケメ	良	良	暗黄上色	
ハケメ	不明	良	軟	黄褐色	
指痕 太いハケメ	細いハケメ	良	やや軟	灰褐色	

採回 番号	出土地点	層位	容器	部位	法量 (cm)										口縁部 保存手 前	口縁部 後
					口縁	胴径	底径	脚上 部径	脚径	器高	坯高	頸高	胴高	脚高		
N-99	南東周溝2区	上層	甕	口縁部	17.0							3.0			20	0
N-100	南東周溝2区	上層	甕	口縁部	15.8							2.0			9	0
N-101	南東周溝2区	上層	甕	口縁部	15.2							3.1			5	0
N-102	南東周溝2区	上層	甕	口縁部	36.0							4.5			5	0
N-103	南東周溝2区	上層	甕	口縁部	17.4							3.5			14	0
N-104	南東周溝2区5-9地点	下層	甕	胴下部・脚部		19.0			9.2					6.1	0	100
N-105	南東周溝2区8-10地点	下層	甕	胴下部・脚上部		25.8									0	0
N-106	南東周溝2区	上層	甕	底部を欠く	18.0	17.2						1.6			20	0
N-107	南東周溝2区	上層	甕	口縁部	9.8							0.7			35	0
N-108	南東周溝2区12地点	下層	甕	脚部				4.7	8.0					3.5	0	20
N-109	南東周溝2区17地点	下層	甕	脚部				4.4	8.8					4.7	0	10
N-110	南東周溝2区3地点	下層	甕	脚部				5.8	10.5					6.0	0	85
N-111	南東周溝2区	上層	甕	脚部				(5.0)	—					—	0	0
N-112	南東周溝2区6地点	下層	甕	脚部				6.0	9.0					4.0	0	35
N-113	南東周溝2区	上層	甕	脚部				5.2	9.0					4.0	0	20
N-114	南東周溝2区11地点	下層	甕	脚部				5.3	—						0	0
N-115	南東周溝2区	上層	甕	脚部				6.3	9.2					4.6	0	100
N-116	南東周溝2区	上層	甕	脚部				4.4	6.6					3.5	0	40
N-117	南東周溝2区2地点	下層	甕	口縁部	11.6										10	0
N-118	南東周溝2区	上層	鉢	口縁部	21.2										14	0
N-119	南東周溝2区	上層	石甕・銅片													
N-120	南西周溝1区3地点南東周溝2区	下層	甕	口縁部	18.0							3.4			15	0
N-121	南西周溝1区22地点南東周溝2区	下層	甕	口縁部	15.4							1.8			32	0
N-122	南西周溝1区南東周溝2区10地点	下層	甕	口縁部				5.4	9.0					5.0	0	32
N-123	南西周溝1区東南1号探	上層	須恵系 甕	胴部											0	0
N-124	南西周溝1区15地点南東周溝2区	下層	須恵系 甕	口縁部	18.2							(5.0)			22	0
N-125	南西周溝1区73地点南東周溝2区	下層	甕	胴部											0	0
N-126	南西周溝1区22地点	下層	直口甕	全部	22.2	29.0	6.0			24.5		4.5	20.0		50	100
N-127	南西周溝1区15・19地点	下層	甕	底部を欠く	15.0	14.2						1.7			30	0
N-128	南西周溝1区	上層	甕	底部を欠く	11.6	12.4						1.2			20	0
N-129	南西周溝1区	上層	甕	口縁部	8.8	9.2						1.7			14	0
N-130	南西周溝1区	上層	甕	口縁部	18.8							3.9			15	0
N-131	南西周溝1区14地点	下層	甕	口縁部	16.8							3.4			17	0
N-132	南西周溝1区23地点	下層	甕	口縁部	15.4							2.0			26	0
N-133	南西周溝1区19地点	下層	甕	口縁部	12.8							2.4			30	0
N-134	南西周溝1区16・21地点	下層	甕	口縁部	17.2							3.2			15	0
N-135	南西周溝1区24地点	下層	甕	下胴部を欠く	18.0	15.8			8.0 (15.0)			1.3 (9.7)		4.0	5	5
N-136	南西周溝1区	上層	甕	脚部				9.4							0	16
N-137	南東周溝1区3地点	下層	甕	脚部					8.4					4.3	0	100
N-138	南西周溝1区	上層	甕	脚部					7.0					4.2	0	30
N-139	南西周溝1区14・29・32地点	下層	甕	脚部					12.0					6.2	0	30
N-140	南西周溝1区26地点	下層	甕	脚部					(9.0)					(4.4)	0	0
N-141	南西周溝1区17地点	下層	甕	脚部					9.6					4.5	0	79
N-142	南西周溝1区13地点	下層	甕	脚部					9.2					5.0	0	60
N-143	南西周溝1区1地点	下層	甕	底部			4.6								0	60
N-144	南西周溝1区33地点	下層	甕	底部			4.8								0	100
N-145	南西周溝1区	不明	甕	口縁部	7.4										25	0
N-146	南西周溝1区15・29・32地点	下層	甕	下胴部を欠く	11.6	19.7	6.5			(21.0)		3.5 (17.5)			55	50
N-147	南西周溝1区5地点	下層	甕	口縁部	(16.0)										0	0

調 整		胎 土	焼 成	色 調	備 考
内 面	外 面				
ハケメ	ハケメ	密	堅	黒褐色	
ハケメ	ハケメ	良	堅	淡灰褐色	
ハケメ	ハケメ	粗3mm～5mmの石粒多	堅	赤褐色	
ハケメ	指痕 ハケメ	粗2～3mmの砂粒多	堅	赤褐色	
ナデ	ナデ	粗3mm～5mmの石粒多	堅	赤褐色	
ハケメ ナデ	ナデ	良	堅	暗灰色	
ナデ	ハケメ	良	堅	黄褐色	
ナデ	ハケメ	良	堅	淡紅褐色	
ハケメ ナデ	ナデ	密	堅	赤褐色	3片接合
指痕 ナデ	ナデ	良	やや軟	紅褐色	
ハケメ 指痕	ハケメ ナデ	良(砂粒少)	良	淡黄褐色	
ナデ 指痕	ハケメ ナデ	良(砂粒少)	堅	黄灰色	
ナデ	ナデ	密	やや軟	淡紅灰色	
板ケズリ ナデ	5条のハケメ	砂粒多	堅	暗灰色	脚端内折 羽状クシメ
板ケズリ ナデ	4条のハケメ	密	堅	灰褐色	
ケズリ	ハケメ	良	堅	淡黄褐色	
ハケメ	へう割り	良(径6mmの石英粒少)	堅	淡赤褐色	
ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	良	良	淡黄土色	
ナデ	へうミガキ	良	堅	淡紅褐色	
不明	ハケメ	粗2～3mm砂	やや軟	淡灰黄褐色	
				暗灰色	
ハケメ	ハケメ ナデ	1～2mmの砂粒	良	暗黄褐色	
ナデ	ハケメ	良	やや軟	暗黒灰色	煤付着に口縁外側
ナデ	ハケメ	良	堅	淡紅灰色	
ナデ	へう割り	密	堅	暗灰藍色	
ナデ	ナデ	密	良	淡黄土色	赤彩
ナデ	ナデ	密	良	淡黄土色	赤彩
ハケメ	ハケメ	砂粒多	やや軟	淡黄土色	底面が厚く(2.5cm)底径が小
口縁ヨコハケ	ハケメ	良	良	淡灰褐色	体部に煤 口径>胴径
ナデ	ハケメ	良	堅	暗黄土色	口径<胴径
ハケメ ナデ	ナデ	密	堅	淡灰褐色	連弧文
ハケメ	ハケメ	2～5mmの砂粒含む	良	黄土色	
ハケメ 指痕	ハケメ	1～2mmの砂粒多	良	暗灰褐色	口唇に口条浅い沈線 赤彩
ハケメ	ハケメ	良	堅	淡紅褐色	
ナデ	ハケメ ナデ	密	堅	黄土色	口唇部玉縁状
ナデ 指痕	ハケメ ナデ	密	良	赤褐色	
ケズリ	タタキメ	2～4mmの石粒を含む	堅	赤褐色	口唇部玉縁状
ナデ	ハケメ	良	堅	淡紅灰色	脚端部内折
ケズリ ナデ	ケズリ ナデ	砂少々	良	暗黄土色	
ケズリ ナデ	ハケメ	良	良	淡灰褐色	
ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	良	良	暗灰白色	脚端部内折
ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	良	良	暗灰白色	
ケズリ	ハケメ	砂粒多	良	暗灰白色	脚端部内折
細いハケメ	太いハケメ	良	良	淡赤褐色	脚端部内折
指痕	ナデ	密	堅	黒褐色	下底部中心凹み
ハケメ	ハケメ	1cm大の溝を含む	堅	淡紅褐色	下底部上げ底
ナデ	ナデ	良	堅	淡紅褐色	
指痕 ハケメ	ハケメ ナデ	密	良	灰白色	赤彩は頸部下下上割部 下割部
(不明)	(不明)	粗(砂粒多)	やや軟	暗黄土色	羽状文 餅+坪型

棟図 番号	出土地点	層 位	部 種	部 位	法量 (cm)										口縁部 残存率	群 別
					口徑	胴径	底径	脚上 部径	脚径	器高	坯高	頸高	胴高	脚高		
N-148	南西周溝1区31地点	下層	壺	口縁部	7.8	7.4				(7.7)		2.8			22	0
N-149	南西周溝1区	上層	瓶	底部											0	5
N-150	南西周溝1区7地点	下層	壺	下胴部を欠く	12.6	23.0	5.4			(24.5)		3.0	(21.5)		28	52
N-151	南西周溝1区7地点	下層	壺	口縁部	14.0							3.5			14	0
N-152	南西周溝1区	上層	壺	口縁部	12.4							4.0			25	0
N-153	南西周溝1区4地点	下層	壺	口縁部	(13.4)							(3.5)			0	0
N-154	南西周溝1区	下層	壺	口縁部	9.0										18	0
N-155	南西周溝1区	上層	壺	口縁部	11.8							4.0			3	0
N-156	南西周溝2区	上層	壺	底部			6.0								0	100
N-157	南西周溝1区8地点	下層	壺	底部			7.4								0	13
N-158	南西周溝1区522地点	下層	壺	底部			7.8								0	76
N-159	南西周溝1区14地点	下層	壺	底部			7.8								0	100
N-160	南西周溝1区14-15地点	下層	壺	底部			5.8								0	50
N-161	南西周溝1区10-11-2地点	下層	器台	胴下部を欠く	16.6				14.0	12.9	6.5			6.4	5	12
N-162	南西周溝1区18地点	下層	高坏	坏上部・胴部	19.8			3.2	10.0	(6.8)	(6.8)			8.0	5	18
N-163	南西周溝1区24地点	下層	高坏	坏部	20.0										15	0
N-164	南西周溝1区22地点	下層	高坏	坏部	23.0										8	0
N-165	南西周溝1区9-17地点	下層	高坏	胴部				2.4	9.4					5.6	0	30
N-166	南西周溝1区	上層	高坏	胴部					12.0						0	47
N-167	南西周溝1区7-14地点	下層	高坏	胴部				4.2							0	0
N-168	南西周溝1区22地点	下層	高坏	胴部				2.4	(10.6)					(6.8)	0	0
N-169	南西周溝1区6-21地点	下層	高坏	坏部	(19.3)						(5.8)				0	0
N-170	南西周溝1区5地点	下層	高坏	坏部	17.5						(5.5)				10	0
N-171	南西周溝1区2地点	下層	高坏	胴部				(3.9)							0	0
N-172	南西周溝1区1地点	下層	高坏	胴部				3.4							0	0
N-173	南西周溝1区	上層	高坏	坏部	23.0										12	0
N-174	南西周溝1区	上層	高坏	口縁部	22.0										15	0
N-175	南西周溝1区7地点	下層	高坏	胴部				3.8							0	0
N-176	南西周溝1区15地点	下層	高坏	胴部				3.7	13.2					8.3	0	5
N-177	南西周溝2区	埋土中	壺	上胴部											0	0
N-178	南西周溝2区	埋土中	壺	口縁部											5	0
N-179	南西周溝1区	上層	壺	口縁部	20.0							3.7			25	0
N-180	南西周溝1区	上層	壺	口縁部	16.8							3.3			15	0
N-181	南西周溝1区	上層	壺	口縁部	16.2							4.0			12	0
N-182	南西周溝1区	上層	壺	口縁部	15.6							3.4			12	0
N-183	南西周溝1区	上層	壺	底部			8.8								0	38
N-184	南西周溝1区	上層	壺	胴部											0	0
N-185	南西周溝1区	上層	壺	胴部											0	0
N-186	南西周溝1区	上層	壺	胴部											0	0
N-187	南西周溝1区24地点	下層	壺	胴部											0	0
N-188	南西周溝1区5地点	下層	壺	胴部											0	0
N-189	南西周溝1区	上層	壺	胴部											0	0
N-190	南西周溝1区	上層	壺	底部			6.6								0	55
N-191	南西周溝1区19地点	下層	壺	底部											0	0
N-192	南西周溝1区	上層	壺	上胴部											0	0
N-193	南西周溝1区	上層	壺	上胴部											0	0
N-194	南西周溝1区	上層	高坏	胴部											0	0
N-195	南西周溝1区南東部	上層	壺	胴部											0	0
N-196	南西周溝1区	上層	壺	胴部											0	0

調 整		胎 上	焼 成	色 調	備 考
内 面	外 面				
ケズリ ナデ	指痕 ナデ	良	良	赤褐色	小型壺
ハケメ	ヘラミガキ	良	堅	明灰黄色	
ハケメ	指痕 ハケメ ナデ	良	堅	淡黄白色	くの字口縁 上げ底
ハケメ	ハケメ	密	堅	淡紅褐色	
ナデ	不明	粗6mmの礫	やや軟	淡赤褐色	
ナデ	ハケメ	良	やや軟	黄土色	
ヘラミガキ	不明	密	堅	淡紅褐色	
ナデ	ハケメ	良	やや軟	赤褐色	
ナデ	ナデ	良	やや軟	赤褐色	135と同一個体
ハケメ	ハケメ	密	堅	淡紅褐色	
ナデ	ナデ	砂多	良	暗黄土色	内底面に赤彩
ハケメ	指痕 ハケメ	良	やや軟	淡黄土色	紫斑痕
ナデ	ハケメ ナデ	密	堅	紅褐色	
ヘラミガキ	ヘラミガキ	密	堅	赤褐色	脚端上面に3条の刻文 2段の寛帯
ハケメ	ヘラミガキ	良	堅	淡黄褐色	赤彩は円孔部と脚端部 耳部
ヘラミガキ	ヘラミガキ	良	堅	暗灰褐色	半球形
ヘラミガキ	ヘラミガキ	密	堅	赤褐色	半球形 碗形
ケズリ	ヘラミガキ	密	堅	淡黄褐色	168と同タイプ
ハケメ	ヘラミガキ	密	堅	淡灰褐色	内増傾向
ナデ	ナデ	密	堅	淡紅褐色	
不明	不明	良	堅	淡黄褐色	165と同タイプ
ハケメ	ハケメ	密	堅	淡紅色	
ハケメ	不明	良	やや軟	淡紅褐色	
指痕 ナデ	ヘラケズリ ナデ	密	堅	赤褐色	
指痕	指痕 ナデ	密	良	淡赤褐色	
不明	不明	良2~3mmの砂粒	良	赤褐色	
不明	不明	密	堅	淡紅褐色	低い半球形
指痕 ナデ	ヘラケズリ ナデ	良	やや軟	淡赤褐色	
指痕	ヘラケズリ ナデ	密	堅	赤褐色	
ナデ	ハケメ	良	良	暗紅灰色	
ナデ	ハケメ	良	良	暗紅灰色	
ハケメ	ハケメ	良	堅	淡黄灰色	
ハケメ	ハケメ	粗4~5mmの小礫多	堅	赤褐色	
ハケメ	ナデ	密	堅	赤褐色	
ナデ	ナデ	粗2~3mmの石粒多	堅	黒褐色	
指痕	不明	粗3~7mmの礫多	やや軟	淡黄褐色	
ナデ	ナデ	良	良	赤褐色	
ナデ	ナデ	良	良	赤褐色	
ナデ	ナデ	良	良	赤褐色	
不明	ナデ	密	堅	赤褐色	
ナデ	ナデ	良	やや軟	赤褐色	
ハケメ	ハケメ ナデ	良	良	暗黄土色	下胴部と脚部の接合の方法がわかる
ハケメ ナデ	ナデ	密	良	淡紅褐色	下縁部に網代痕
不明	ナデ	良	やや軟	淡黄褐色	木の葉痕(底部)
ナデ	ナデ	良	密	淡灰褐色	
ナデ	不明	良	やや軟	灰白色	白色粘土
ナデ	ハケメ	良	堅	赤褐色	
ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	良	良	赤褐色	赤彩
ナデ	ナデ	密	良	淡灰白色	灰白色粘土 赤彩

神岡 番号	出土地点	層位	器種	部位	法量 (cm)										口縁部 存在率	総量 g
					口径	胴径	底径	脚上 部径	脚径	器高	坯高	頸高	胴高	脚高		
N-197	南西岡満1区	下層	甕	胴部											0	0
N-198	南西岡満1区	上層	甕	頂部											0	0
N-199	南西岡満1区	上層	甕	底面											0	0
N-200	南西岡満1区	上層	甕	頂部											0	0
N-201	南西岡満1区	上層	甕	底面											0	0
N-202	N-SK1	下層	甕	口縁部	17.6										5	0
N-203	N-SK1	上層	甕	口縁部	14.7										18	0
N-204	N-SK1	上層	甕	底面			7.8								0	30
N-205	N-SK1	上層	甕	口縁部	8.2										8	0
N-206	N-SK1	上層	甕	口縁部											5	0
N-207	N-SK1	上層	甕	上胴部											0	0
N-208	北東トレンチ	封土	甕	底部を欠く	17.8	22.0						2.5			15	0
N-209	北東トレンチ	封土	甕	上胴部											0	0
N-210	北東トレンチ	封土	須置器	上胴部											0	0
N-211	北西岡満	上層	甕	脚部					7.6					3.3	0	64
N-212	北西岡満	下層	甕	上胴部											0	0
N-213	北西岡満	F層	甕	上胴部-下胴部を欠く	15.2	20.6	6.4		(20.5)			3.0	(17.5)		15	10
N-214	北西岡満	上層	古銭	全形												
N-215	北東岡満	上層	甕	口縁部	17.7							1.6			5	0
N-216	北東岡満	上層	甕	口縁部											0	0
N-217	北東岡満	上層	甕	口縁部											0	0
N-218	北東岡満	上層	甕	口縁部				(3.4)							0	0
N-219	東トレンチ	封土	甕	口縁部	13.2							1.6			10	0
N-220	東トレンチ	封土	甕	口縁部	21.0							2.3			12	0
N-221	東トレンチ	封土	甕	口縁部	13.0			3.9				3.4			10	0
N-222	北東トレンチ	表土	布目瓦												0	0
N-223	東トレンチと北東トレンチの間	地山土	高坏	脚部											0	0
N-224	東トレンチと北東トレンチの間	包含層	石器・礫石													
N-225	表採(墳丘東側)	表土	甕	口縁部	15.6			5.0	—			2.0			7	0
N-226	表採(墳丘南側)	表土	甕	脚部					8.6					3.5	0	60
N-227	表採(墳丘南側)	表土	高坏	脚部											0	0
N-228	表採(墳丘北側)	表土	高坏	脚部											0	10
N-229	表採(墳丘東側)	表土	高坏	脚部											0	0
N-230	表採(墳丘北側)	表土	石器	礫石												
N-231	表採(墳丘北側)	表土	石器	附器												
N-232	南東墳丘封土	下層	高坏	脚部											0	0
N-233	南東墳丘封土	包含層	高坏	脚部											0	0
N-234	南東墳丘封土	包含層	甕	底面			5.5								0	50
N-235	南東墳丘封土	包含層	甕	上胴部											0	0
N-236	南東墳丘封土	下層	甕	底面			4.8								0	40
N-237	中央トレンチ南東中央部	包含層	高坏	口縁部	14.8										21	0
N-238	中央トレンチ南東中央部	封土3層目	高坏	脚部				2.9							0	0
N-239	中央トレンチ南東中央部	最下層	高坏	脚部											0	0
N-240	N-SB1貯蔵穴C3	底面	甕	上胴部											0	0
N-241	N-SB1東区	褐色土層	鉢	口縁部	19.6										10	0
N-242	N-SB1東区	褐色土層	甕	口縁部	14.8							3.0			11	0
N-243	N-SB1貯蔵穴C2	埋土中	高坏	口縁部	11.8										5	0
N-244	N-SB1南東区	埋土中	甕	口縁部	9.8										5	0
N-245	N-SB1貯蔵穴C2	埋土中	甕	口縁部	14.0										26	0

調 整		胎 土	焼成	色調	備 考
内 面	外 面				
ナデ	ナデ	密	良	淡灰白色	灰白色粘土 赤彩
ナデ	へう削り	良	やや軟	青灰色	
ナデ	へう削り	良	やや軟	青灰色	
ナデ	へう削り	良	やや軟	青灰色	
ナデ	へう削り	良	やや軟	青灰色	
ハケメ	ハケメ	2mmほどの砂粒	堅	赤褐色	
ナデ	ナデ	良	堅	赤褐色	
指痕	ハケメ	良	堅	明黄土色	
ナデ	ナデ	密	堅	淡黄褐色	
ヘラミガキ	ヘラミガキ	良	良	赤褐色	
ナデ	ナデ	良(5mm大の砂粒含)	良	灰褐色	
ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	良	良	暗赤褐色	上綱部赤彩
指痕	ナデ	密	堅	淡黄褐色	
ナデ	カキメ	密	堅	淡黄褐色	
ハケメ	ハケメ	良	堅	淡黄土色	
ナデ	ナデ	良	やや軟	淡黄土色	白色粘土 刺突文
ハケメ	ハケメ	良	やや軟	暗黄土色	
					(径23mm 厚さ1.2mm 寛永通寶)
ナデ	ナデ	良	やや軟	淡灰褐色	S字状口縁 口縁に鷹目斜圧痕列
ナデ	ナデ	良	堅	赤褐色	
ナデ	ナデ	3~4mmの小礫	やや軟	灰褐色	円筒形 帯掻き横線文
ハケメ	不明	密	堅	淡灰黄色	帯掻き横線文
ハケメ	ハケメ	良	堅	淡紅褐色	
ハケメ	ハケメ	良	堅	淡灰褐色	
ハケメ	ハケメ	良	堅	淡紅褐色	
		砂粒多	やや軟	暗灰色	表(太目)裏(細目)厚さ2.2cm
ハケメ	ヘラミガキ	密	堅	淡紅褐色	脚部内彎
ハケメ	ハケメ ナデ	密	堅	明赤褐色	
指痕	カキ目状 ハケメ	良	堅	淡灰褐色	
ハケメ	ハケメ ナデ	5~7mmの砂粒多	やや軟	赤褐色	
ハケメ ナデ	ヘラミガキ	密	堅	明紅褐色	下部内彎 模上文
ナデ	ヘラミガキ	密	堅	明赤褐色	
ケズリ	(不明)	良	堅	淡紅灰色	
ナデ	ナデ	良	堅	赤褐色	5条一組の横線文3段
ナデ	ナデ	良	堅	黄褐色	
ナデ	ナデ	良	堅	暗褐色	横線文
指痕	ナデ	9mm大の円礫を含む	堅	赤褐色	近中央凹み
ヘラミガキ	ヘラミガキ	密	堅	明赤褐色	碗彩
ナデ	ヘラミガキ	良	堅	淡紅褐色	
不明	不明	粗	軟	赤褐色	
ナデ	ナデ	密	堅	淡紅褐色	
ミガキ	ミガキ	良(砂礫)	堅	明黄褐色	
ナデ	ナデ	良	良	黄土色	頸部有段
不明	ヘラミガキ	良	やや軟	淡紅色	
ナデ	ナデ	密	堅	淡紅色	
ナデ	ナデ	良	やや軟	赤褐色	

挿図 番号	出土地点	層位	器種	部位	法量 (cm)										口縁部 残存率	
					口径	胴径	底径	脚上 部径	脚径	器高	坏高	頸高	胴高	脚高	残存率	割合
N-246	N-SB1南西区	埋土中	高坏	脚部				3.2							0	0
N-247	N-SB1南西区の西部	埋土中	高坏	口縁部	20.2										8	0
N-248	伝N-SB1	赤松組5層	高坏	ほぼ全形	22.0				14.6	21.9	10.5		11.4	35	53	
N-249	N-SB1	埋土中	甕	下胴部											0	0
N-250	N-SB1南西区	埋土中	甕	脚部											0	0
N-251	N-SB1南西区	上層	甕	脚部				(5.3)	10.4						0	10
N-252	N-SB1	埋土中	石蓋 甕													
N-253	N-SB1	下層(床面)	石蓋 甕													
N-254	N-SB1貯蔵穴3	底面	査	上胴部											0	0
N-255	N-SB1貯蔵穴1	埋土中	甕	上胴部											0	0
N-256	N-SB1貯蔵穴2	埋土中	査	上胴部											0	0
N-257	N-SB1南東区	埋土中	査	上胴部											10	0
N-258	N-SB1貯蔵穴2	埋土中	高坏	上胴部											3	0
N-259	N-SB1南東区	埋土中	深鉢	胴部											0	0
N-260	N-SB1南東区	埋土中	深鉢	胴部											0	0
N-261	N-SB1南東区	埋土中	深鉢	胴部											0	0
N-262	N-SB1南東区	埋土中	深鉢	胴部											0	0
N-263	N-SB2南伊址	埋土下層	高坏	坏部	22.8										19	0
N-264	N-SB2	埋土下層	高坏	坏部	18.8						(10.0)				13	0
N-265	N-SB2	埋土下層	査	上胴部											0	0
N-266	N-SB2	埋土下層	査	上胴部											0	0
N-267	N-SB2	埋土下層	甕	口縁部	18.4										12	0
N-268	N-SB2	埋土下層	甕	口縁部	11.6						2.8				20	0
N-269	N-SB2	埋土下層	甕	口縁部											5	0
N-270	N-SB2	埋土下層	甕	脚部				3.4	7.4						0	10
N-271	N-SB2伊址東	床面	敲石													
N-272	N-SB2伊址東	床面	敲石													
N-273	N-SB2伊址東	床面	石皿													

表第26 浪ノ上1号墳及び封土下の竪穴住居址出土 石器等観察表

挿図番号	出土地点	層序	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材質	備考
N-119	南東周溝	埋土中	剥片	81	80	20	102.9	サヌカイト	
N-224	北東Tと東Tの間	表採	磨石	94	64	60	550	凝灰岩	
N-230	北東Tと東Tの間	表採	砥石	85	28	8	26.8	流紋岩	
N-231	北東Tと東Tの間	表採	削器	95	49	18	98.3	不明	
N-252	N-SB1	埋土中	剥片	27	35	8	7.7	流紋岩	
N-253	N-SB1	床面	剥片	31	15	6	1.9	流紋岩	
N-271	N-SB2	床面	敲石	110	86	53	800	凝灰岩	
N-272	N-SB2	床面	敲石	131	100	41	450	凝灰岩	
N-273	N-SB2	床面	石皿	117	255	40	1840	花崗岩	焼痕
N-214	北西周溝	埋土中	寛永通寶	径23.0		1.2	3.7	銅	

調 整		胎 上	焼 成	色 調	備 考
内 面	外 面				
ケズリ	ハケメ ナデ	良	やや軟	暗赤褐色	
ヨコナデ	ヘラミガキ	密	堅	暗黄褐色	
ハケメ ナデ	ナデ	良(1~3mmの白砂含む)	堅	暗赤褐色	
ハケメ	ハケメ	良	堅	淡紅緑色	
ケズリ	ハケメ	密	堅	淡紅灰色	
ケズリ	ハケメ	良	堅	赤褐色	
				淡黄灰色	白色変岩
				白灰色	白色変岩
ナデ	ナデ	密	堅	淡紅褐色	240と同類
ナデ	縄文	良	堅	淡黄土色	
ナデ	ナデ	良	堅	赤褐色	
ナデ	ナデ	密	堅	明紅褐色	
ナデ	ナデ	密	堅	淡紅褐色	
ナデ	条痕	砂粒多	堅	赤褐色	水神平式土器
ナデ	条痕	砂粒多	堅	赤褐色	水神平式土器
ナデ	条痕	砂粒多	堅	黄褐色	水神平式
ナデ	条痕	砂粒多	堅	黒褐色	続水神平式
ヘラミガキ	ヘラミガキ	良	やや軟	明黄褐色	白色粘土
ヘラミガキ	ヘラミガキ	密	堅	淡紅褐色	内罫
ナデ	ナデ	良	良	赤褐色	
ナデ	ナデ	密	堅	灰褐色	
ハケメ	ハケメ	良	堅	淡紅褐色	
ハケメ	ハケメ	密	堅	赤褐色	
ハケメ	ハケメ	密	堅	赤褐色	
ケズリ	ナデ	良	やや軟	赤褐色	
				暗灰白色	
				暗灰白色	
				灰白色	

表第27 稲荷山2号墳及び封土下の竪穴住居址出土 土器観察表

挿図 番号	出土地点	層位	器種	部位	法量 (cm)										口縁部 結片
					口径	胴径	底径	脚上 径	器高	坯高	頸高	胴高	脚高	口縁部	
I-1	土溝I-SK1	底面	灰	ほぼ全形	10.2		3.6		4.2					52	100
I-2	土溝I-SK1	底面	灰	ほぼ全形	11.8		4.4		5.2					51	20
I-3	土溝I-SK1	底面	灰	灰部	20.0									15	0
I-4	土溝I-SK1	埋土中	灰	底面			6.2							0	12
I-5	第5レンテ	埋土層	灰	口縁部	17.6						1.7			13	0
I-6	第5レンテ	埋土層	灰	口縁部	29.6									12	0
I-7	第5レンテ	埋土層	灰	口縁部	26.8									15	0
I-8	第5レンテ	下層	灰	口縁部	17.2						2.3			13	0
I-9	第5レンテ	下層	灰	口縁部	23.2						2.5			11	0
I-10	第5レンテ	下層	灰	上胴部										0	0
I-11	第5レンテ	地山床面	灰	上胴部										0	0
I-12	第5レンテ	地山床面	灰	上胴部										0	0
I-13	第5レンテ	地山床面	灰	上胴部										0	0
I-14	第5レンテ	地山床面	灰	上胴部										0	0
I-15	南東周溝	埋土層	灰	口縁部	14.2						4.0			12	0
I-16	南東周溝	埋土層	灰	脚部										0	0
I-17	墳丘東部	埋土層	灰	上胴部										0	0
I-18	SB-1	壁構内	灰	口縁部										6	0
I-19	SB-1	壁構内	灰	口縁部	8.2									15	0
I-20	SB-1	壁構内	灰	肩部										0	0
I-21	SB-1	壁構内	灰	上胴部										0	0
I-22	SB-1	埋土層	灰	上胴部										0	0
I-23	SB-1	埋土層	灰	上胴部										0	0
I-24	SB-1	埋土層	灰	上胴部										0	0
I-25	SB-1	炉址上面	灰	頸部										0	0
I-26	SB-1	埋土中	灰	底面			4.6							0	38
I-27	SB-1	床面伊上	高環	脚部					11.6					0	8
I-28	SB-1	炉址	高環	脚部					9.2					0	35
I-29	SB-1	炉址上面	高環	脚部										0	0
I-30	SB-1	床面伊上	灰	口縁部	20.2						1.9			8	0
I-31	SB-1	埋土中	灰	口縁部	19.2									30	0
I-32	SB-1	炉址上	灰	ほぼ全形	17.2				10 (24.6)		1.6			40	2
I-33	SB-1	埋土中	灰	口縁部	19.6									15	0
I-34	SB-1	床面伊上	灰	口縁部	11.8						1.6			10	0
I-35	SB-2	床面	灰	口縁部	14.8						1.4			12	0
I-36	南西周溝	地山面上	石器	石刃											
I-37	SB-1	竪穴壁面	石器	磨石											
I-38	SB-1	炉近辺	石器	炉端石											
I-39	SB-1	炉近辺	石器	炉端石											

表第28 稲荷山2号墳及び封土下の竪穴住居址出土 石器等観察表

挿図番号	出土地点	層序	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材質	備考
I-36	南西周溝	地山面	石刃	25	31	7	8.5	チャート	
I-37	封土下	黒褐色有機土層	磨石	62	63	49	170.9	花崗岩	
I-38	I-SB1	床面	炉端石	238	66	36	920	泥岩	焼痕
I-39	I-SB1	床面	炉端石	267	110	91	2550	流紋岩	焼痕

調 整		胎 土	焼 成	色 調	備 考
内 面	外 面				
ナデ	ナデ	良	堅	赤褐色	碗内面に赤彩(7mm)
ナデ	ナデ	良	堅	赤褐色	
ナデ	ハケメ ナデ	良	堅	赤褐色	
不明	不明	密	やや軟	暗黄褐色	
ハケメ	ハケメ	2mm大の砂粒多	堅	灰黄色	
ヨコナデ	ナデ	良	堅	黒褐色	
ハケメ	ハケメ	良	堅	淡紅褐色	
ケズリ	ヘラミガキ	良	堅	淡紅褐色	
ハケメ	ハケメ ナデ	良	堅	淡黄褐色	
ナデ	ハケメ	2~4mmの砂粒多	やや軟	赤褐色	
ナデ	ナデ	良	堅	赤褐色	
ナデ	ナデ	良	堅	赤褐色	白色粘土
ナデ	ナデ	良	堅	赤褐色	
ナデ	ナデ	良	堅	赤褐色	
ナデ	ナデ	密	やや軟	明黄褐色	
ナデ	ナデ	粗	堅	赤褐色	脚中実
ナデ	ハケメ	良	堅	暗黄土色	
ナデ	ナデ	良	やや軟	淡黄褐色	白色粘土
ナデ	ナデ	良	やや軟	淡黄褐色	白色粘土
ナデ	ナデ	良	やや軟	淡黄褐色	白色粘土
ナデ	ナデ	良	やや軟	淡黄褐色	白色粘土
ナデ	ナデ	良	堅	黄褐色	
ナデ	ナデ	1~3mmの白砂粒多い	堅	赤褐色	
ナデ	ナデ	良(1mmほどの砂粒少)	堅	淡黄褐色	白色粘土
ナデ	ナデ	良	堅	明紅褐色	
ハケメ	ヘラミガキ	良	堅	暗灰褐色	突出型外底中心凹み
ハケメ	ヘラミガキ	良	堅	明紅褐色	脚端内彎
ハケメ	(不明)	粗3~6mmの小礫	軟	暗黄褐色	
ナデ	ヘラケズリ ナデ	6~7mmの白石灰粒多	やや軟	赤褐色	
ケズリ 微痕	ハケメ	3mm大の小礫少	堅	暗赤褐色	
ハケメ	ハケメ	良	堅	暗赤褐色	
ナデ	ハケメ ナデ	良	堅	赤褐色	胴下半部、炭化物付着
ハケメ	ハケメ	密	堅	暗赤褐色	内面炭化物付着
ハケメ	ハケメ	良	堅	灰褐色	
ナデ	ハケメ	密	やや軟	淡灰褐色	
				灰白色	チャート
				灰褐色	花崗岩
				灰褐色	泥岩
				灰白色	流紋岩